

男女平等推進のための
小金井市職員の意識調査
報告書

令和2年3月

小金井市企画財政部企画政策課

男女平等都市宣言

平成8年12月3日

告示第99号

私たちは、誰もが人間として尊ばれ、また、自らの個性にあった生き方を自由に選択できる社会を願っています。

そのため、個人の尊厳と両性の平等を基本理念として社会的、文化的、歴史的な性差を排し、職場、家庭、学校、地域などすべての領域での真の平等をめざして、ここに「男女平等都市」を宣言します。

- 1 私たちは、人権を尊重し、互いの性を認め支えあい、いきいきと充実した人生がおくれる男女平等の「小金井市」をめざします。
- 1 私たちは、一人ひとりが共に個性や能力を発揮し、社会のあらゆる分野に男女が共同参画できる「小金井市」をめざします。
- 1 私たちは、男女が共にかげがえのない地球の環境を守り、平和と平等の輪を世界へ広げる「小金井市」をめざします。

はじめに

小金井市では、平成8年12月に、市と市民が一体となり男女平等社会の実現に向かって努力していくことを目的として男女平等都市宣言を制定し、平成15年7月には、男女共同参画施策を総合的にかつ効果的に推進し、男女平等社会を実現することをめざして男女平等基本条例を施行しました。

現在、平成29年度から令和2年度までを計画の期間とする第5次男女共同参画行動計画を策定し、男女共同参画推進の施策に取り組んでいます。

施策を推進するためには、職員一人ひとりが男女平等を推進していく担い手であることを認識し、持続的に取り組むことが重要です。また、男女ともに働きやすい職場環境整備を進める必要があります。

本調査を通じて、男女平等を改めて問い直し、今後の職務遂行や働きやすい職場づくりの参考になれば幸いです。

令和2年3月

小金井市企画財政部企画政策課

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査の方法、回収状況	3
3. 調査項目	3
4. 調査結果を見るうえでの注意事項	3
第2章 調査結果のまとめ	5
第3章 調査回答者の属性	11
1. 基本属性	13
(1) 性別	13
(2) 年齢	13
(3) 婚姻状況	14
(4) 共働きの状況	14
(5) 同居者	15
(6) 職層	15
第4章 調査結果の詳細	17
1. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	19
(1) 家事・育児・介護に携わる時間（平日・休日）	19
(2) 仕事に携わる時間	22
(3) 生活における優先度（現実・理想）	23
(4) 男女の役割分担意識	27
(5) 女性が仕事を持つことに対する考え	30
(6) 女性が継続して仕事をもつ方がよいとする理由	32
(7) 女性が継続して仕事を持たない方がよい理由	35
(8) 女性の就労継続のために必要なこと	37
(9) 男女ともに働きやすい社会をつくるために必要だと思うこと	40
2. 子育て・介護について	43
(1) 男性の家事・育児の参加について	43
(2) 育児・介護休業制度の利用意向	46
(3) 職場の育児・介護休業制度利用者について	49
3. 地域活動・社会活動について	53
(1) 隣近所との付き合いの状況	53
(2) 地域活動の参加状況	55
(3) 地域活動への参加効果	57
(4) 地域活動への参加に必要なこと	58

4. 仕事や職場に関することについて	60
(1) 希望する役職	60
(2) 上級職を望まない理由	62
(3) 市の仕事における男女平等観	64
(4) セクハラ等の被害経験	66
(5) 相談窓口の認知度	67
(6) 日頃心がけていること	68
5. 男女平等をさらに進めるための方策などについて	71
(1) 各分野の男女平等観	71
(2) 市の施策・取組及び男女共同参画に関することばの認知状況	74
(3) 審議会等の女性委員比率について	80
(4) 必要な施策	82
(5) 性的マイノリティの方への対応について	85
(6) 性的マイノリティの方に対して必要だと思う取組	87
(7) 自由記述	89
第5章 調査票	93

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

本調査は、「第5次男女共同参画行動計画」の計画期間が令和2年度に満了するため、令和3年度以降の新たな計画の策定に向け、男女共同参画への意識啓発を図るとともに、男女平等に関する市職員の考えを把握し、今後の推進の基礎資料とすることを目的として実施した。

2. 調査の方法、回収状況

調査対象者：全職員997人（再任用職員・非常勤嘱託職員を含む）

調査方法：庁内配布・回収

調査期間：令和元年10月1日（火）～10月15日（火）

調査機関：(株)サーベイリサーチセンター

回収状況：721件／997件（72.3%）

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
女性職員	576	390	390	67.7%
男性職員	421	309	309	73.4%
そのほか	—	1	1	—
性別不明	—	21	21	—
合計	997	721	721	72.3%

3. 調査項目

1. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
2. 子育て・介護について
3. 地域活動・社会活動について
4. 仕事や職場に関することについて
5. 男女平等をさらに進めるための方策などについて
6. 自由記述

4. 調査結果を見るうえでの注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ間）においても、四捨五入の影響で、%を足しあわせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい間）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・職層別における「一般職」は、係長職、主任職、主事職、再任用職員をまとめたものである。

第2章 調査結果のまとめ

1. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について(P19-42)

1日あたりの家事と仕事に携わる時間 [P19~22]

- ・平日の家事に携わる時間は、女性では「3時間以上」が28.9%、男性では「1時間以上」が25.9%となっている。休日は、平日より多くの時間があてられており、女性では「3時間以上」が51.0%、男性では「1時間以上」が55.4%となっている。平日の育児に携わる時間は、女性では「3時間以上」が20.2%、男性では「1時間以上」が18.4%となっている。休日は、男女とも「5時間以上」が最も高く、女性が20.8%、男性が11.7%となっている。介護に携わる時間は、男女とも平日、休日のどちらも2割未満となっている。
- ・仕事に携わる時間は、男女とも「8時間以上~10時間未満」が女性では46.4%、男性では49.5%で最も高い。

生活における優先度(現状・理想) [P23~26]

- ・現実(現状)における生活の優先度は、男女とも「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が3割台で最も高い。理想の優先度は、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が男女ともが3割前後となっている。職層別で現実の優先度をみると、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」は非常勤嘱託、一般職で高くなっているが、管理職は「『仕事』を優先している」が高くなっている。

男女の役割分担意識(男性は仕事、女性は家庭) [P27~29]

- ・男女の役割分担意識は、男女とも《反対》が《賛成》を上回っている。

女性が仕事を持つことについての考え [P30~36]

- ・女性が仕事を持つことに対する考えは、男女とも「結婚や出産にかかわらず、継続して仕事をもつほうがよい」が最も高い。職層別でみると、「結婚や出産にかかわらず、継続して仕事をもつほうがよい」はどの職層も半数以上で高いが、非常勤嘱託は「出産や子育ての時期は仕事を辞め、その後は仕事をもつほうがよい」がほかの職層と比較して高くなっている。
- ・女性が仕事をもつ方がよいとする理由は、「社会とつながりを持つべきだと思うから」が最も高く、女性が継続して仕事を持たない方がよい理由は、「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」が最も高い。「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」は一般職で5割半ばと高くなっている。

女性の就労継続のために必要なこと [P37~39]

- ・女性の就労継続のために必要なことは、「保育施設や学童保育所など、子どもを預けられる環境の整備」が78.9%で最も高く、女性が特に高く、おおむね8割以上となっている。

男女ともに働きやすい社会をつくるために必要だと思うこと [P40~42]

- ・男女ともに働きやすい社会をつくるために必要だと思うことは、「労働時間の短縮やフレックス制など様々な働き方を選ぶことができる」が最も高く、次いで「性別やライフスタイルに関係なく、すべての人が働きやすい職場環境を整備する」、「保育施設や保育サービスの充実」が続く。「労働時間の

短縮やフレックス制など様々な働き方を選ぶことができる」は女性20歳代から40歳代、男性20歳代、60歳以上で7割台と高く、「保育施設や保育サービスの充実」は女性20歳代で9割近くと高い。

2. 子育て・介護について(P43-52)

男性の家事・育児の参加について [P43~45]

- ・男性の家事・育児参加については、「男性も家事・育児を行うのがあたりまえだと思う」が70.3%で最も高く、すべての性・年代で高い。

育児・介護休業制度の利用意向 [P46~48]

- ・育児休業制度の利用意向は、「利用したい」は女性が81.8%、男性が48.9%となっており、女性が男性よりも33ポイント高い。「利用したいが利用できそうにないと思う」は男性が26.9%で女性(6.2%)よりも21ポイント高くなっている。介護休業制度の利用意向も、「利用したい」は女性が76.7%で男性(55.3%)よりも21ポイント高い。

職場の育児・介護休業制度利用者について [P49~52]

- ・職場の育児・介護休業制度利用者については、女性も男性も「抵抗はない」が多数を占めている。職層別でみると、男性が育児休業を取ることで「抵抗はない」は管理職で8割半ば、非常勤嘱託で8割を超えて高くなっている。

3. 地域活動・社会活動について(P53-59)

隣近所との付き合いの状況 [P53~54]

- ・隣近所との付き合いの状況は、「あいさつや立ち話をする程度の人がいる」が最も多い。

地域活動への参加状況 [P55~57]

- ・地域活動への参加状況は、「特に参加していない」が最も高いが、参加している活動のなかでは、「自治会・町内会などの地域活動」が2割近くで最も高い。
- ・地域活動への参加効果は、「プラスになっている」が69.4%、「プラスになっていない」が13.3%となっている。

地域活動への参加に必要なこと [P58~59]

- ・地域活動への参加に必要なことは、「健康であること」、「活動するきっかけや仲間がいること」が半数以上で高い。

4. 仕事や職場に関することについて(P60-70)

希望する役職 [P60~61]

- 希望する役職は、「特に昇進したいと思わない」が44.8%で最も高い。「特に昇進したいと思わない」は女性が51.8%で男性(38.5%)よりも13ポイント高くなっている。

上級職を望まない理由 [P62~63]

- 上級職を望まない理由は、「魅力を感じない」が57.1%で最も高く、次いで「自分の能力に不安」が45.1%、「責任が重くなる」が40.8%となっている。女性では「家庭との両立が難しい」が48.8%で高くなっている。

市の仕事における男女平等観 [P64~65]

- 市の仕事における男女平等観は、「男女平等である」は“研修・勉強の機会”、“職場の情報伝達”が半数を超えて高くなっている。

セクハラ等の被害経験 [P66]

- セクハラ等の被害経験は、「受けていないし、受けた人も知らない」が女性で80.5%、男性で80.6%となっている。「女性で受けた人を知っている」は女性で11.0%、男性で13.9%となっている。

セクハラ等の相談窓口の認知度 [P67]

- セクハラ等の相談窓口の認知度は、男女とも「知っている」が「知らない」を上回っているが、「知っている」は男性が70.6%で女性(56.7%)よりも14ポイント高くなっている。

日頃心がけていること [P68~70]

- 日頃「心がけている」ことは、“市民との接遇において、性差別的な用語に気をつける”が高い。職層別に「心がけていること」をみると、どの項目も管理職が最も高く、次いで一般職、非常勤嘱託となっている。

5. 男女平等をさらに進めるための方策などについて(P71-88)

各分野の男女平等観 [P71~73]

- 《男性優遇》では、“社会通念・慣習・しきたりなど”、“政治の場”が6割台、“社会全体として”が半数で高い。一方、《女性優遇》は“職場”、“家庭生活”が1割台となっている。

小金井市のこれまでの施策・取組の認知状況 [P74~76]

- 市の施策・取組の認知状況は、「知っている」は“情報紙「かたらい」”、“小金井市第5次男女共同参画行動計画(平成28年策定)”、“男女平等都市宣言(平成8年12月に宣言)”、“こがねいパレット”、“小金井市男女平等基本条例(平成15年施行)”で高くなっている。一方、「知らない」は“女性談話室(婦人会館内)”が高い。

第2章 調査結果のまとめ

男女共同参画に関わることばの認知状況 [P77~79]

- ・男女共同参画に関わることばで「知っている」は、各種ハラスメントが8割台、“ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）”、“LGBT（性的マイノリティ）”が7割台と高くなっている。一方、「知らない」は“リプロダクティブ・ヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康・権利）”、“ポジティブ・アクション（積極的改善措置）”で高くなっている。

審議会等の女性委員比率について [P80~81]

- ・審議会等の女性委員比率については、男女とも「適任であれば性別を問わなくてもよい」が高い。

施策要望 [P82~84]

- ・必要な施策は、「子育て支援策の充実」、「女性が働きやすい環境づくりの促進」が半数以上で高い。「子育て支援策の充実」はすべての職層で半数以上と高く、非常勤嘱託で6割を超えて高い。「女性が働きやすい環境づくりの促進」も非常勤嘱託で6割を超えて高い。

性的マイノリティの方への対応と必要な取組について [P85~86]

- ・性的マイノリティの方への対応については、男女とも「必要だと思う」が高くなっている。

性的マイノリティの方に対して必要だと思う取組 [P87~88]

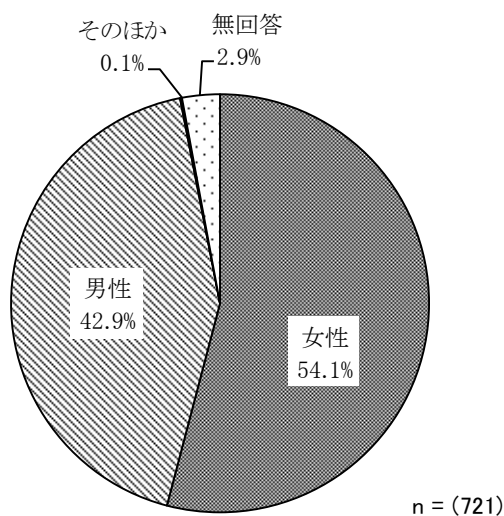
- ・性的マイノリティの方に対して必要だと思う取組は、「学校や、市役所の窓口での対応の充実を図るため、教員や市職員に対して研修等の充実を図る」が最も高くなっているが、すべての取組が6割台で高くなっている。

第3章 調査回答者の属性

1. 基本属性

(1) 性別

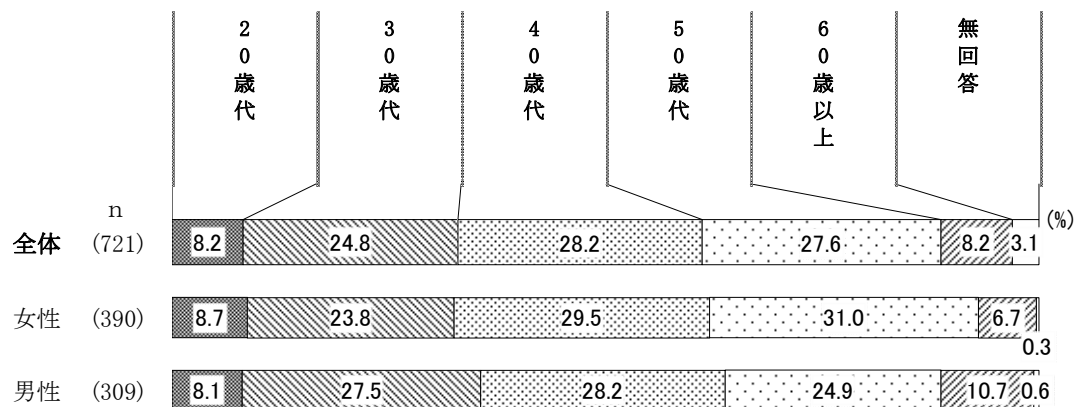
F 1 あなたの性別は。(○は1つ)



性別は、「女性」が54.1%、「男性」が42.9%、「そのほか」が0.1%となっている。

(2) 年齢

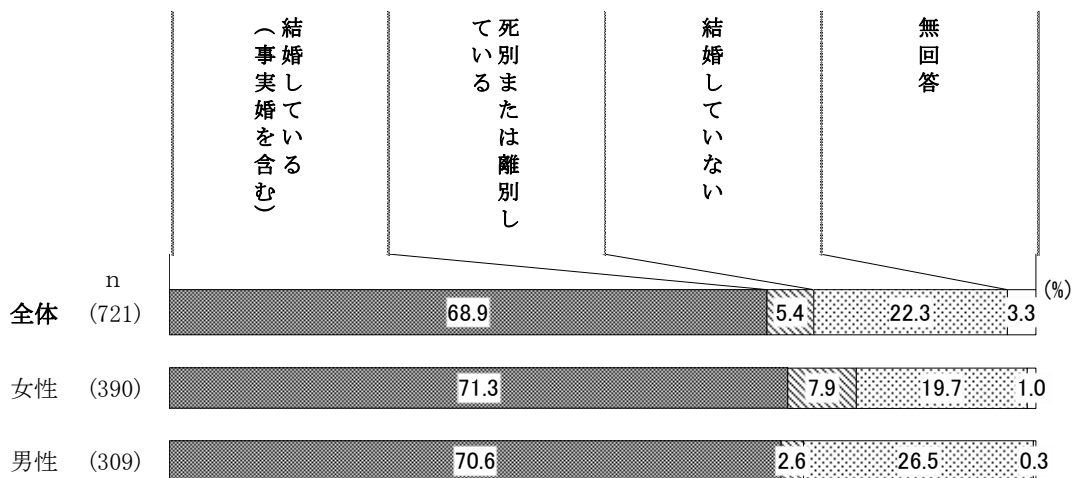
F 2 あなたの年齢は。(○は1つ)



年齢は、女性で「50歳代」が31.0%で最も高く、男性で「40歳代」が28.2%で最も高くなっている。

(3) 婚姻状況

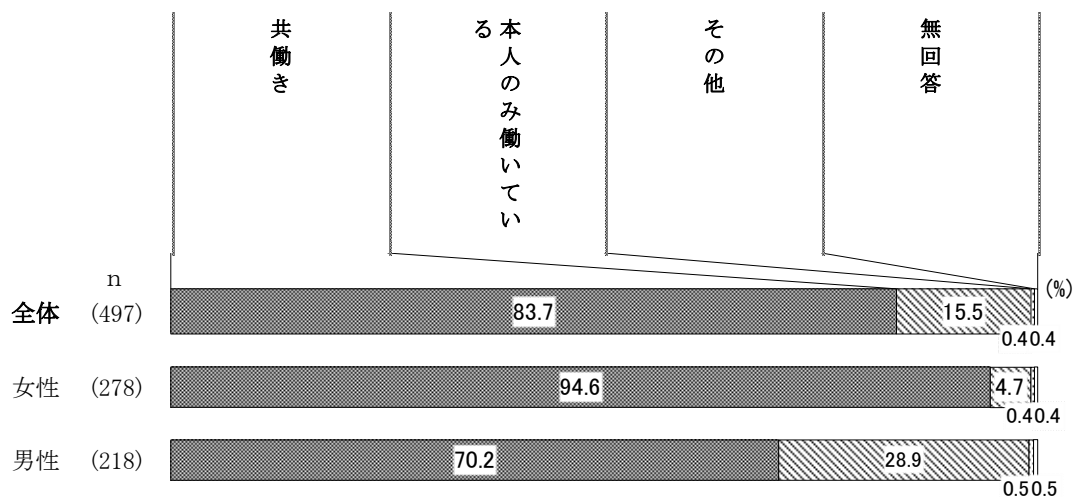
F 3 あなたは結婚していますか。(○は1つ)



婚姻状況は、「結婚している（事実婚を含む）」が女性で71.3%、男性で70.6%となっている。

(4) 共働きの状況

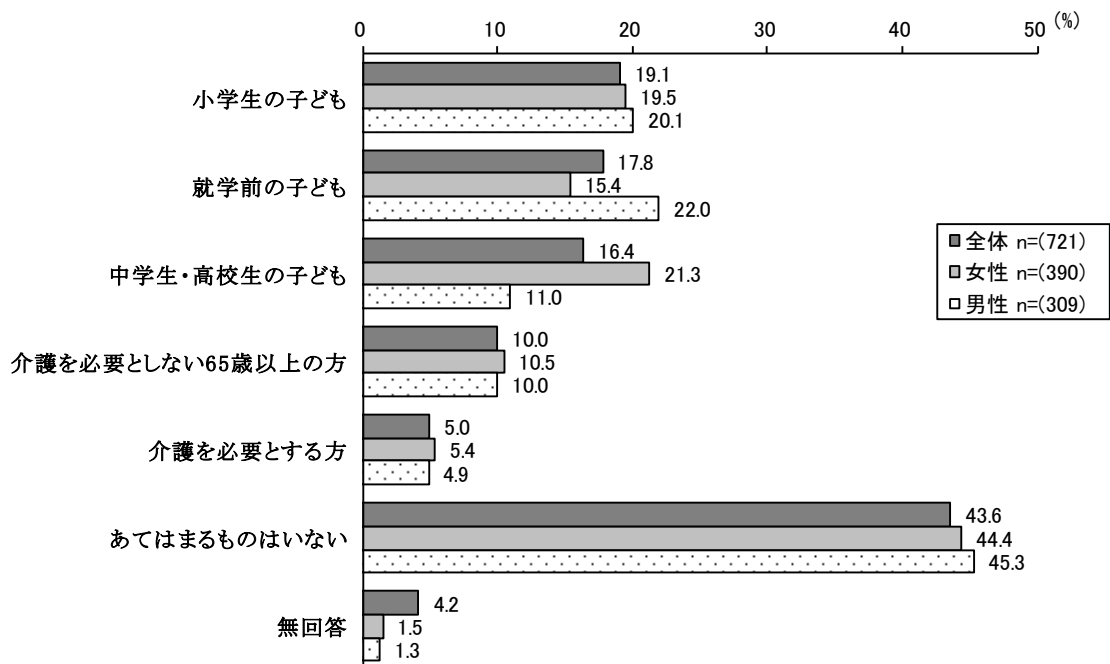
【F 3で「1 結婚しています（事実婚を含む）」と回答した方】
 F 3-1 あなたのご家庭の現在の勤労形態はどれですか。(○は1つ)



共働きの状況は、「共働き」は女性で94.6%、男性で70.2%となっている。男性では「本人のみ働いている」が28.9%となっている。

(5) 同居者

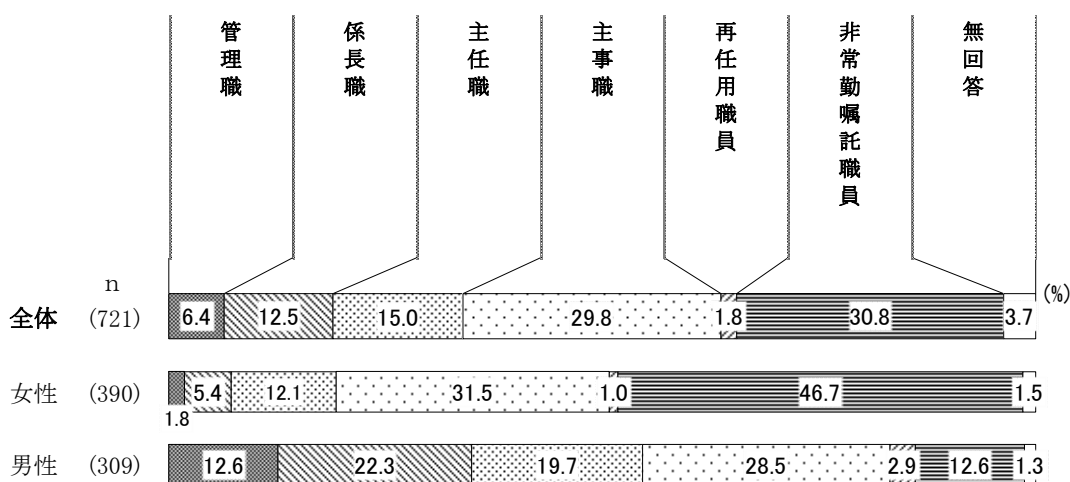
F 4 あなたは、次の方と同居していますか。(あてはまるものすべてに○)



同居者は、女性では「中学生・高校生の子ども」が21.3%、男性では「就学前の子ども」が22.0%で最も高くなっている。また「あてはまるものはいない」は男女とも4割台となっている。

(6) 職層

F 5 あなたの職層は。(○は1つ)



職層は、女性では「非常勤嘱託職員」が46.7%、男性では「主事職」が28.5%で最も高くなっている。

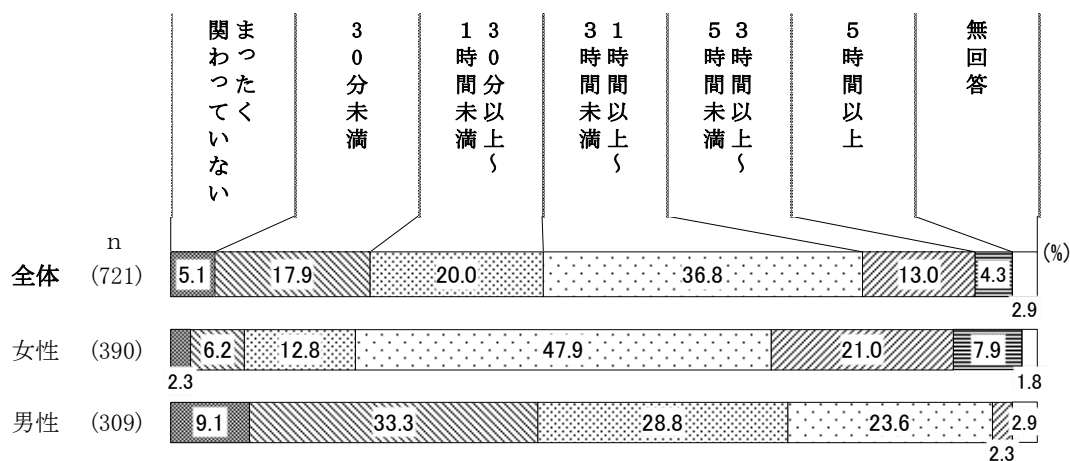
第4章 調査結果の詳細

1. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

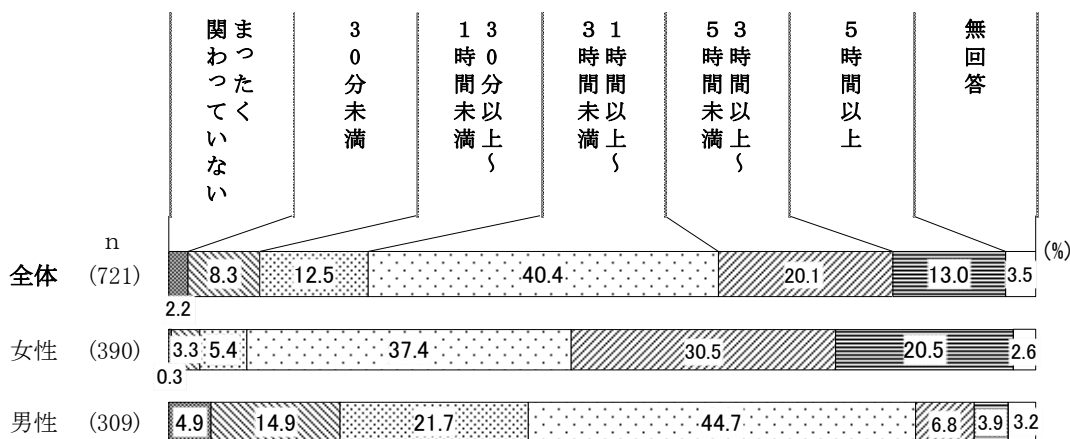
(1) 家事・育児・介護に携わる時間（平日・休日）

問1 あなたが「A. 家事」、「B. 育児」、「C. 介護」に携わる時間は、1日あたりどれくらいですか。（①平日、②休日それぞれ〇は1つ）

A. 家事（平日）



A. 家事（休日）

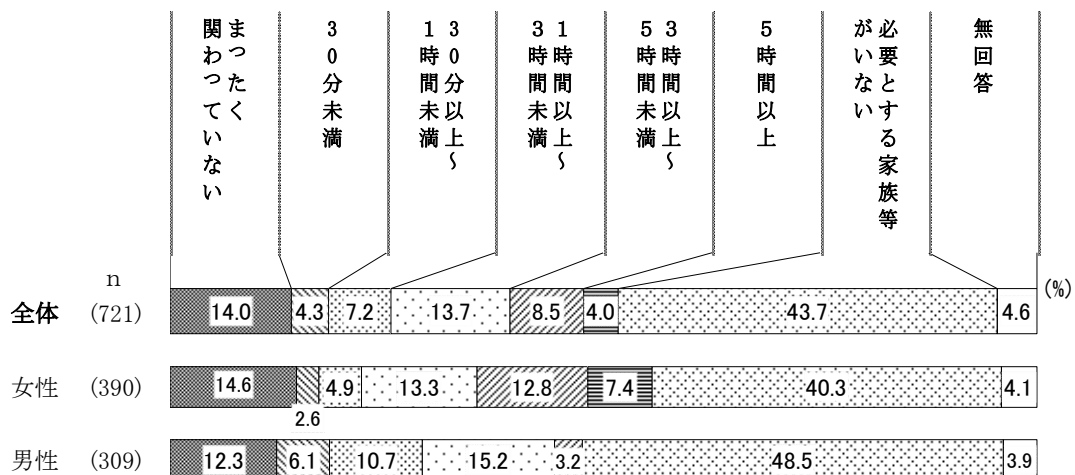


平日の家事に携わる時間は、女性では「3時間以上」が28.9%、男性では「1時間以上」が25.9%となっている。

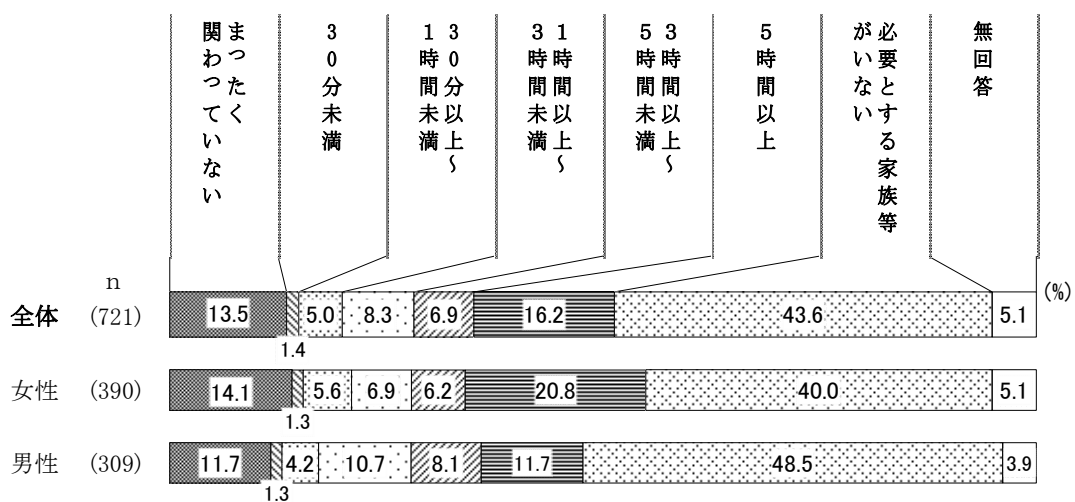
休日は、平日より多くの時間があてられており、女性では「3時間以上」が51.0%、男性では「1時間以上」が55.4%となっている。

第4章 調査結果の詳細

B. 育児（平日）



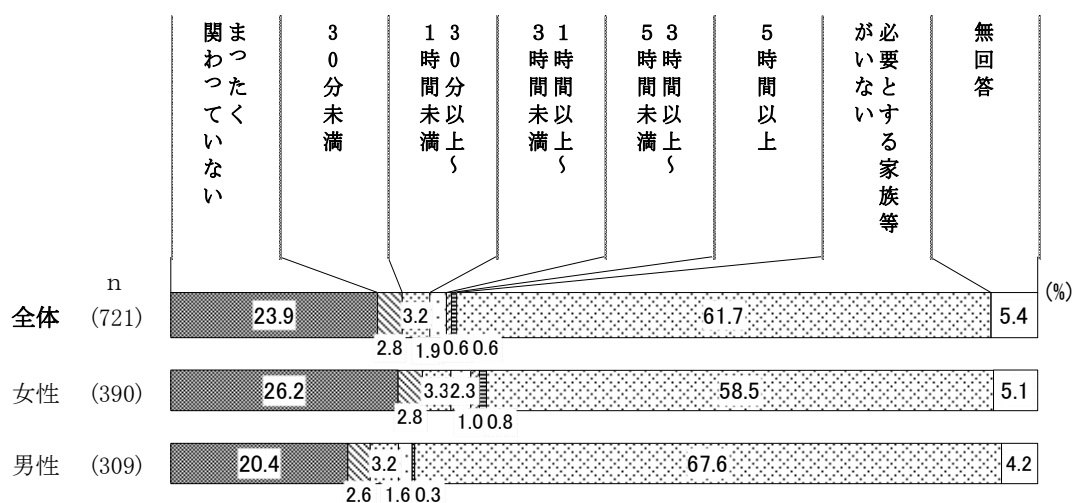
B. 育児（休日）



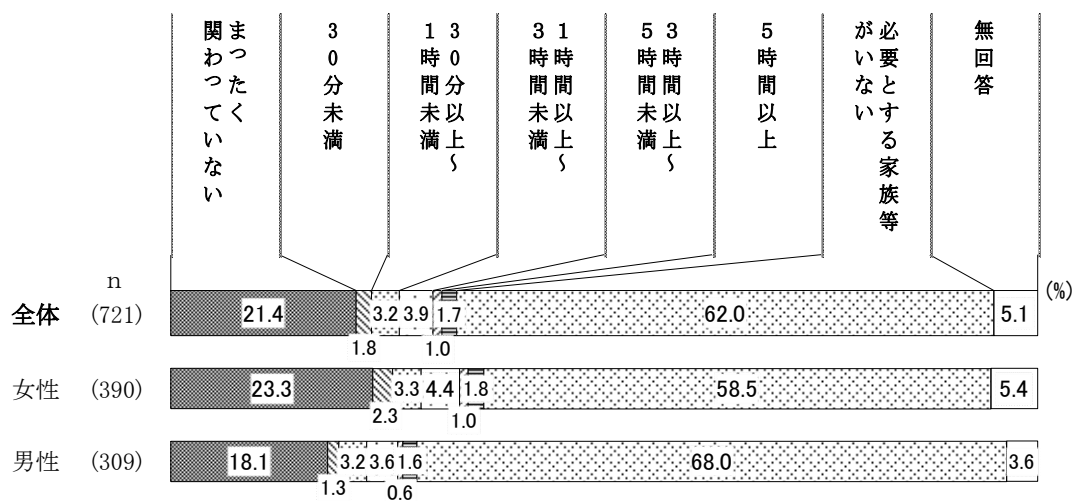
平日の育児に携わる時間は、女性では「3時間以上」が20.2%、男性では「1時間以上」が18.4%となっている。

休日は、男女とも「5時間以上」が最も高く、女性が20.8%、男性が11.7%となっている。

C. 介護（平日）



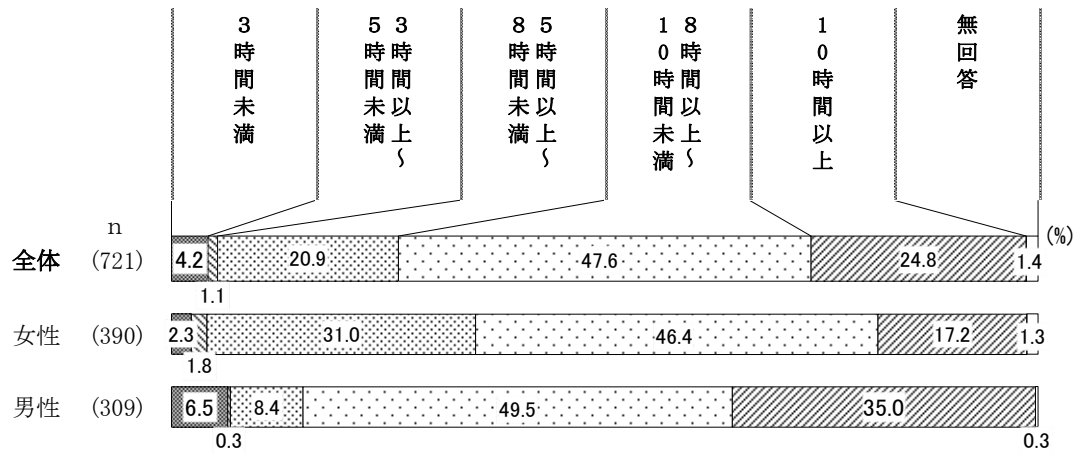
C. 介護（休日）



介護に携わる時間は、男女とも平日、休日のどちらも1割未満で、「まったく関わっていない」が2割前後となっている。

(2) 仕事に携わる時間

問2 現在、あなたが仕事（通勤に係る時間も含む）に携わる時間は、1日あたりどれくらいですか。（○は1つ）

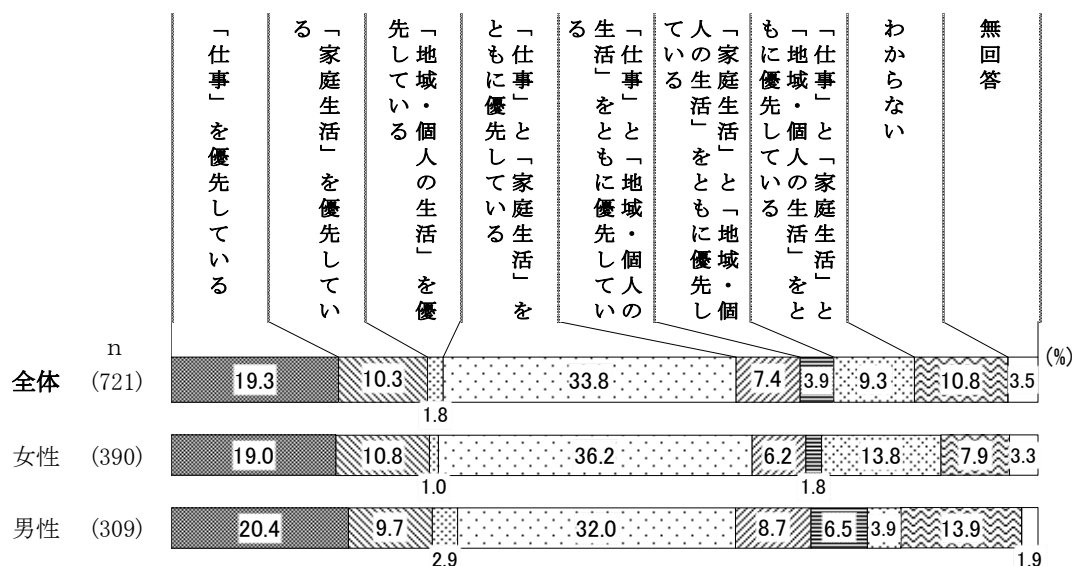


仕事に携わる時間は、男女とも「8時間以上～10時間未満」が女性では46.4%、男性では49.5%で最も高くなっている。

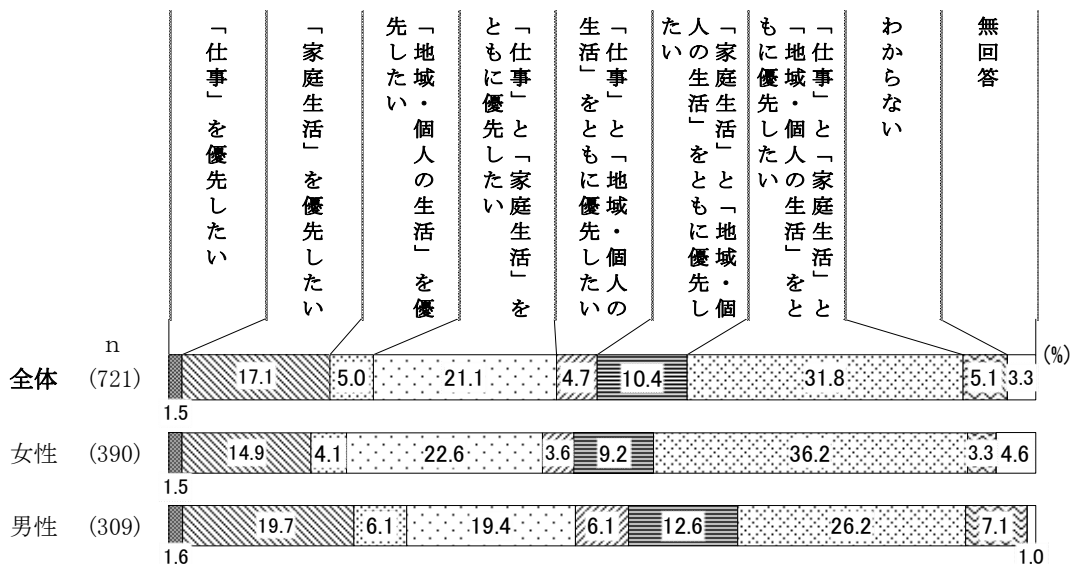
(3) 生活における優先度（現実・理想）

問3 あなたご自身の、生活の中での、仕事、家庭生活、地域・個人の生活（地域活動、趣味・学習、つき合い等）の優先度についておうかがいします。（それぞれ〇は1つ）

① 現実（現状）



② 理想



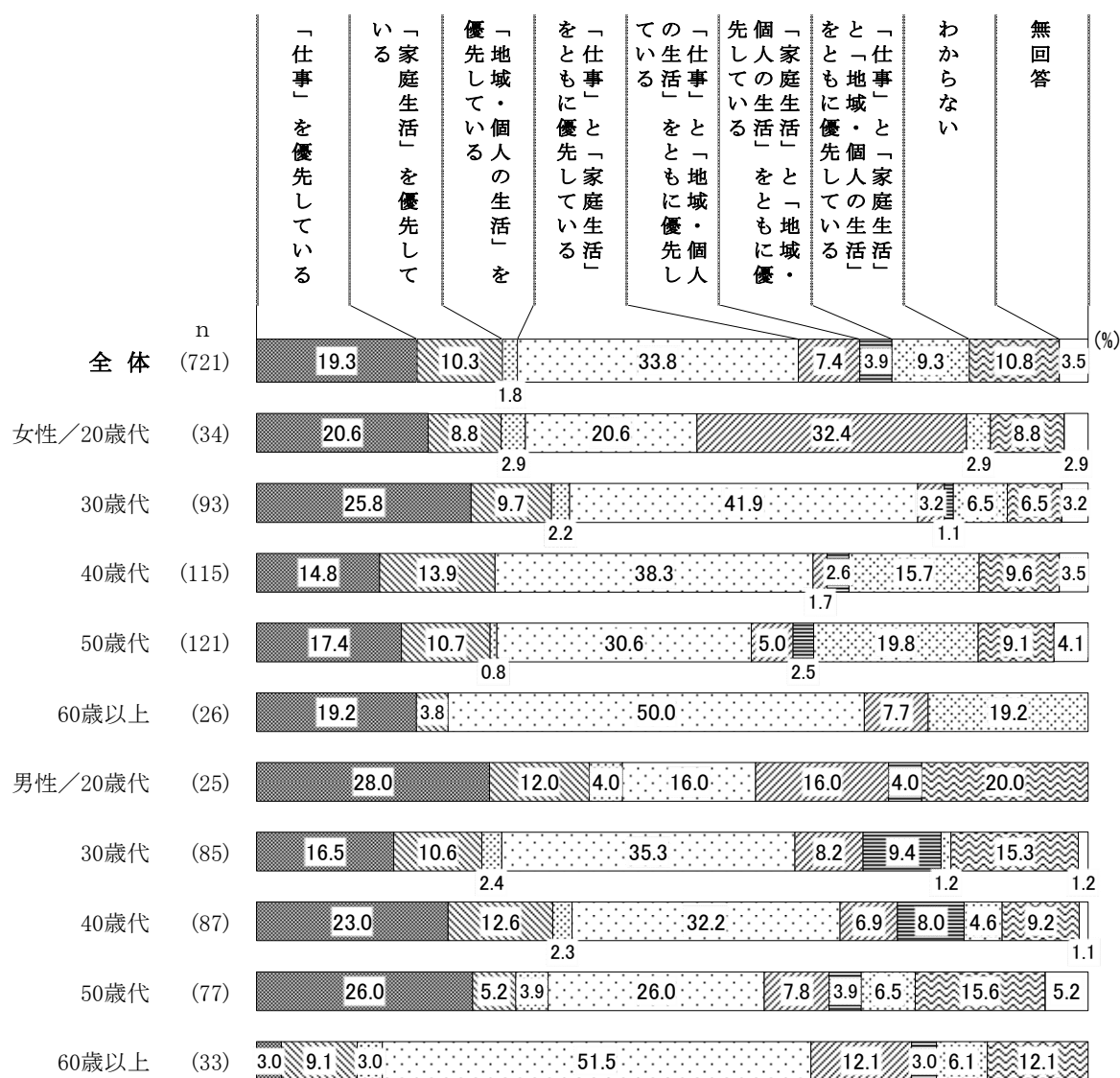
現実（現状）における生活の優先度は、男女とも『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が3割台で最も高く、『仕事』を優先している」が2割前後となっている。

理想の優先度は、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が男女ともが3割前後となっている。

【年代別】

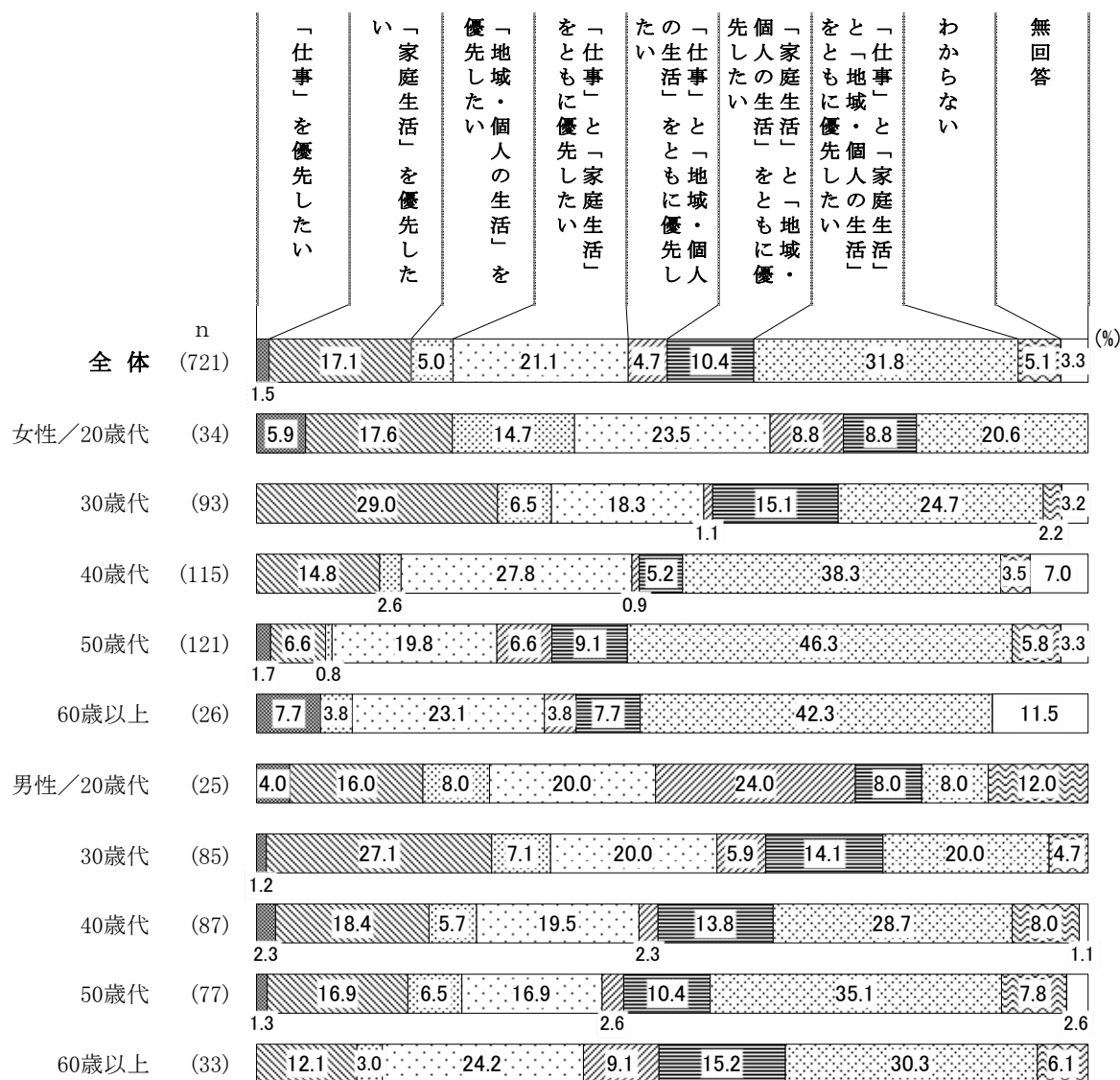
性・年代別でみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」は男女60歳以上で半数以上と高く、女性30歳代も4割を超えて高くなっている。『仕事』を優先している」は男性20歳代、50歳代で2割以上と高くなっている。『仕事』と『地域・個人の生活』をともに優先している」は女性20歳代で3割半ばと高くなっている。

①現実（現状）



性・年代別でみると、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したいは女性50歳代で4割半ば、女性60歳以上で4割を超えて高くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいは女性40歳代で3割近くと高く、『家庭生活』を優先したいは男女30歳代で3割近くと高くなっている。

②理想

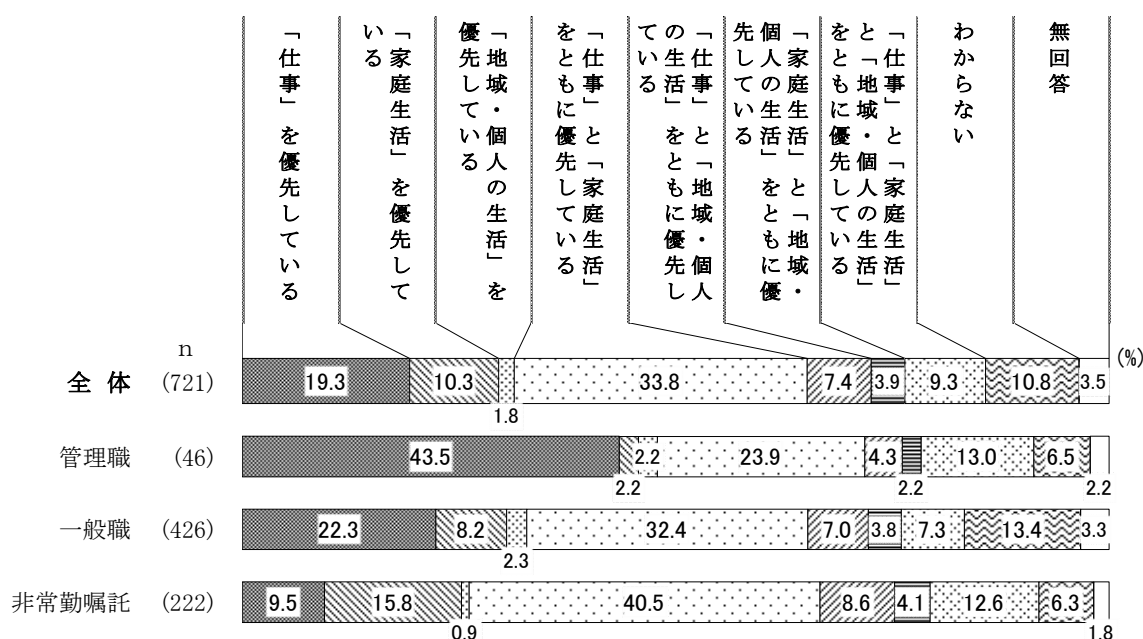


【職層別】

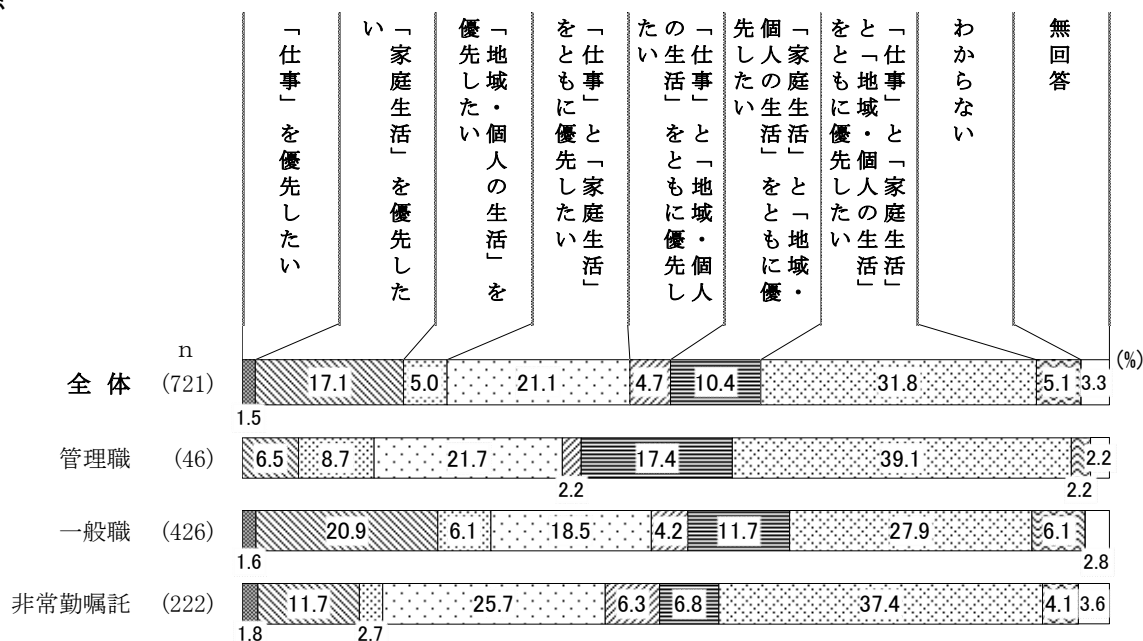
職層別でみると、現実で『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」は非常勤嘱託が4割を超え、一般職が3割を超えて高くなっている。一方、『仕事』を優先している」は管理職で4割半ばと高くなっている。

理想で『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」はすべての職層で高くなっているが、特に管理職、非常勤嘱託が4割近くで高くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」は非常勤嘱託で2割半ば、『家庭生活』を優先したい」は一般職で2割を超えている。

①現実（現状）

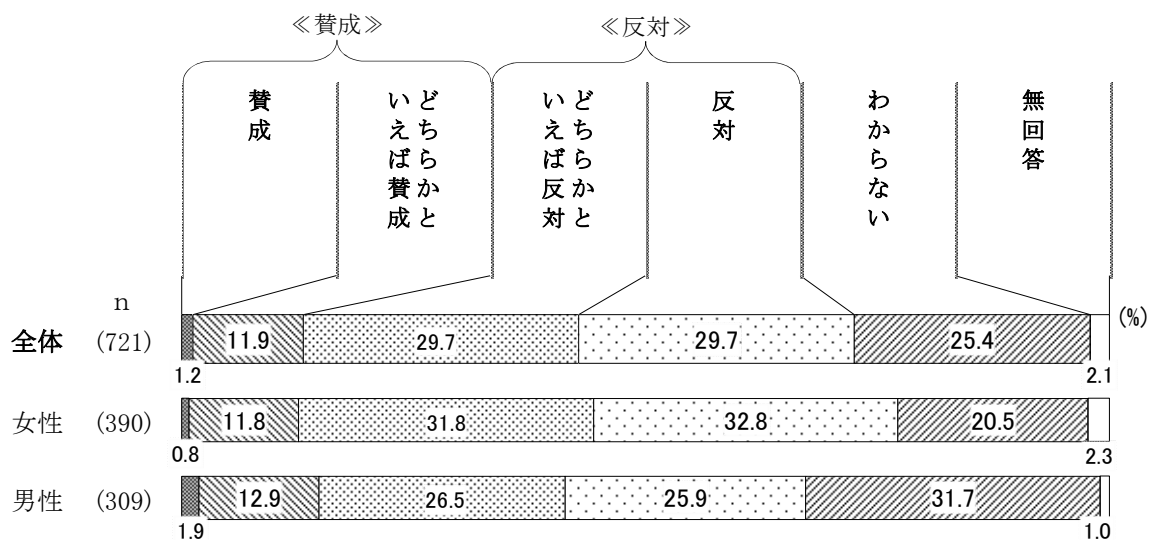


②理想



(4) 男女の役割分担意識

問4 家庭生活について、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という意見についてどう思われますか。(○は1つ)

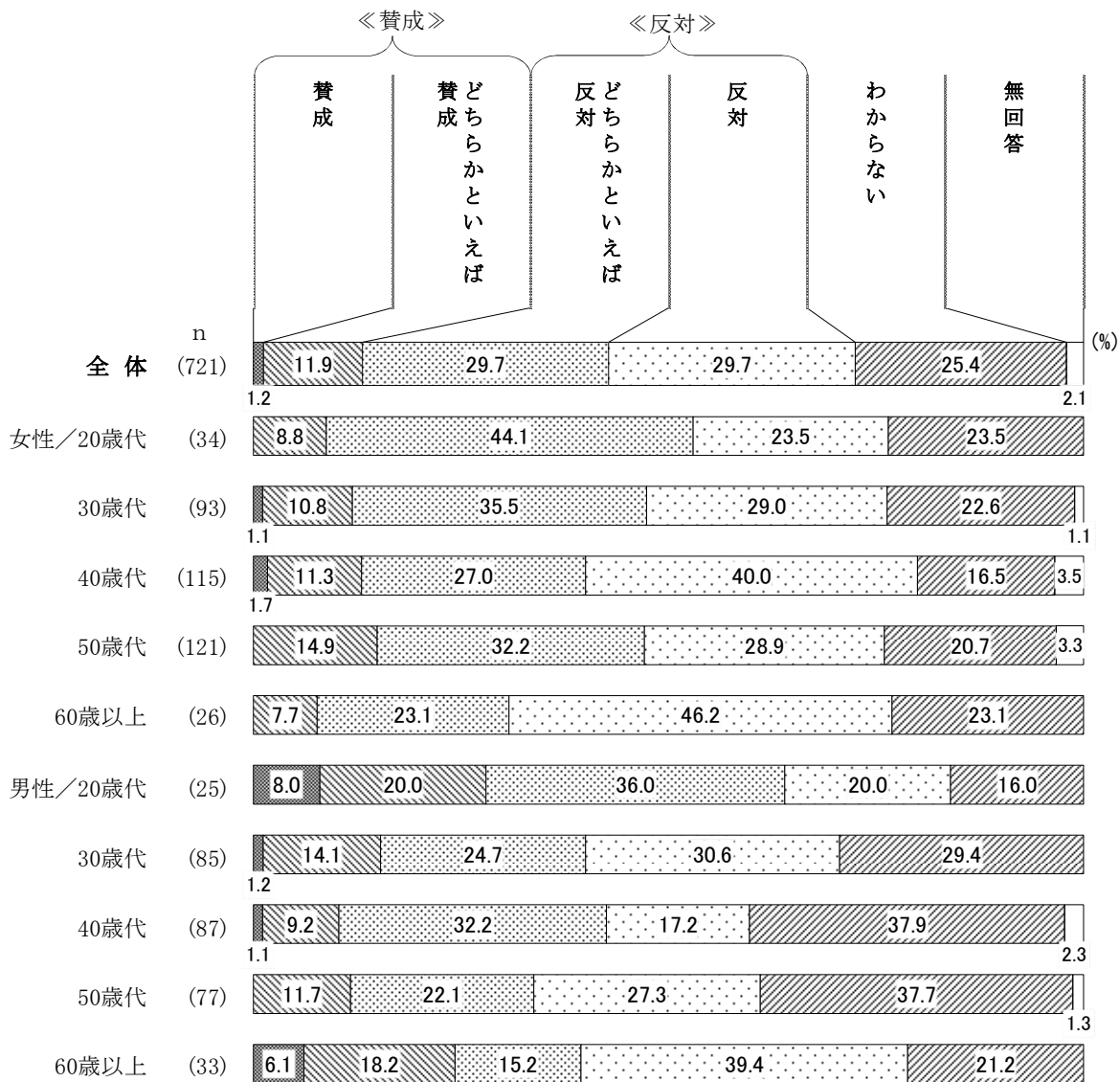


男女の役割分担意識は、女性では《賛成》が12.6%、《反対》が64.6%と《反対》の方が高くなっている。男性でも《賛成》が14.8%、《反対》が52.4%と《反対》の方が高くなっている。

第4章 調査結果の詳細

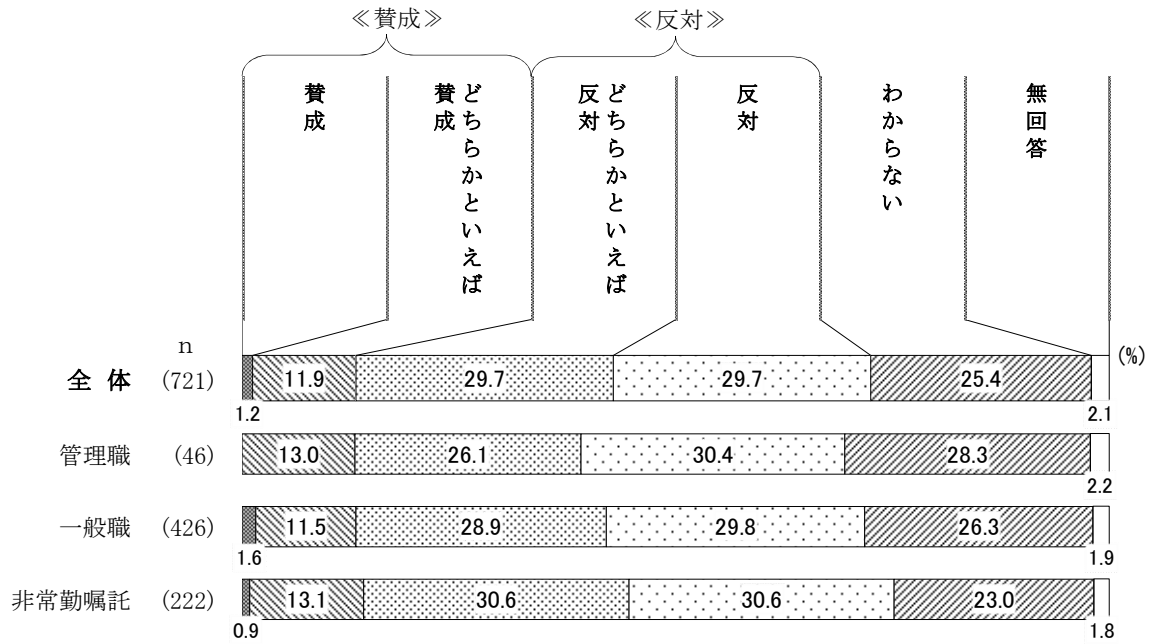
【年代別】

性・年代別でみると、すべての性・年代で《反対》が《賛成》を上回っており、《反対》は女性が特に高くなっている。一方、《賛成》は男性20歳代が3割近く、男性60歳代が2割半ばとなっている。



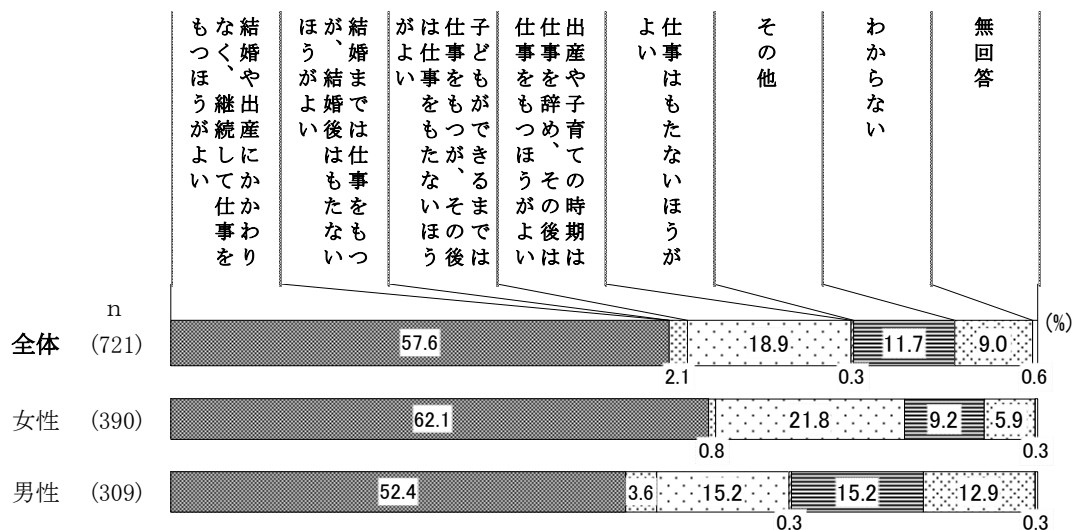
【職層別】

職層別で見ると、すべての職層で《反対》が《賛成》を上回っており、《反対》は非常勤嘱託で6割を超えている。《賛成》は職層で大きな差異はみられない。



(5) 女性が仕事を持つことに対する考え

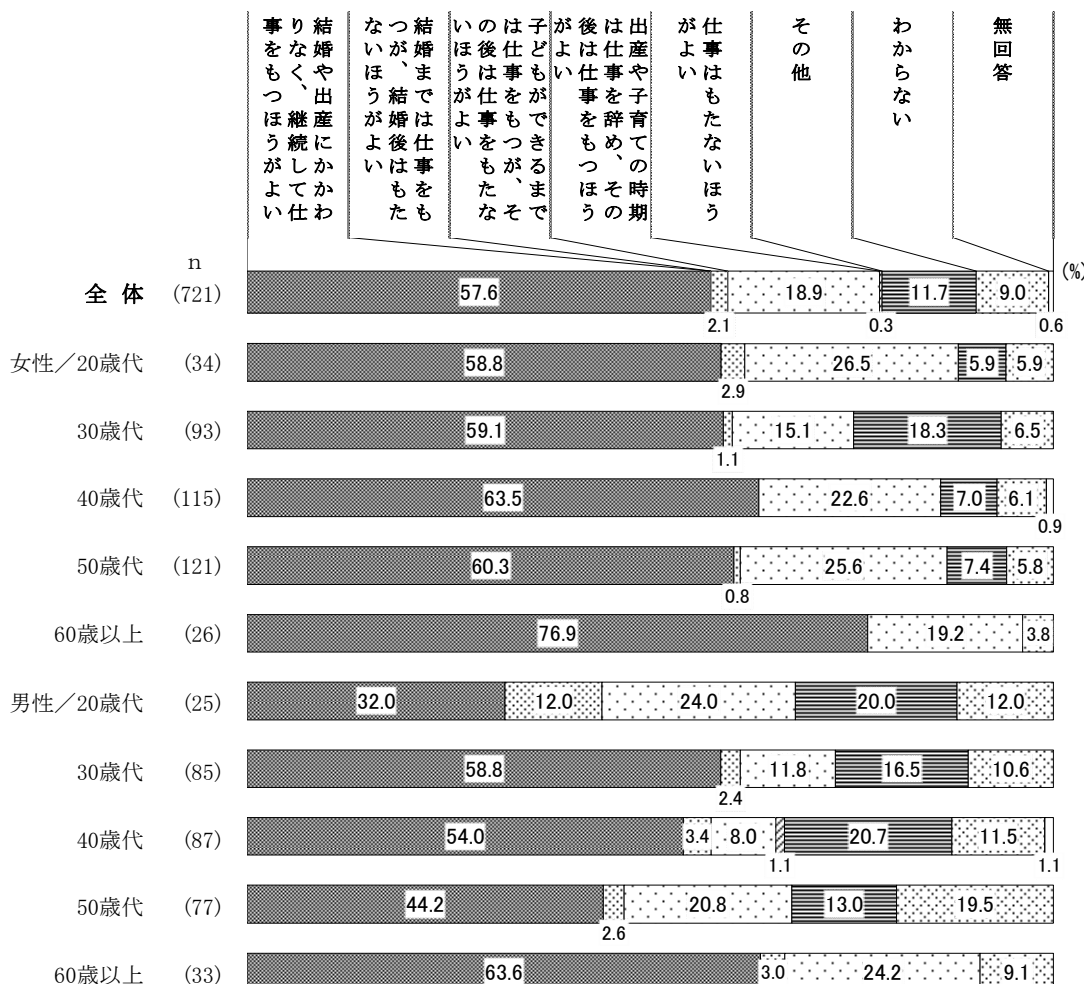
問5 女性が仕事を持つことについて、あなたはどうお考えですか。(○は1つ)



女性が仕事を持つことに対する考えは、男女とも「結婚や出産にかかわらず、継続して仕事をもつほうがよい」が最も高く、女性が62.1%、男性が52.4%となっている。「出産や子育ての時期は仕事を辞め、その後は仕事をもつほうがよい」が2割前後となっている。

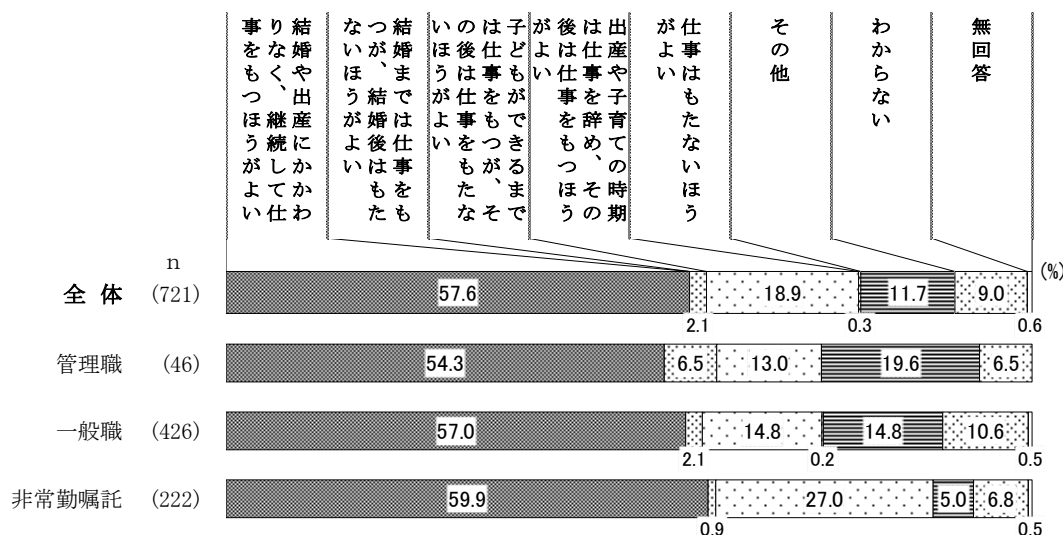
【年代別】

性・年代別でみると、「結婚や出産にかかわらず、継続して仕事をもつほうがよい」はどの性・年代も最も高くなっているが、女性は年齢が上がるほど高く、60歳以上で8割近くとなっている。「出産や子育ての時期は仕事を辞め、その後は仕事をもつほうがよい」は女性20歳代で3割近く、男性20歳代、60歳以上で2割半ばとなっている。



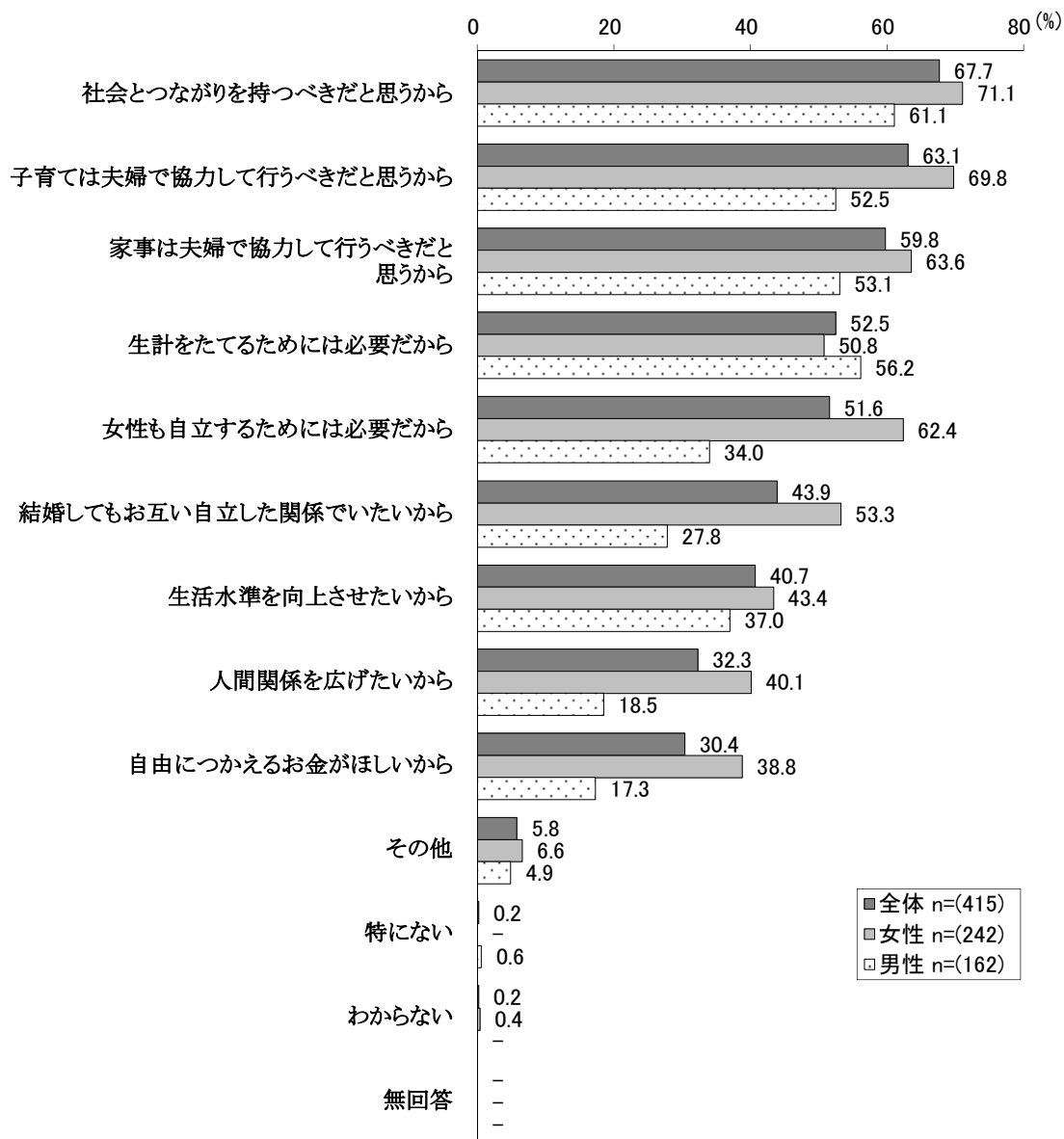
【職層別】

職層別でみると、「結婚や出産にかかわらず、継続して仕事をもつほうがよい」はどの職層も半数以上と高く、非常勤嘱託で6割となっている。一方、「出産や子育ての時期は仕事を辞め、その後は仕事をもつほうがよい」も非常勤嘱託が3割近くでほかの職層と比較して高くなっている。



(6) 女性が継続して仕事をもつ方がよいとする理由

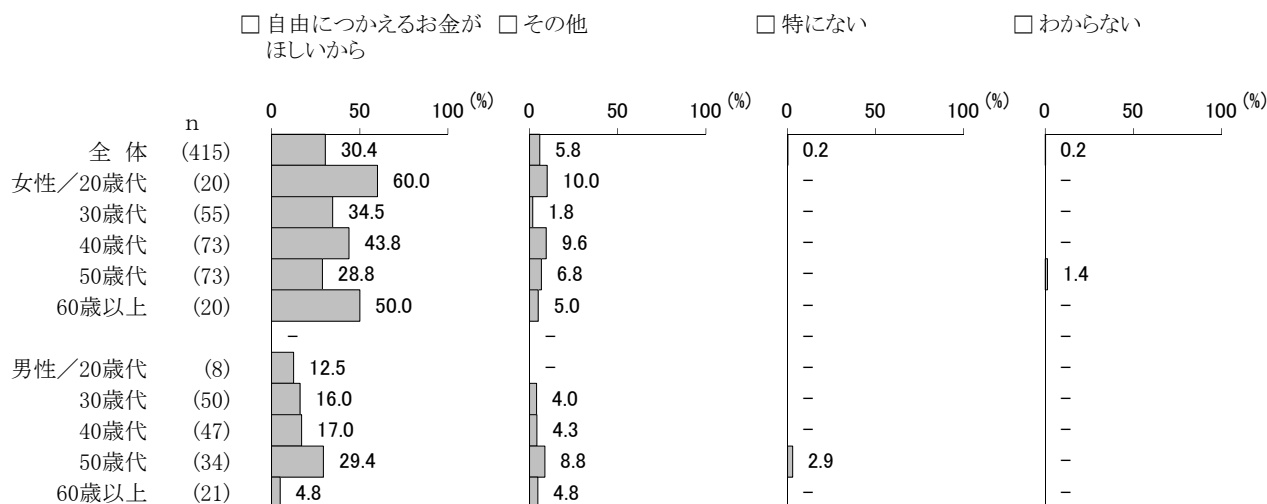
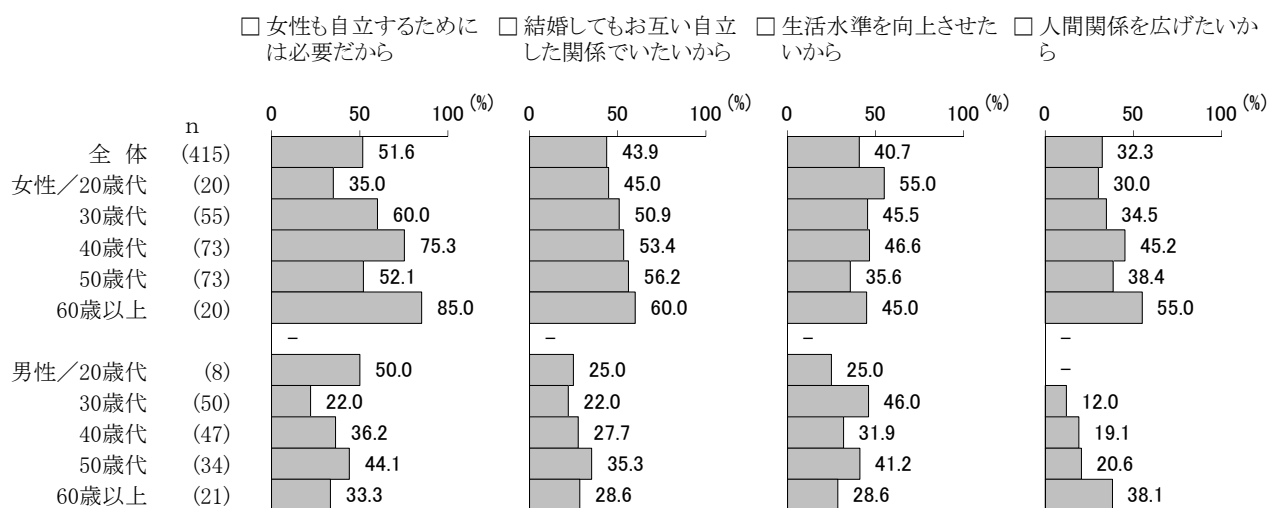
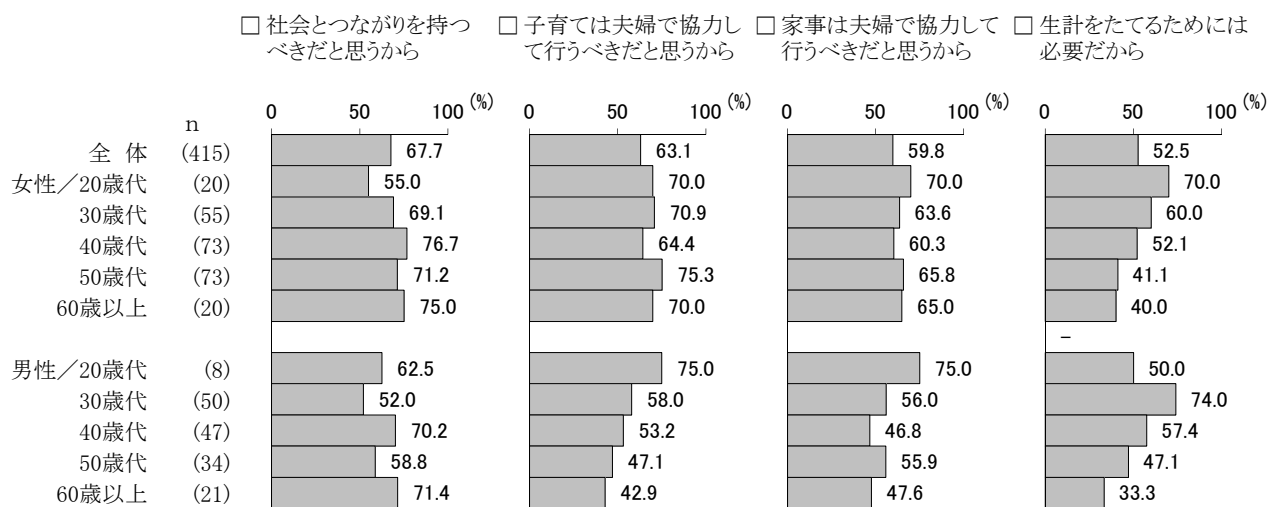
【問5で「1 結婚や出産にかかわらず、継続して仕事をもつほうがよい」と回答した方】
 問5-1 その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)



女性が仕事をもつ方がよいとする理由は、「社会とつながりを持つべきだと思うから」が67.7%で最も高く、次いで「子育ては夫婦で協力して行うべきだと思うから」が63.1%、「家事は夫婦で協力して行うべきだと思うから」が59.8%となっている。女性では「女性も自立するためには必要だから」が62.4%で男性（34.0%）よりも28ポイント、「結婚してもお互い自立した関係でいたいから」も女性が53.3%で男性（27.8%）よりも26ポイント高くなっている。「自由につかえるお金がほしいから」、「人間関係を広げたいから」も女性が男性よりも22ポイント高くなっている。

【年代別】

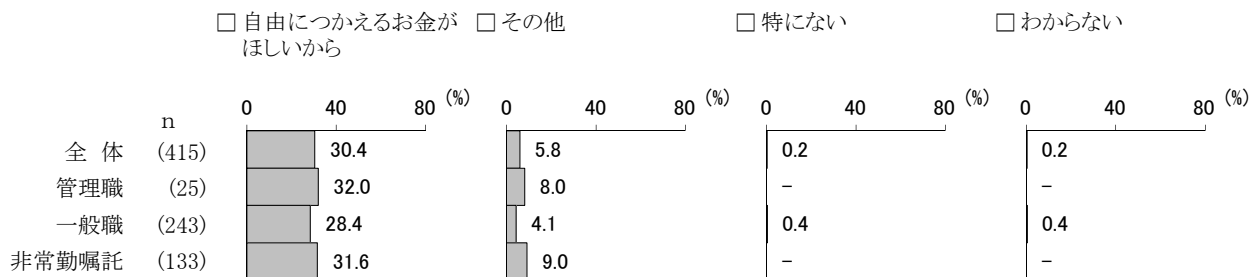
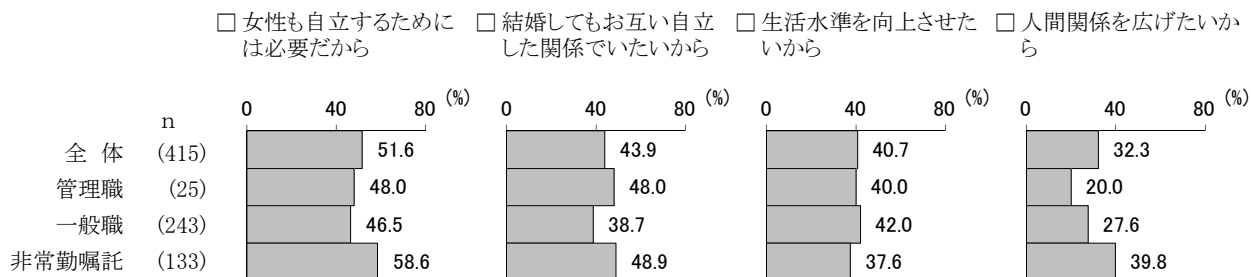
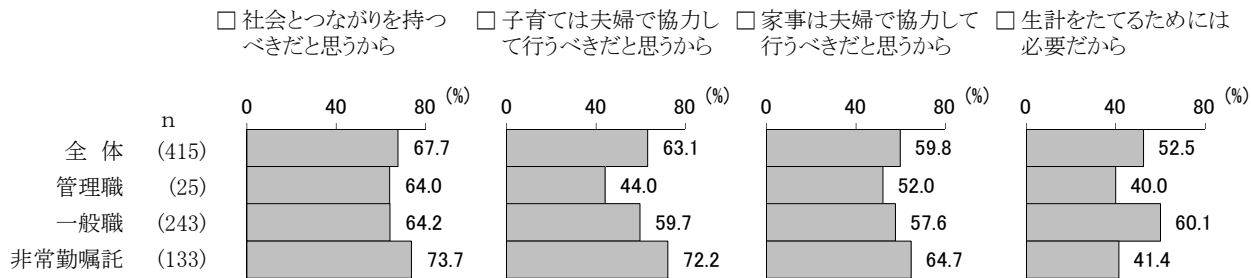
性・年代別でみると、「社会とつながりを持つべきだと思うから」は女性40歳代で8割近く、60歳以上で7割半ば、女性50歳代、男性60歳以上で7割を超えて高くなっている。「女性も自立するためには必要だから」は女性60歳以上で8割半ば、40歳代で7割半ばと高くなっている。



第4章 調査結果の詳細

【職層別】

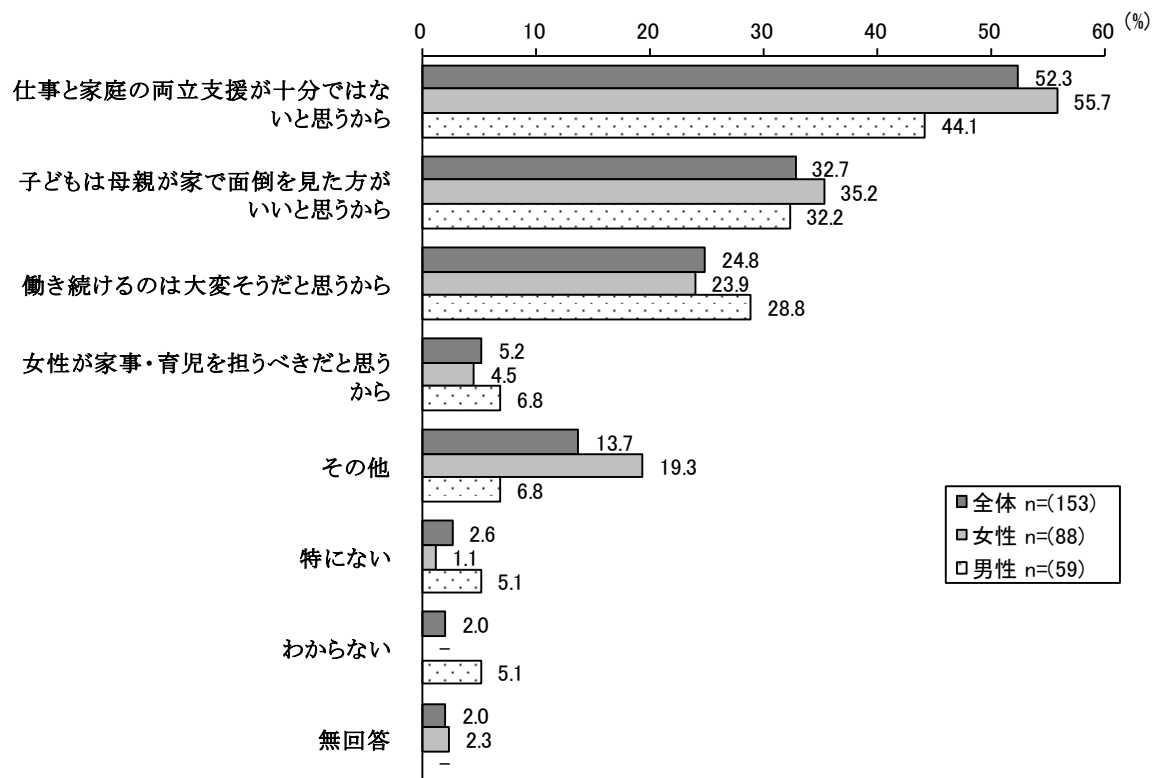
職層別でみると、「社会とつながりを持つべきだと思うから」、「子育ては夫婦で協力して行うべきだと思うから」は非常勤嘱託が7割台で高くなっている。



(7) 女性が継続して仕事を持たない方がよい理由

【問5で「2」・「3」・「4」・「5」と回答した方】

問5-2 その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

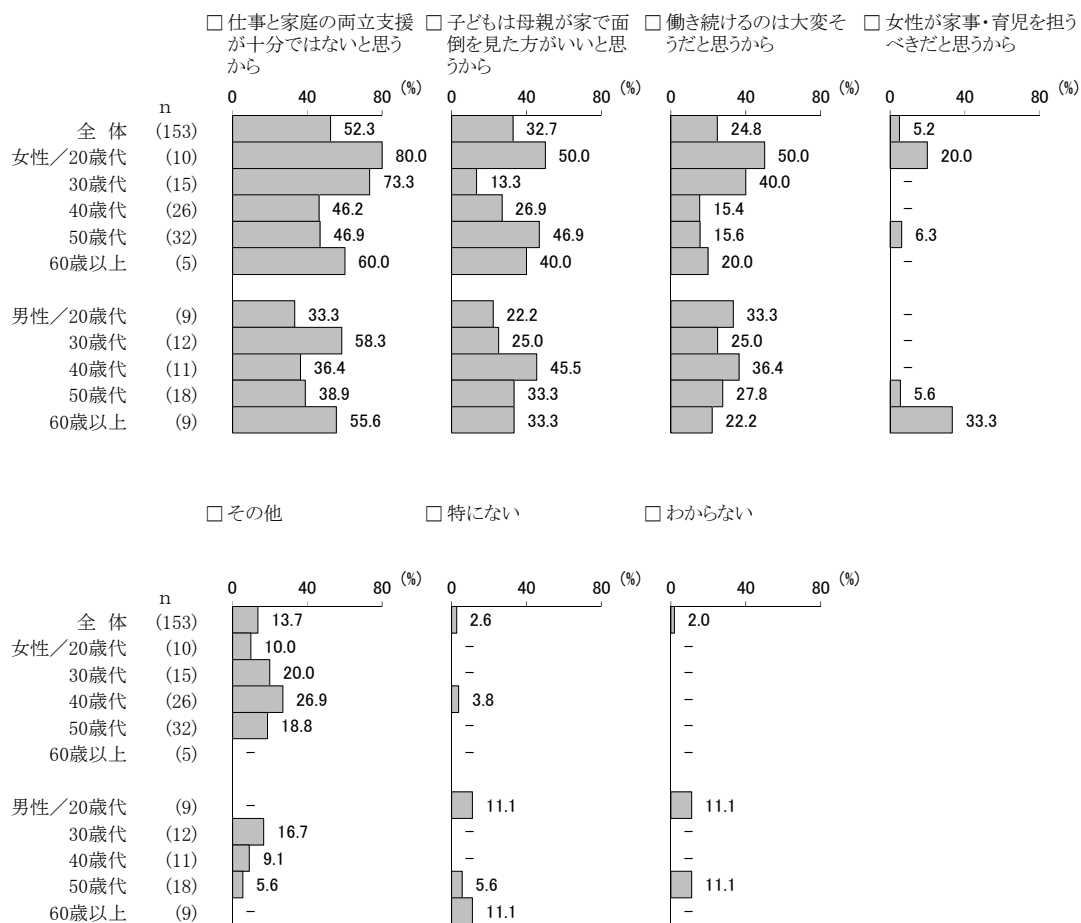


女性が継続して仕事を持たない方がよい理由は、「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」が52.3%で最も高く、次いで「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」が32.7%、「働き続けるのは大変そうだと思うから」が24.8%となっている。男女とも「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」が最も高くなっているが、女性が55.7%で男性（44.1%）よりも12ポイント高くなっている。

第4章 調査結果の詳細

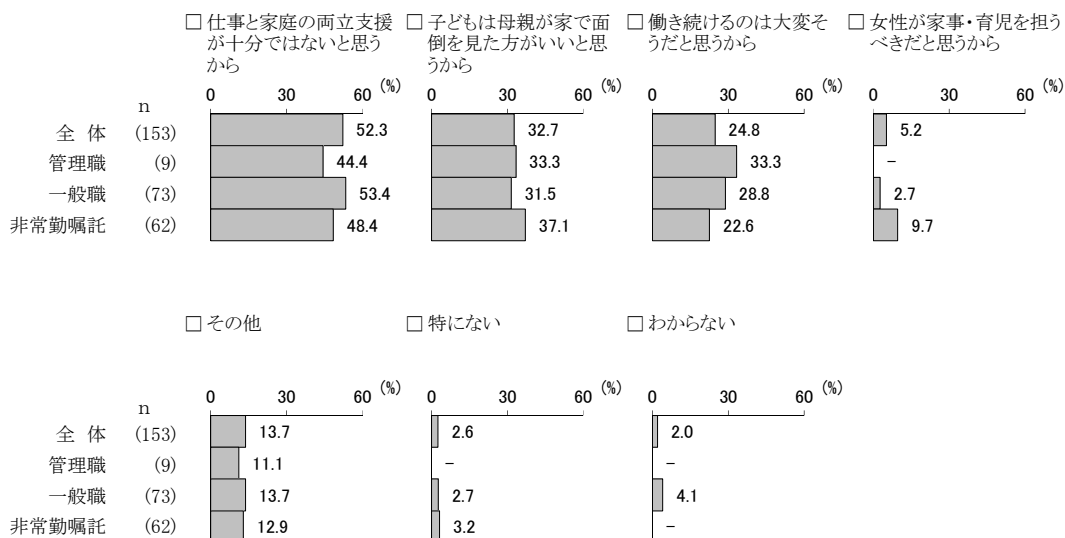
【年代別】

回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。



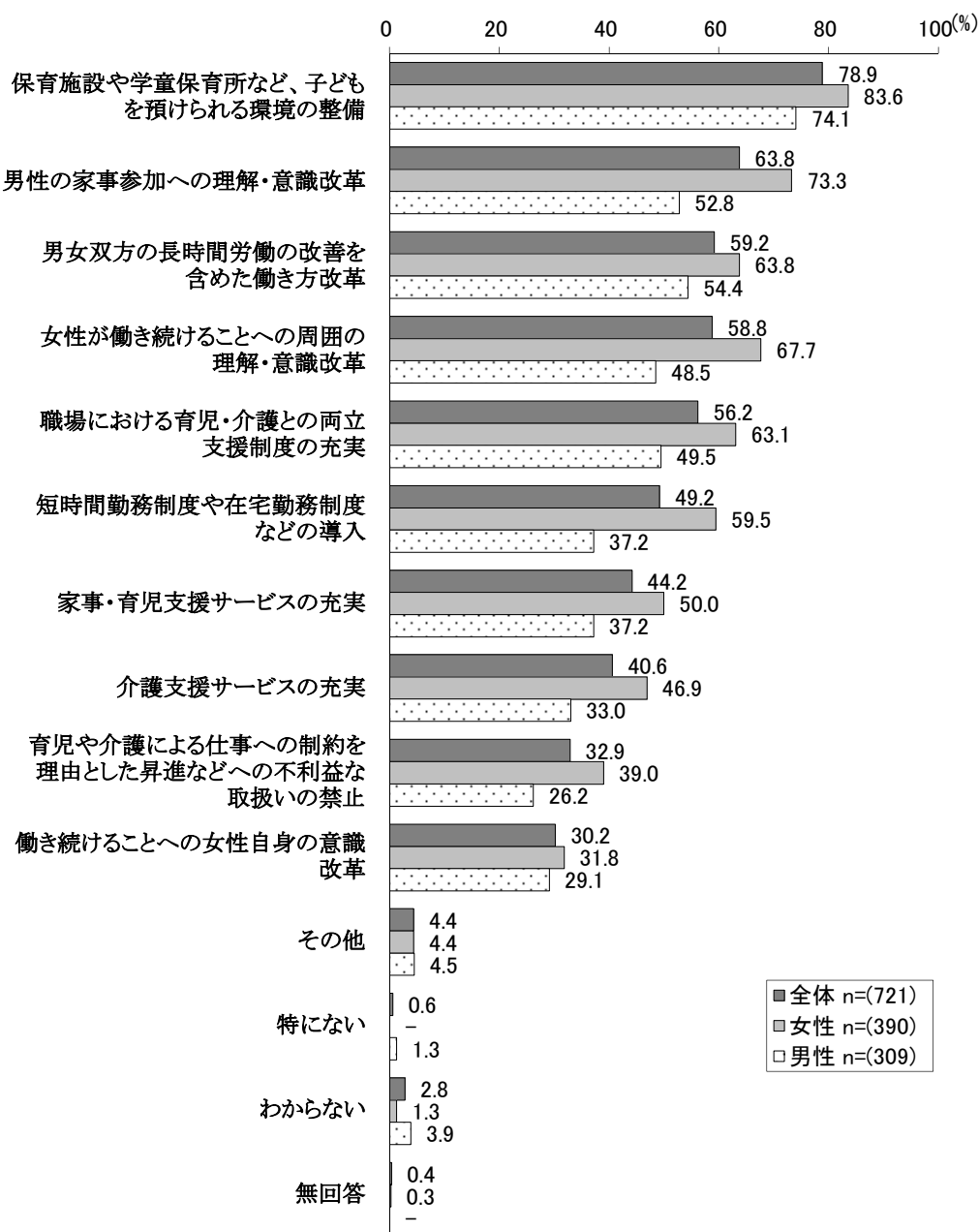
【職層別】

「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」は一般職で5割半ばと高くなっている。



(8) 女性の就労継続のために必要なこと

問6 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

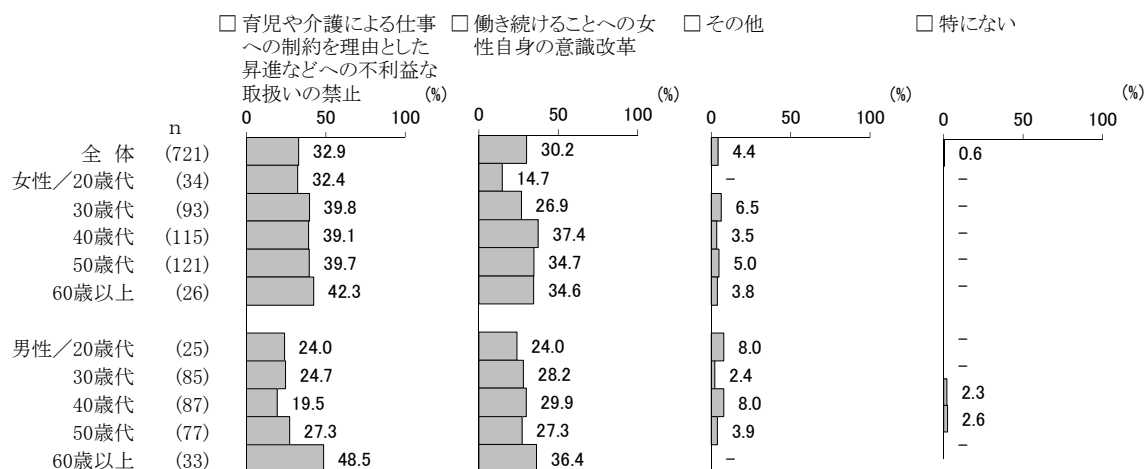
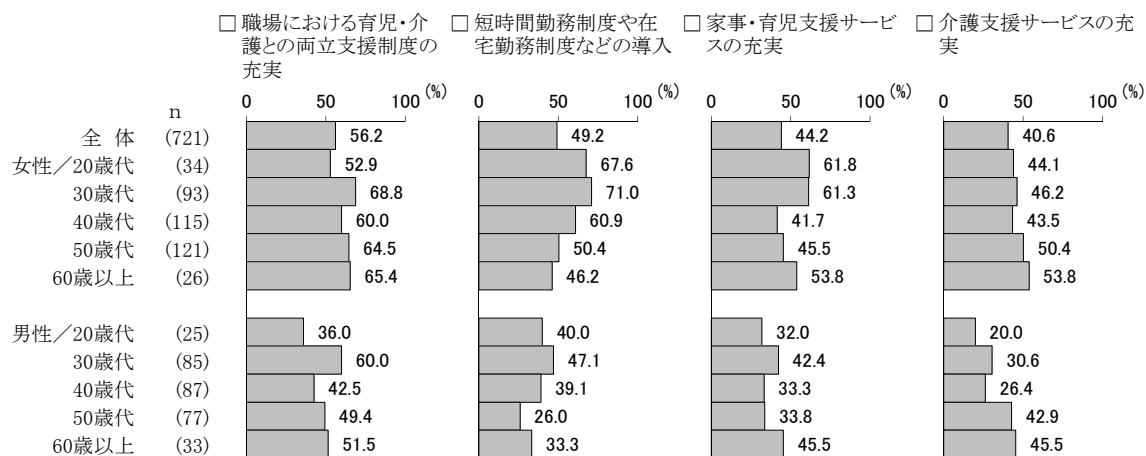
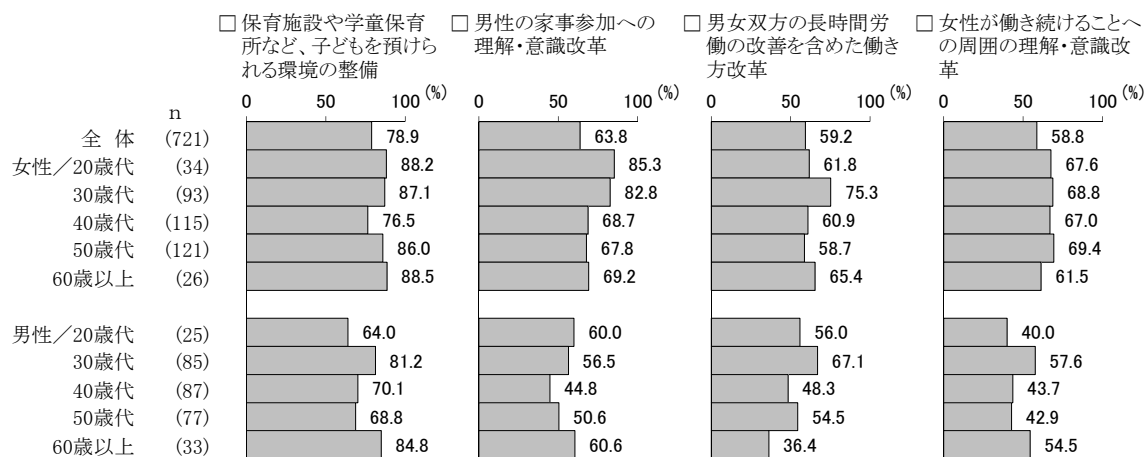


女性の就労継続のために必要なことは、「保育施設や学童保育所など、子どもを預けられる環境の整備」が78.9%で最も高く、次いで「男性の家事参加への理解・意識改革」が63.8%、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」が59.2%、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」が58.8%となっている。すべての項目で女性が男性よりも高くなっており、特に「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」は女性が59.5%で男性（37.2%）よりも22ポイント、「男性の家事参加への理解・意識改革」も女性が73.3%で男性（52.8%）よりも21ポイント高くなっている。

第4章 調査結果の詳細

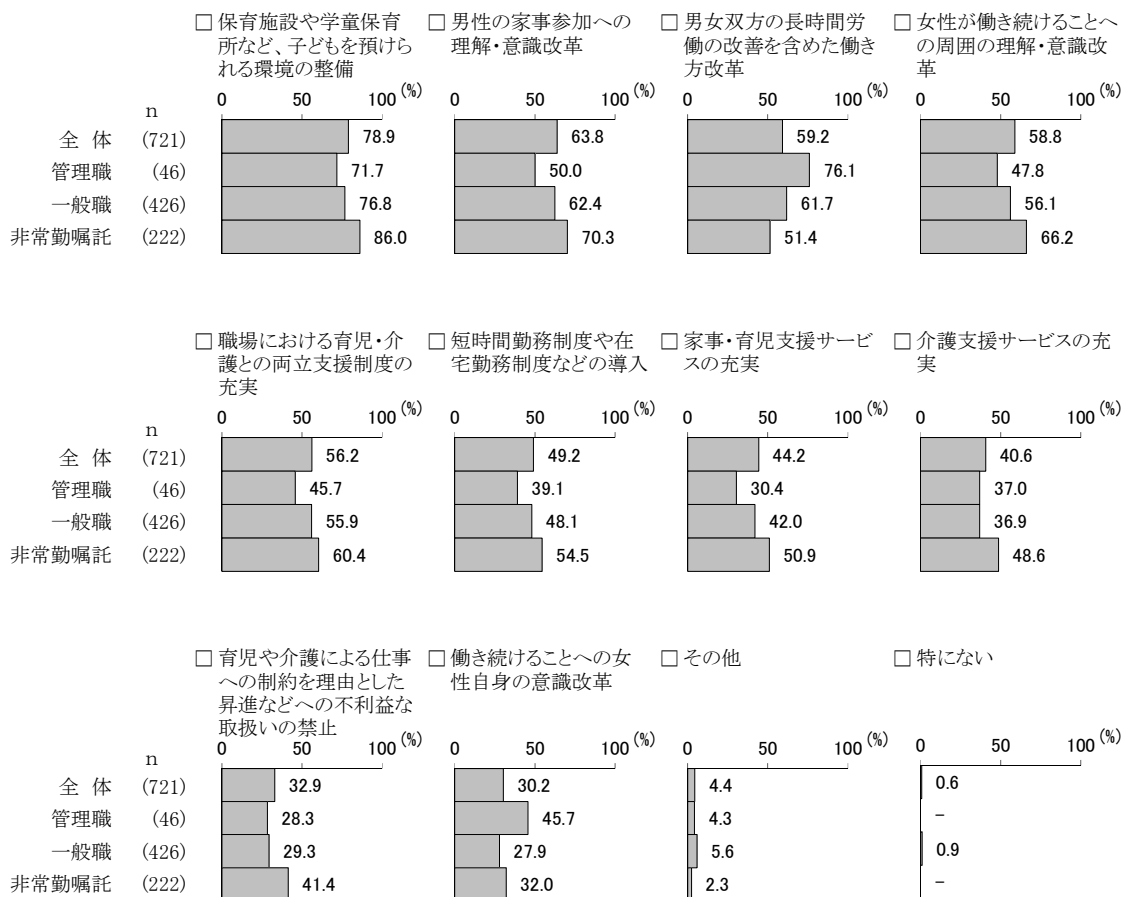
【年代別】

性・年代別でみると、「保育施設や学童保育所など、子どもを預けられる環境の整備」は女性が特に高く、おおむね8割以上となっている。「男性の家事参加への理解・意識改革」は女性20代、30歳代で8割半ばと高くなっている。「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」は女性30歳代で7割半ば、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」も女性30歳代で7割を超えて高くなっている。



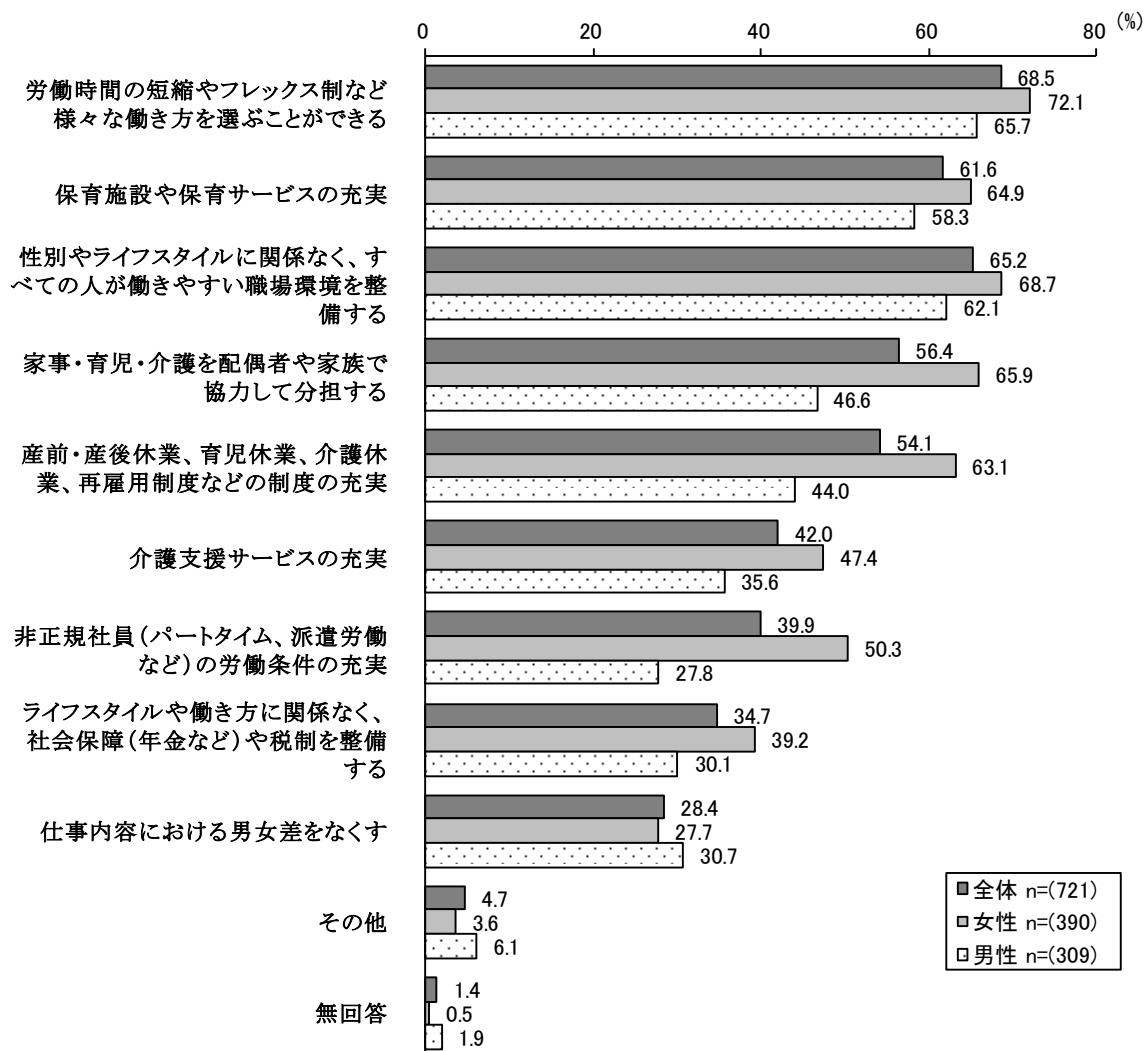
【職層別】

職層別で見ると、「保育施設や学童保育所など、子どもを預けられる環境の整備」は非常勤嘱託で8割半ば、一般職で8割近くと高くなっている。「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」は管理職で7割半ば、「男性の家事参加への理解・意識改革」は非常勤嘱託で7割と高くなっている。



(9) 男女ともに働きやすい社会をつくるために必要だと思うこと

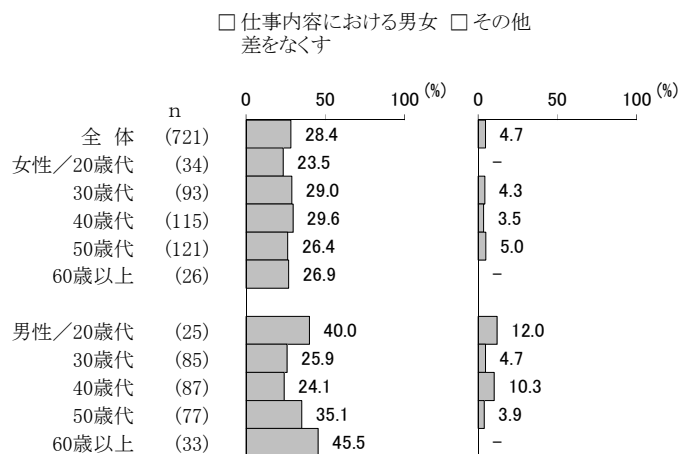
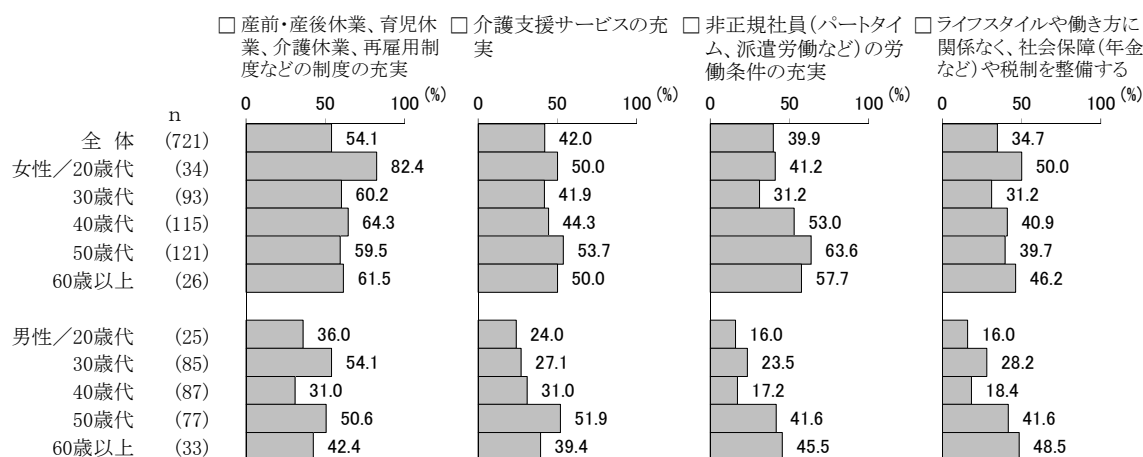
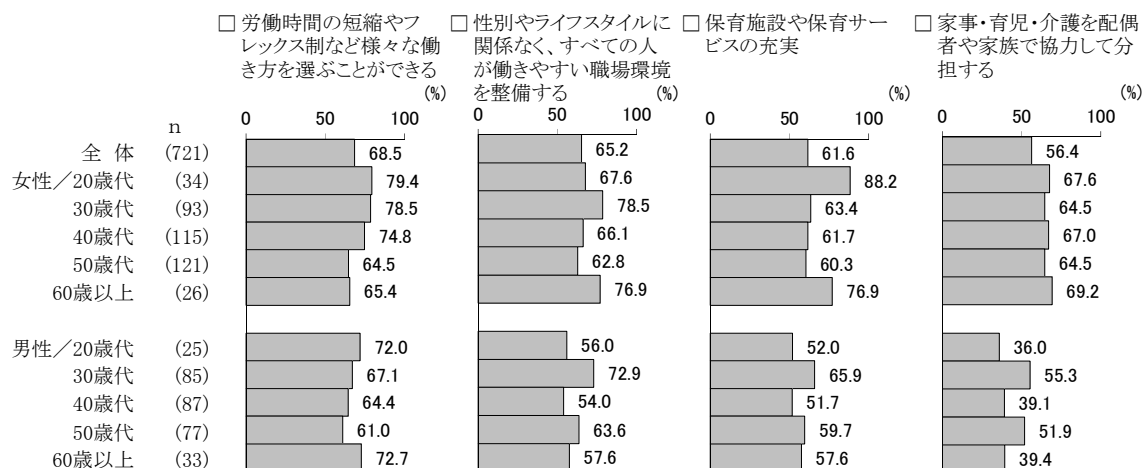
問7 男女ともに働きやすい社会をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)



男女ともに働きやすい社会をつくるために重要だと思うことは、「労働時間の短縮やフレックス制など様々な働き方を選ぶことができる」が68.5%で最も高く、次いで「性別やライフスタイルに関係なく、すべての人が働きやすい職場環境を整備する」が65.2%、「保育施設や保育サービスの充実」が61.6%となっている。女性では「非正規社員(パートタイム、派遣労働など)の労働条件の充実」が50.3%で男性(27.8%)よりも23ポイント、「家事・育児・介護を配偶者や家族で協力して分担する」、「産前・産後休業、育児休業、介護休業、再雇用制度などの制度の充実」も女性が男性よりも19ポイント高くなっている。

【年代別】

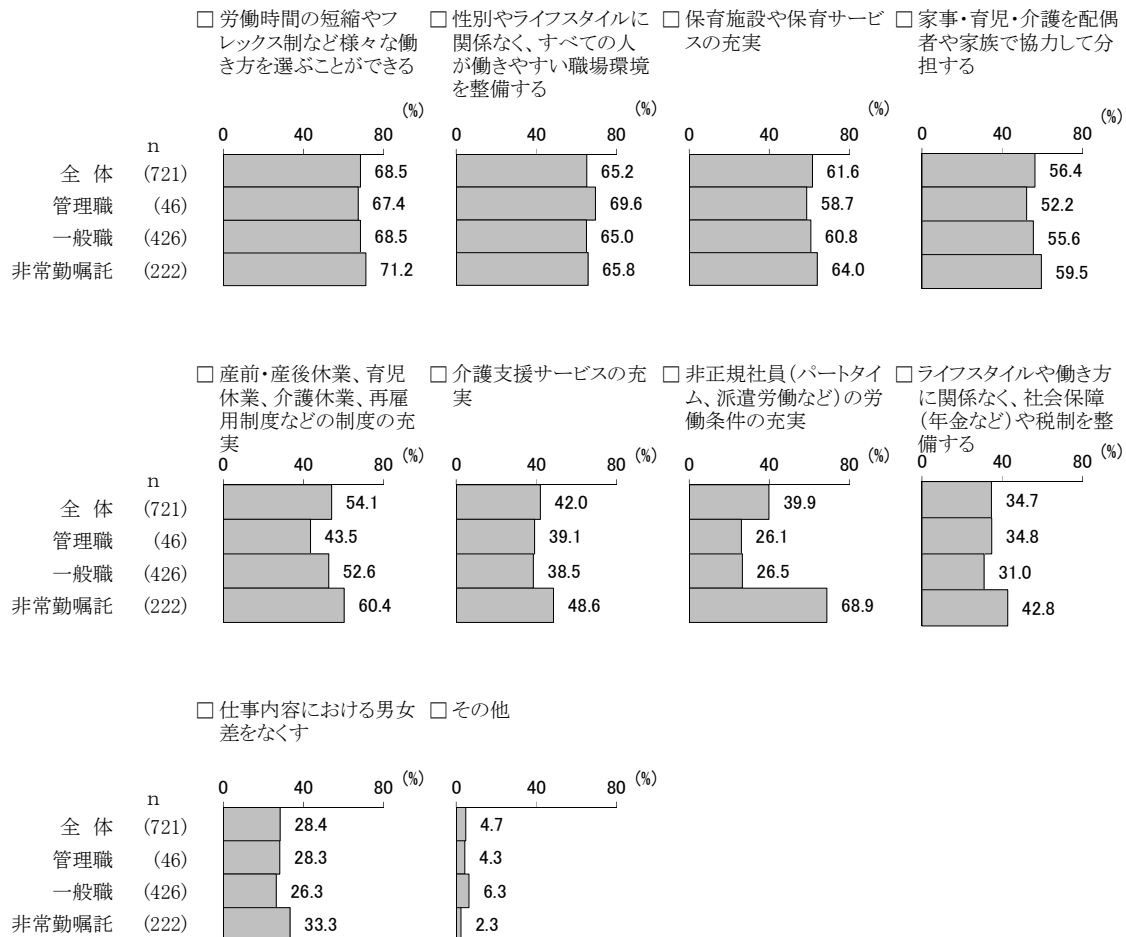
性・年代別でみると、「保育施設や保育サービスの充実」は女性20歳代で9割近く、「産前・産後休業、育児休業、介護休業、再雇用制度などの制度の充実」は女性20歳代で8割を超えて高くなっている。「労働時間の短縮やフレックス制など様々な働き方を選ぶことができる」は女性20歳代から40歳代、男性20歳代、60歳以上で7割台と高くなっている。



第4章 調査結果の詳細

【職層別】

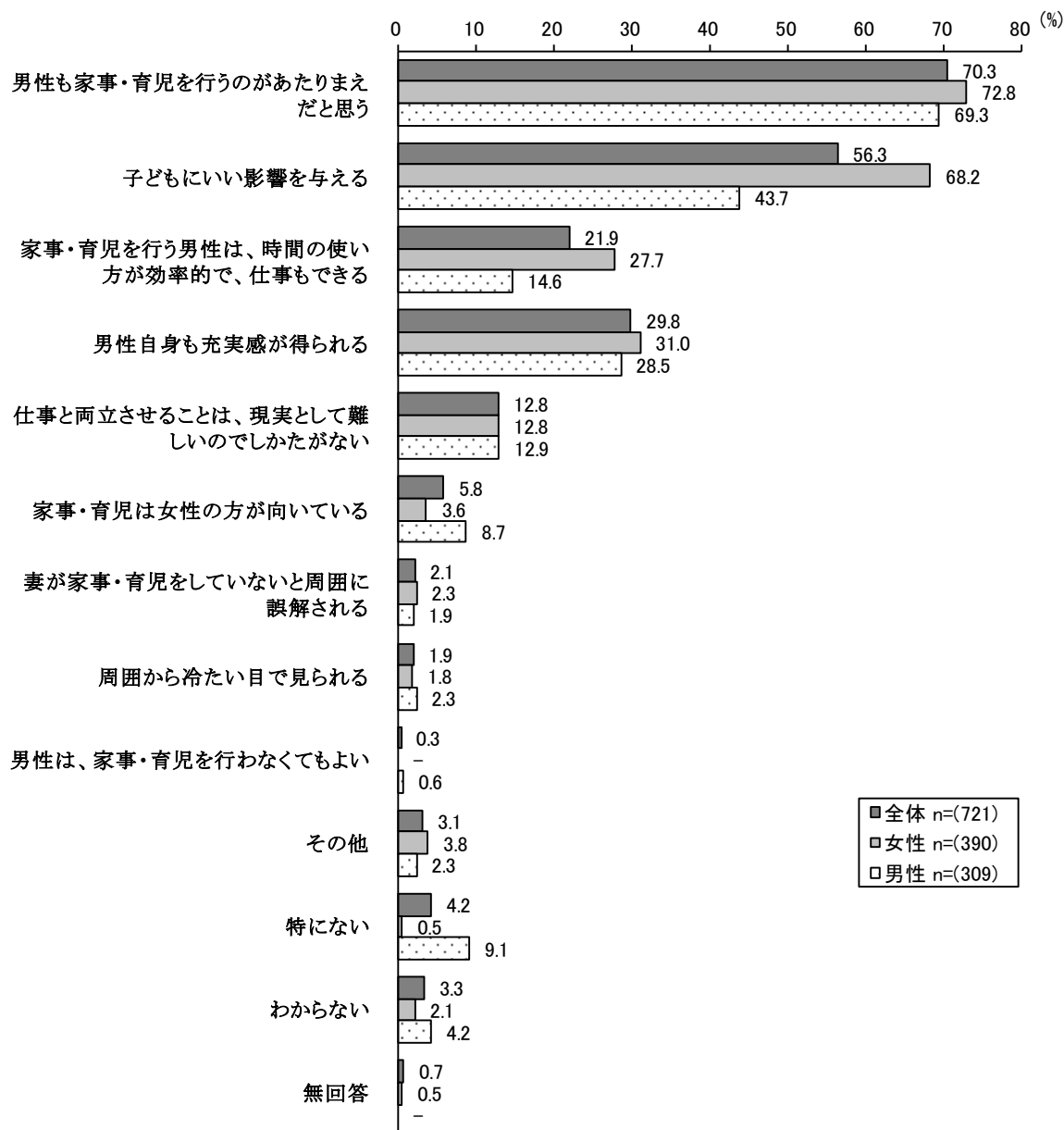
職層別でみると、「労働時間の短縮やフレックス制など様々な働き方を選ぶことができる」は非常勤嘱託で7割を超えて高くなっている。「性別やライフスタイルに関係なく、すべての人が働きやすい職場環境を整備する」は管理職で7割と高くなっている。



2. 子育て・介護について

(1) 男性の家事・育児の参加について

問8 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。
(あてはまるものすべてに○)

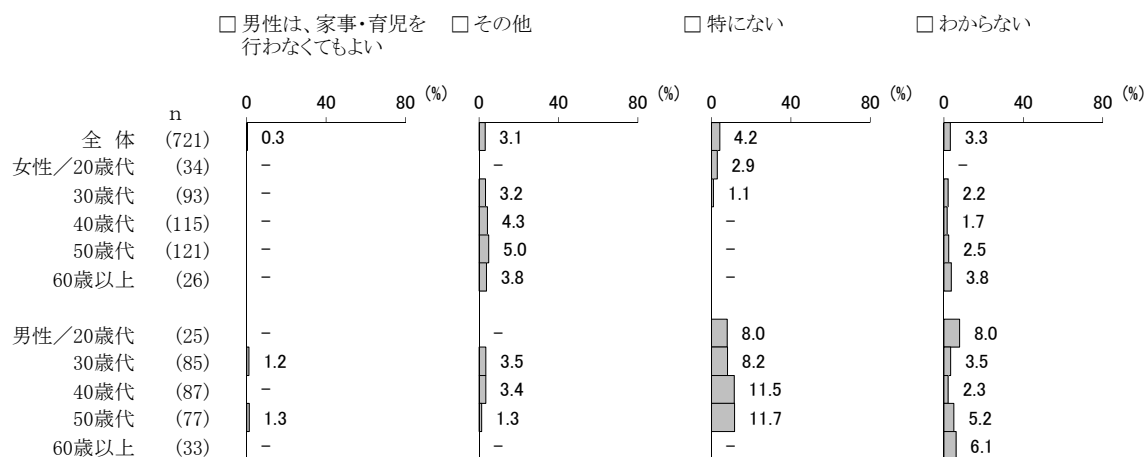
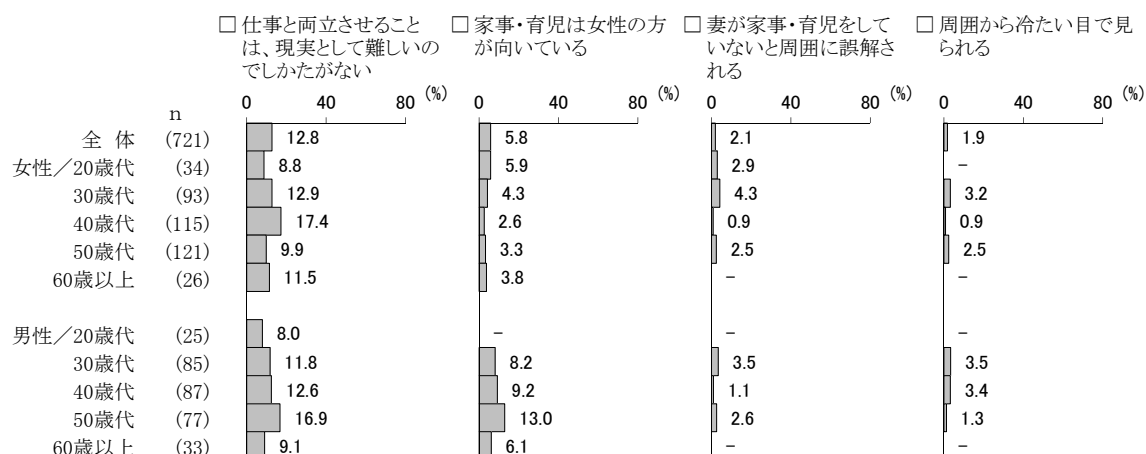
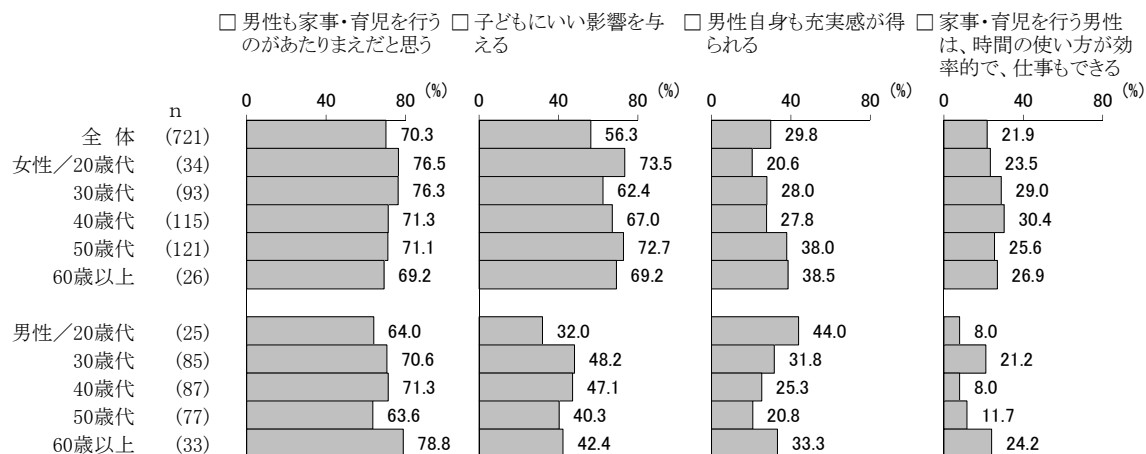


男性の家事・育児参加については、「男性も家事・育児を行うのがあたりまえだと思う」が70.3%で最も高く、次いで「子どもにいい影響を与える」が56.3%、「男性自身も充実感が得られる」が29.8%、「家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」が21.9%となっている。女性では「子どもにいい影響を与える」が68.2%で男性（43.7%）よりも25ポイント、「家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」も27.7%で男性（14.6%）よりも13ポイント高くなっている。

第4章 調査結果の詳細

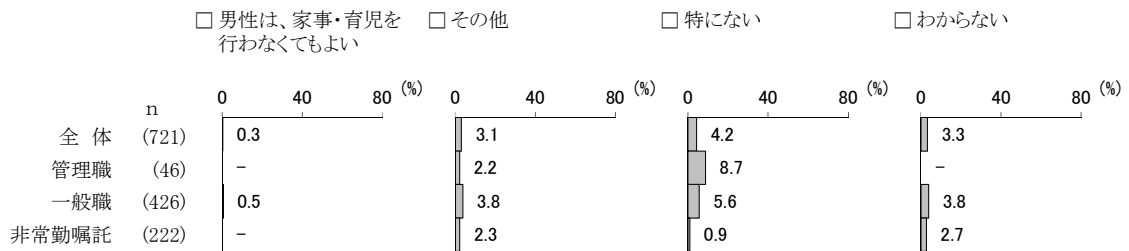
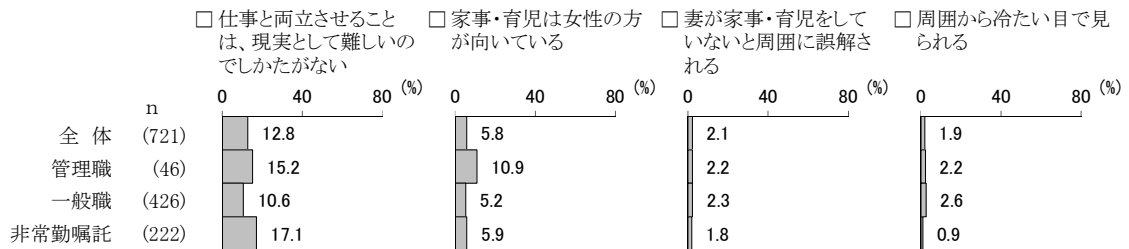
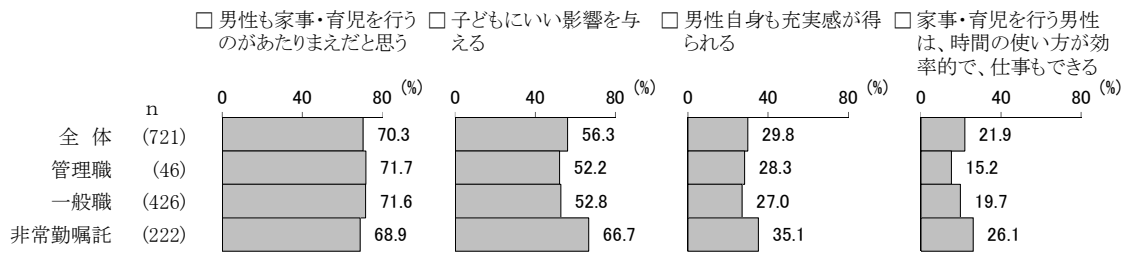
【年代別】

性・年代別でみると、「男性も家事・育児を行うのがあたりまえだと思う」はすべての性・年代で高く、7割以上の年代が多い。「子どもにいい影響を与える」は女性20歳代、50歳代で7割半ばと高くなっている。



【職層別】

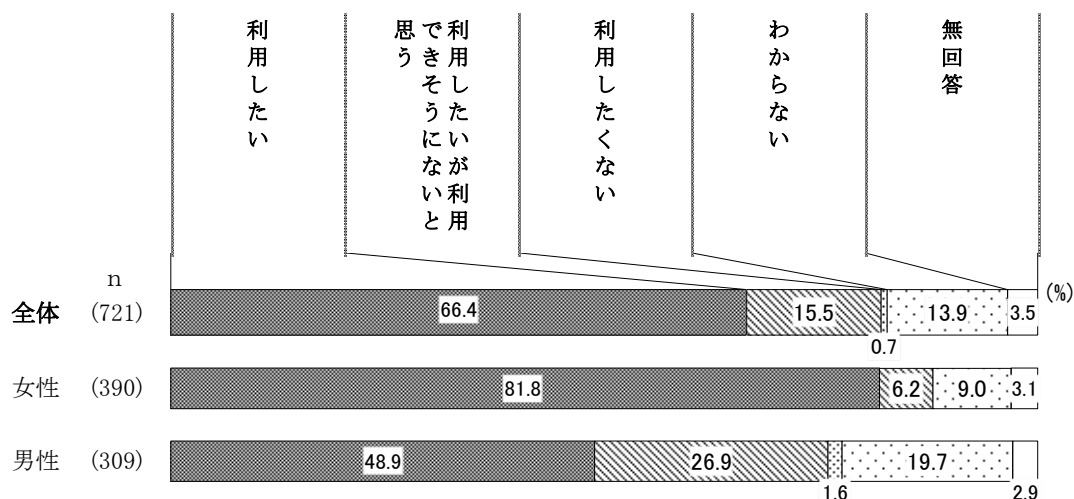
職層別でみると、「男性も家事・育児を行うのがあたりまえだと思う」は管理職、一般職で7割を超えて高くなっている。「子どもにいい影響を与える」は非常勤嘱託で7割近くと高くなっている。



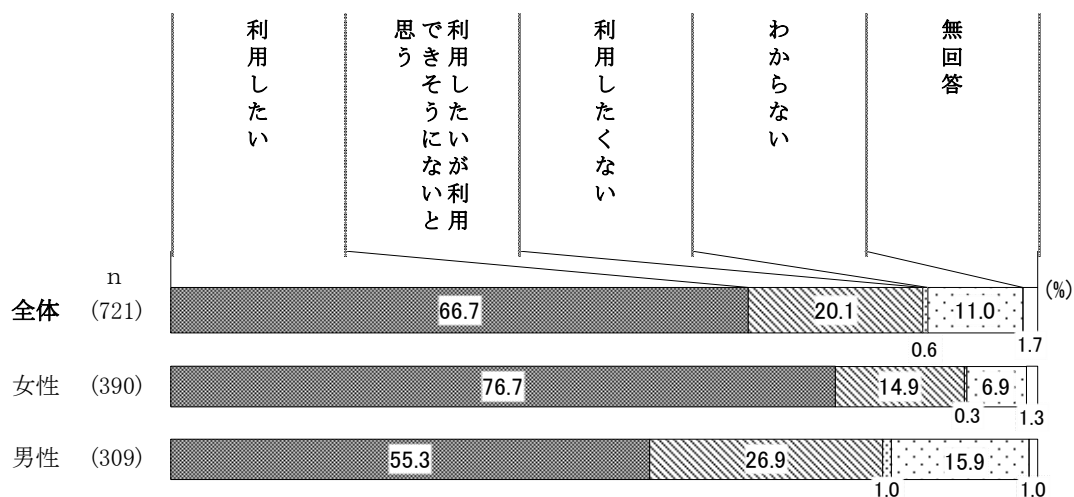
(2) 育児・介護休業制度の利用意向

問9 育児や家族介護を行うために、法律に基づき男女ともに育児休業や介護休業を取得できる制度がありますが、あなた自身は、「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用することについてどう思いますか。現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。(各項目で○は1つ)

①育児休業制度



②介護休業制度



育児休業制度の利用意向は、「利用したい」は女性が81.8%、男性が48.9%となっており、女性が男性よりも33ポイント高くなっている。「利用したいが利用できそうにないと思う」は男性が26.9%で女性(6.2%)よりも21ポイント高くなっている。

介護休業制度の利用意向は、「利用したい」は女性が76.7%で男性(55.3%)よりも21ポイント高くなっている。「利用したいが利用できそうにないと思う」は男性で26.9%が女性(14.9%)よりも12ポイント高くなっている。

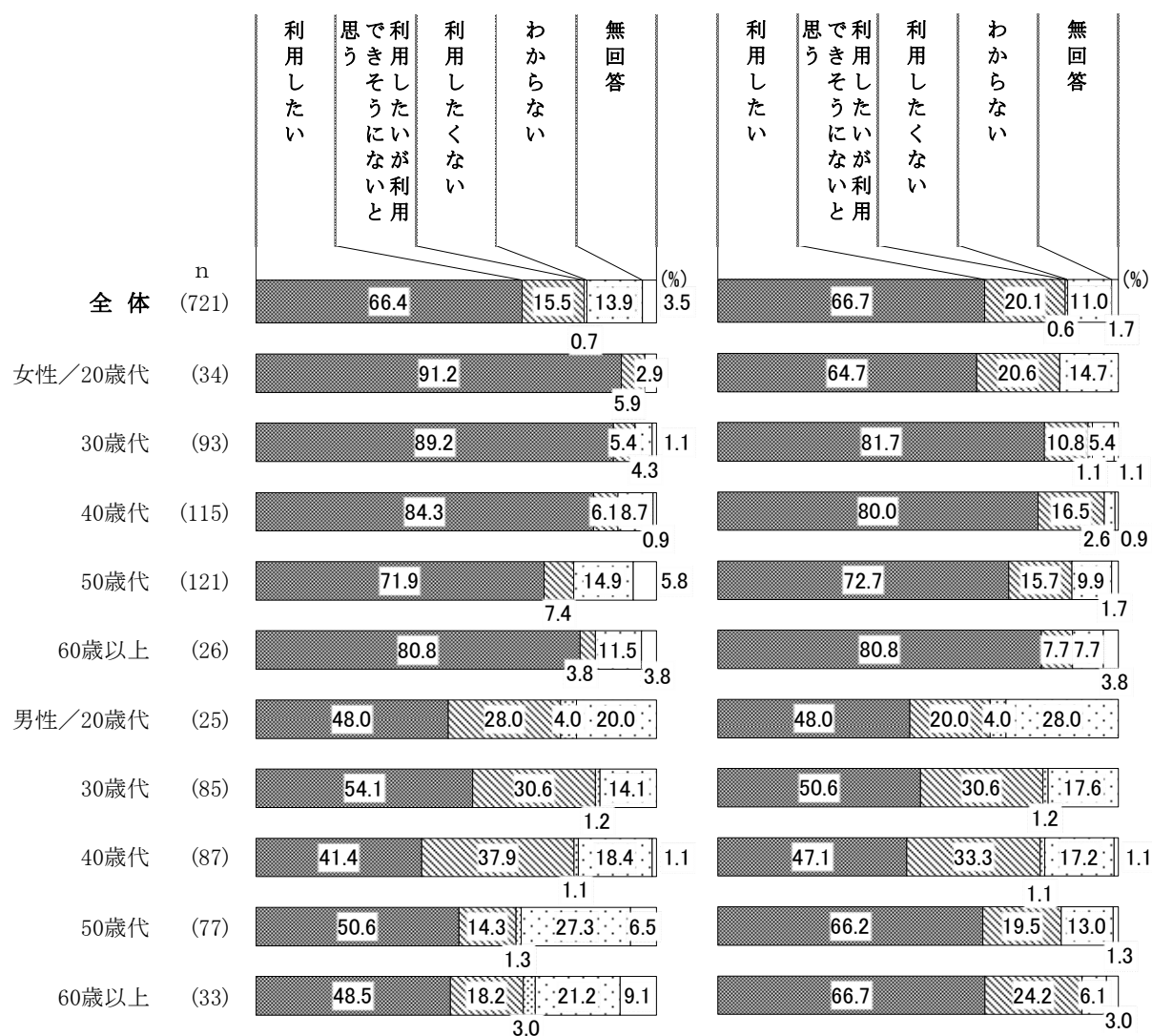
【年代別】

性・年代別でみると、育児休業制度を「利用したい」は女性20歳代、30歳代で9割前後と高くなっている。男性ではすべての年代で4割台から5割台を推移している。「利用したいが利用できそうにないと思う」は男性40歳代で4割近く、20歳代、30歳代で3割前後と高くなっている。

介護休業制度を「利用したい」は女性では30歳代、40歳代、60歳以上が8割台で高くなっている。男性では50歳代、60歳以上が6割台で高くなっている。「利用したいが利用できそうにないと思う」は男性30歳代、40歳代で3割台と高くなっている。

【育児休業制度】

【介護休業制度】

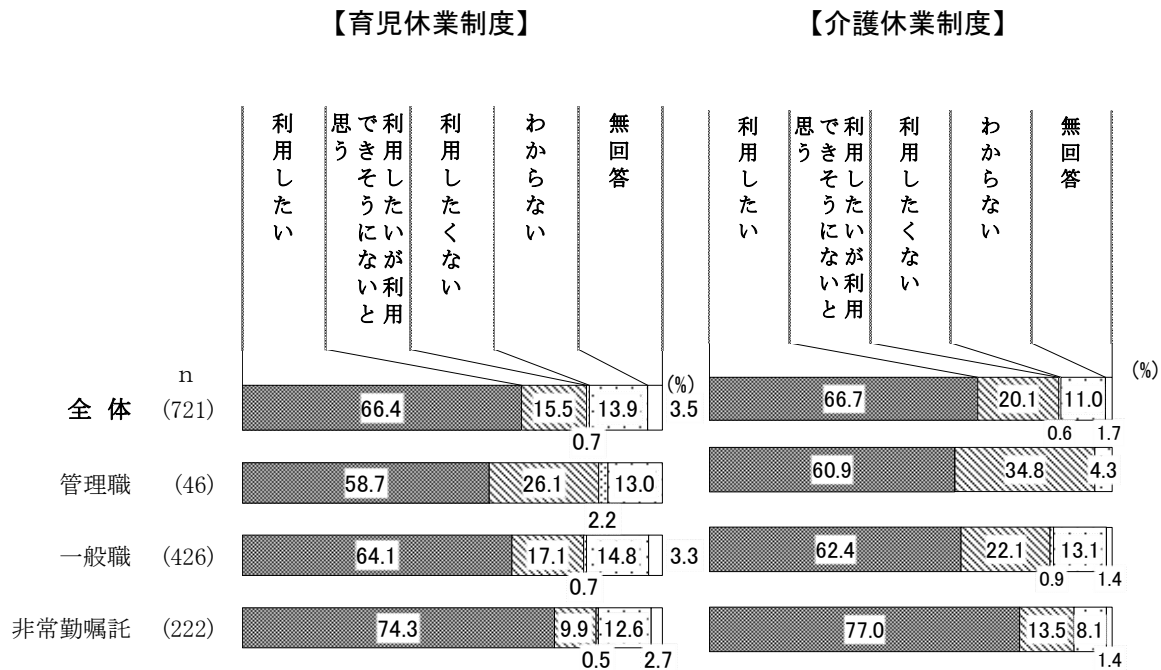


第4章 調査結果の詳細

【職層別】

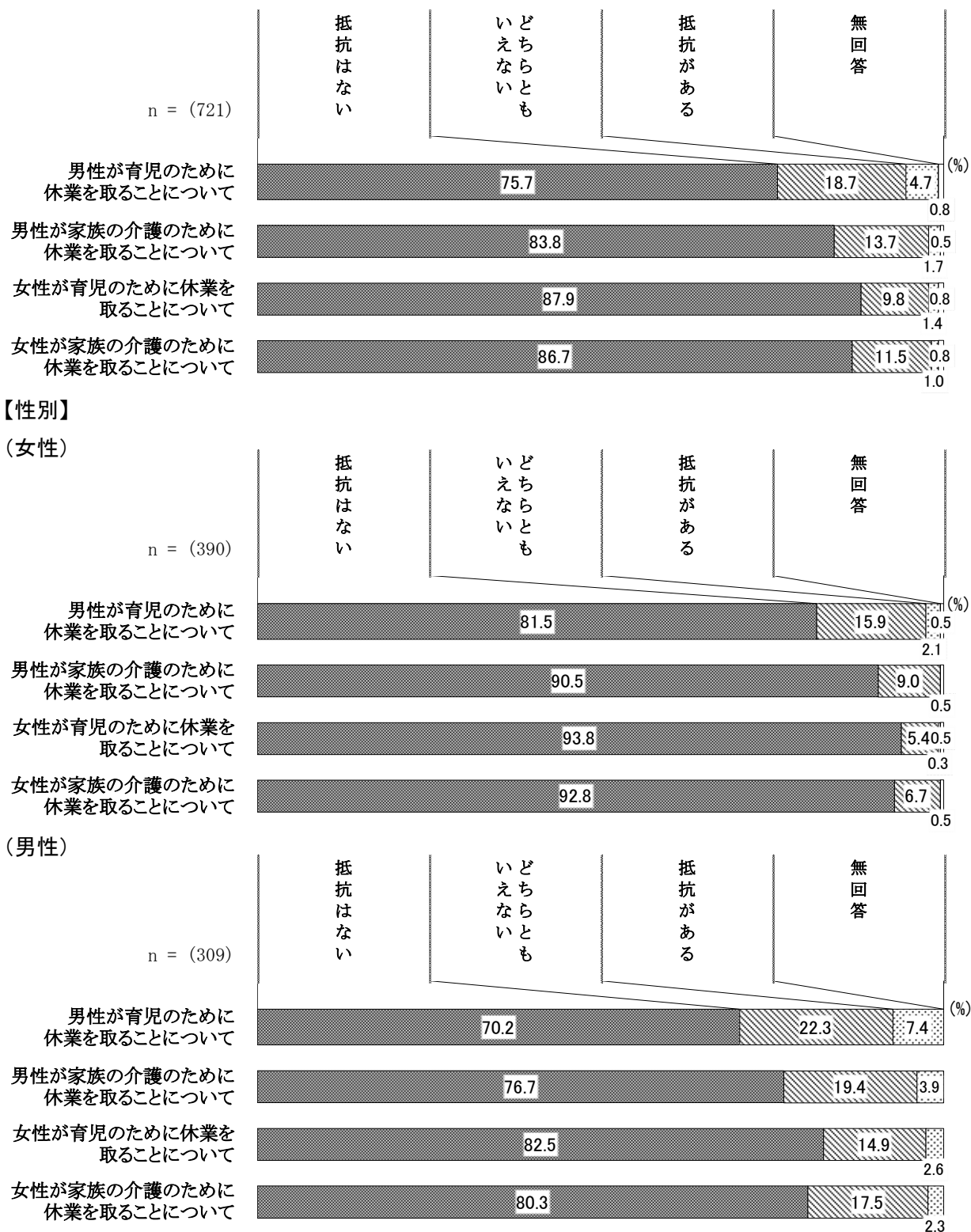
職層別で見ると、育児休業制度を「利用したい」は非常勤嘱託で7割半ば、一般職で6割半ばと高くなっている。「利用したいが利用できそうにないと思う」は職層が上がるほど高く、管理職で2割半ばとなっている。

介護休業制度を「利用したい」は非常勤嘱託で8割近くと高くなっている。「利用したいが利用できそうにないと思う」は職層が上がるほど高く、管理職で3割半ばと高くなっている。



(3) 職場の育児・介護休業制度利用者について

問10 あなたの職場で育児休業や介護休業の制度を利用しようとする人がいたら、あなた自身はどう思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(各項目で○は1つ)



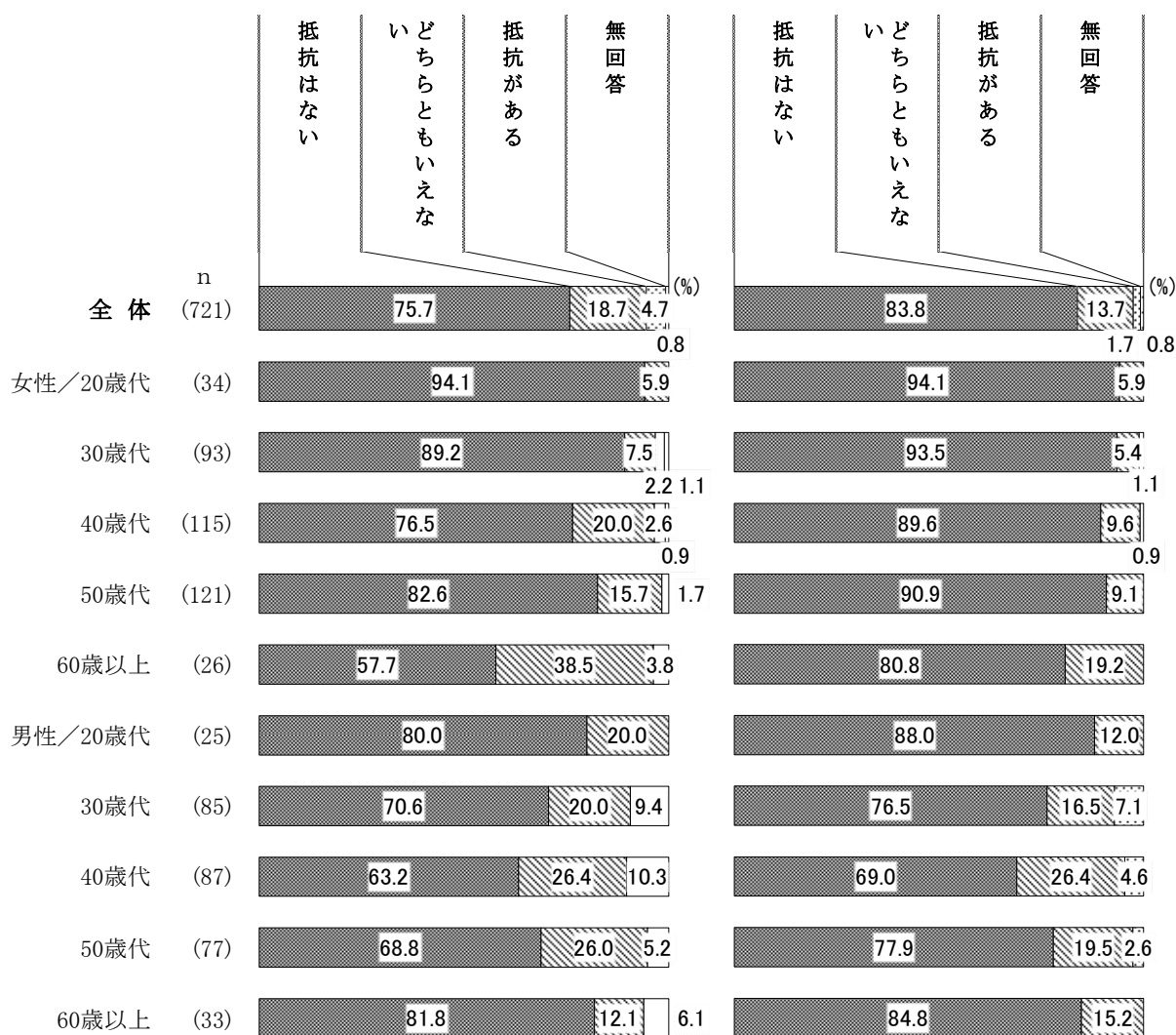
職場の育児・介護休業制度利用者については、男性も女性も「抵抗はない」が多数を占めている。

【年代別】

性・年代別でみると、男性が育児休業を取ることで「抵抗はない」は女性20歳代で9割半ば、30歳代で9割近くと高くなっている。一方、「抵抗がある」は男性40歳代で1割、30歳代で1割近くとなっている。男性が介護休業を取ることでは、「抵抗はない」は女性20歳代から50歳代が9割台と高くなっている。

【男性が育児休業を取ること】

【男性が介護休業を取ること】

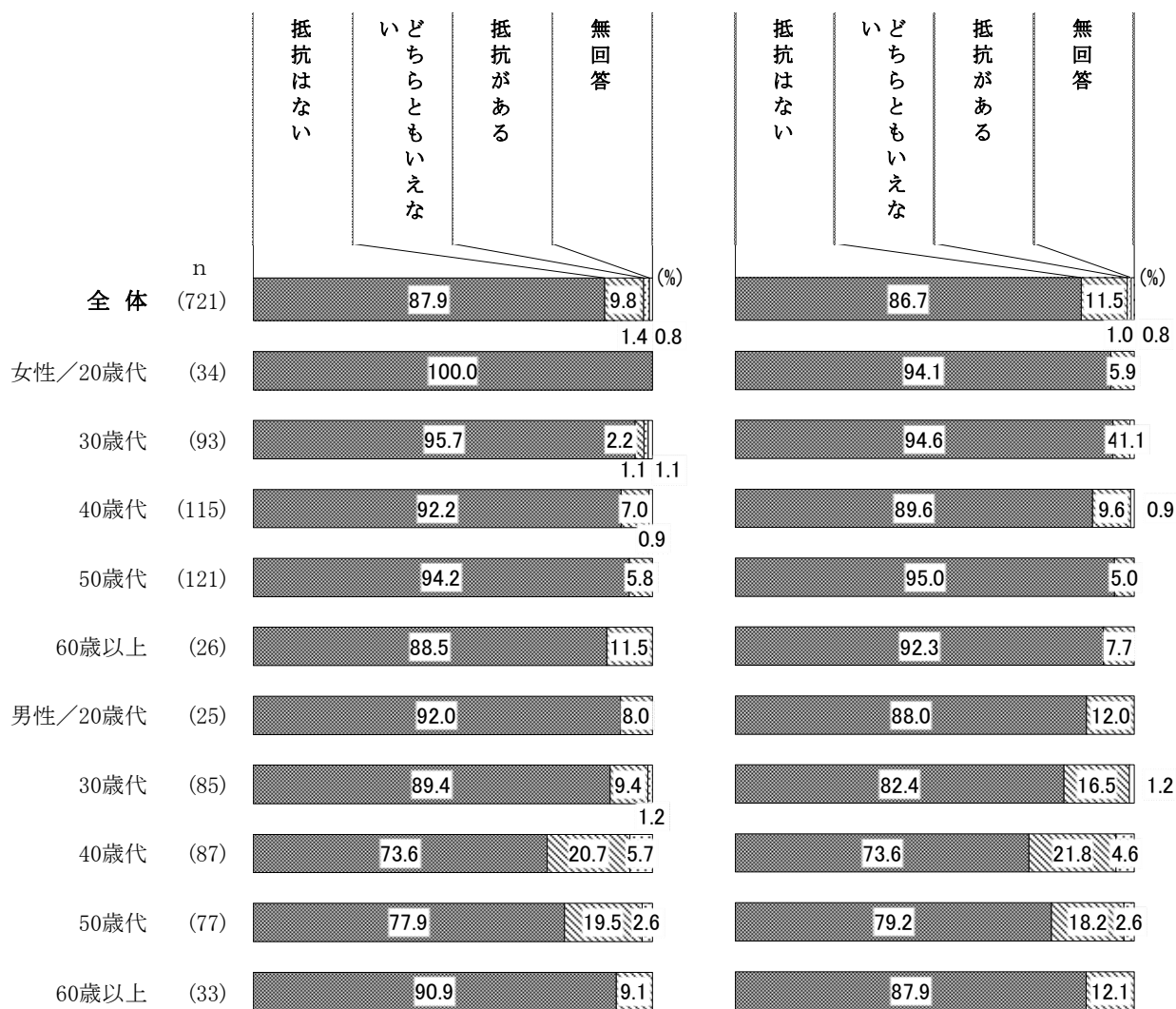


【年代別】

女性が育児休業を取ることで「抵抗はない」は女性20歳代から50歳代、男性20歳代、60歳以上で9割以上と高く、女性20歳代では全数となっている。女性が介護休業を取ることでは、「抵抗はない」は女性のすべての年代が9割以上で高くなっている。

【女性が育児休業を取ること】

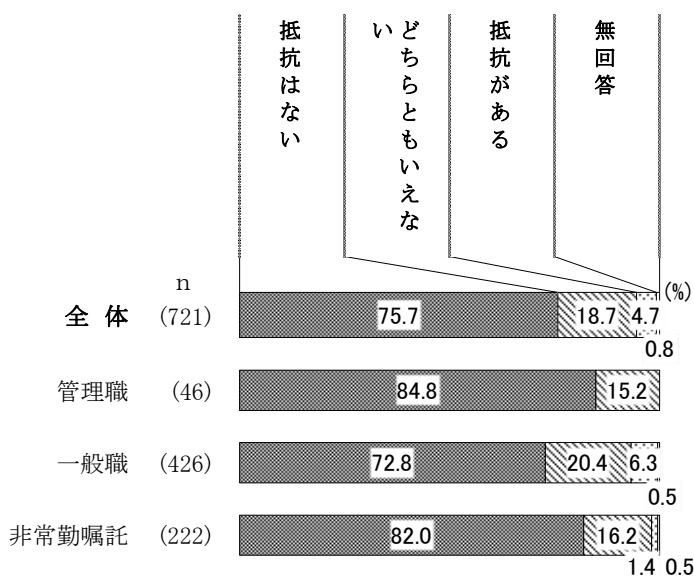
【女性が介護休業を取ること】



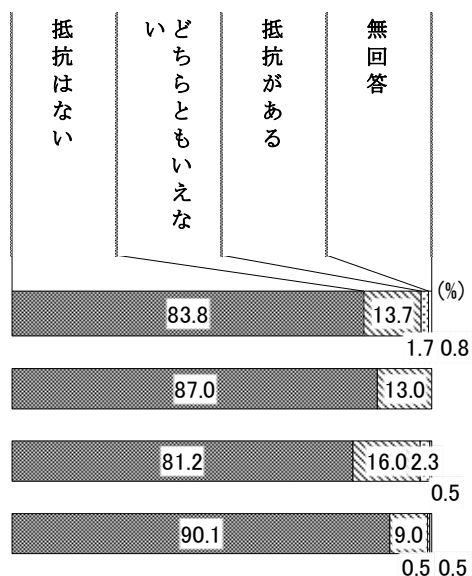
【職層別】

職層別でみると、男性が育児休業を取ることで「抵抗はない」は管理職で8割半ば、非常勤嘱託で8割を超えて高くなっている。女性が育児休業を取ることで「抵抗はない」は非常勤嘱託で9割と高くなっている。女性が育児休業を取ることで「抵抗はない」は非常勤嘱託で9割半ば、管理職で9割を超えて高くなっている。女性が介護休業を取ることで「抵抗はない」は非常勤嘱託で9割半ばと高くなっている。

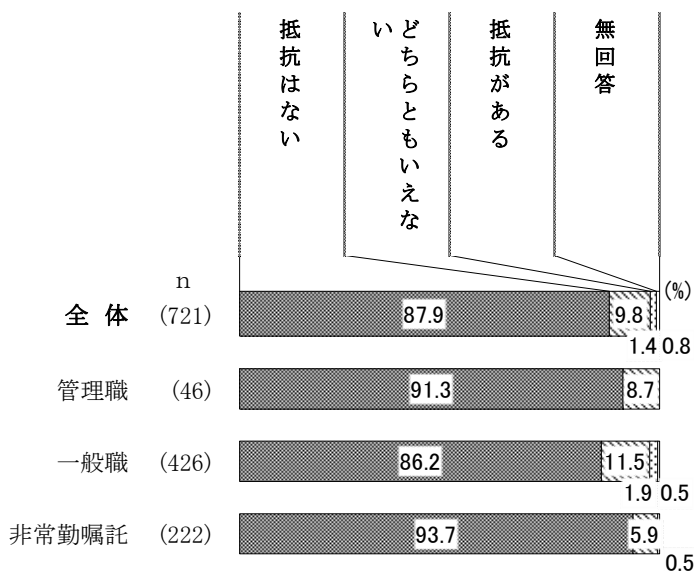
【男性が育児休業を取ること】



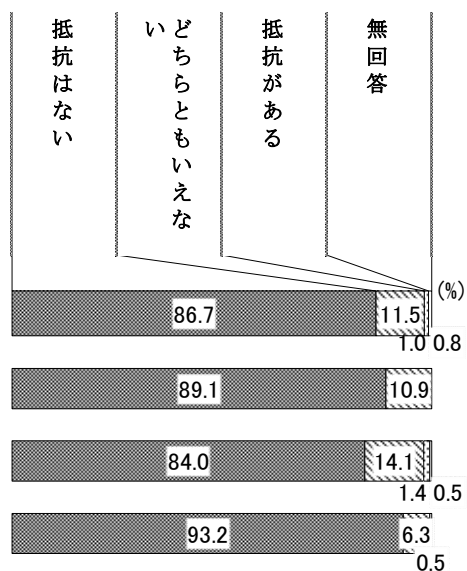
【男性が介護休業を取ること】



【女性が育児休業を取ること】



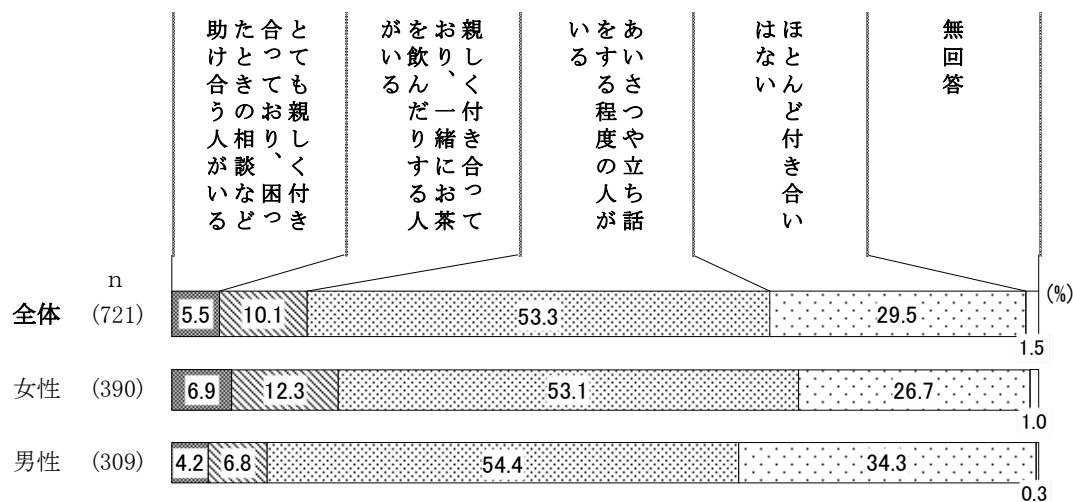
【女性が介護休業を取ること】



3. 地域活動・社会活動について

(1) 隣近所との付き合いの状況

問11 地域活動について伺います。あなたは普段、近隣の方とどの程度おつきあいがありますか。

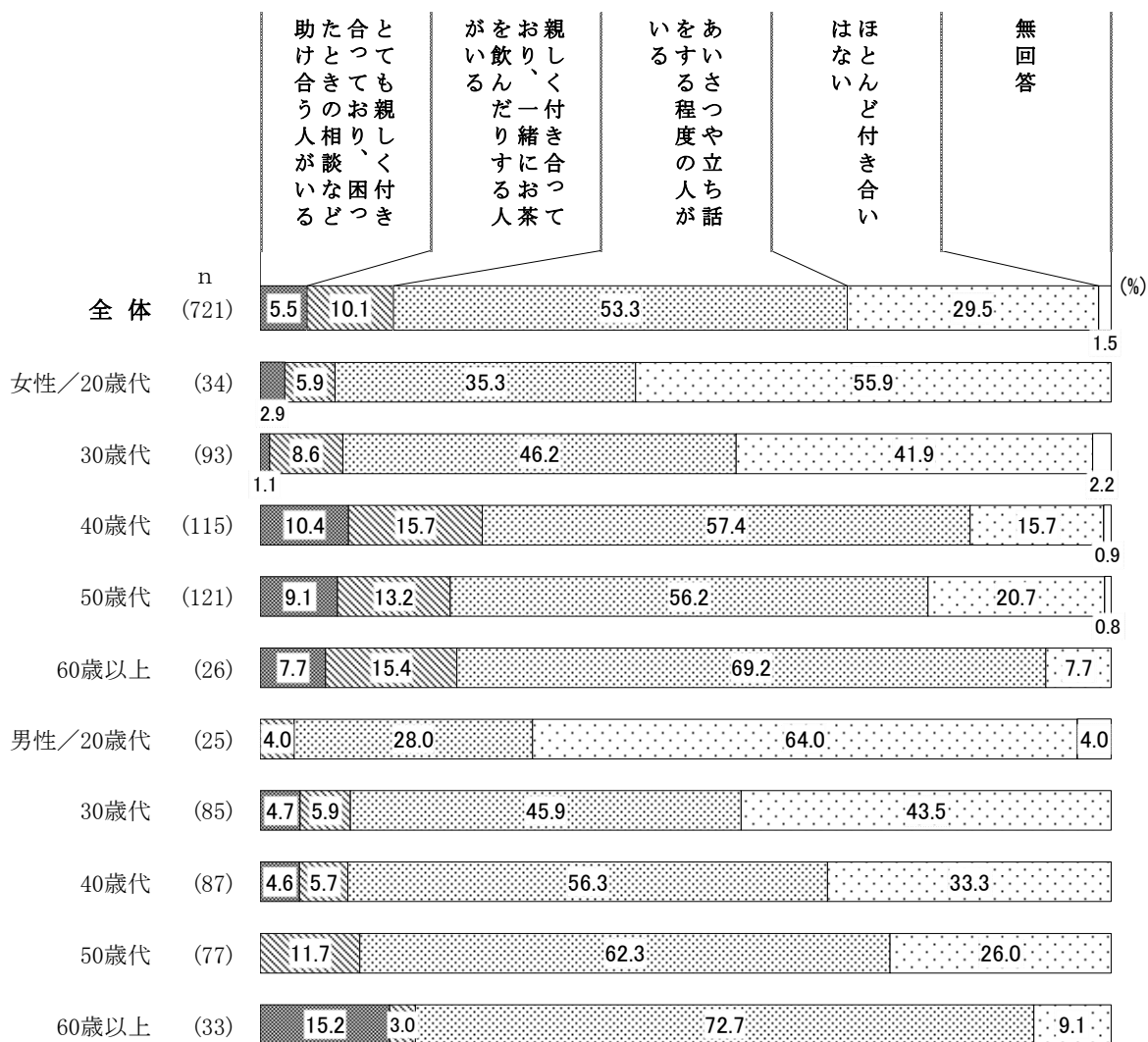


隣近所との付き合いの状況は、「あいさつや立ち話をする程度の人がいる」が53.3%で最も高く、次いで「ほとんど付き合いはない」が29.5%となっている。「あいさつや立ち話をする程度の人がいる」は男女とも5割台と高く、「親しく付き合っており、一緒にお茶を飲んだりする人がいる」は女性が12.3%で男性（6.8%）よりも6ポイント高くなっている。

第4章 調査結果の詳細

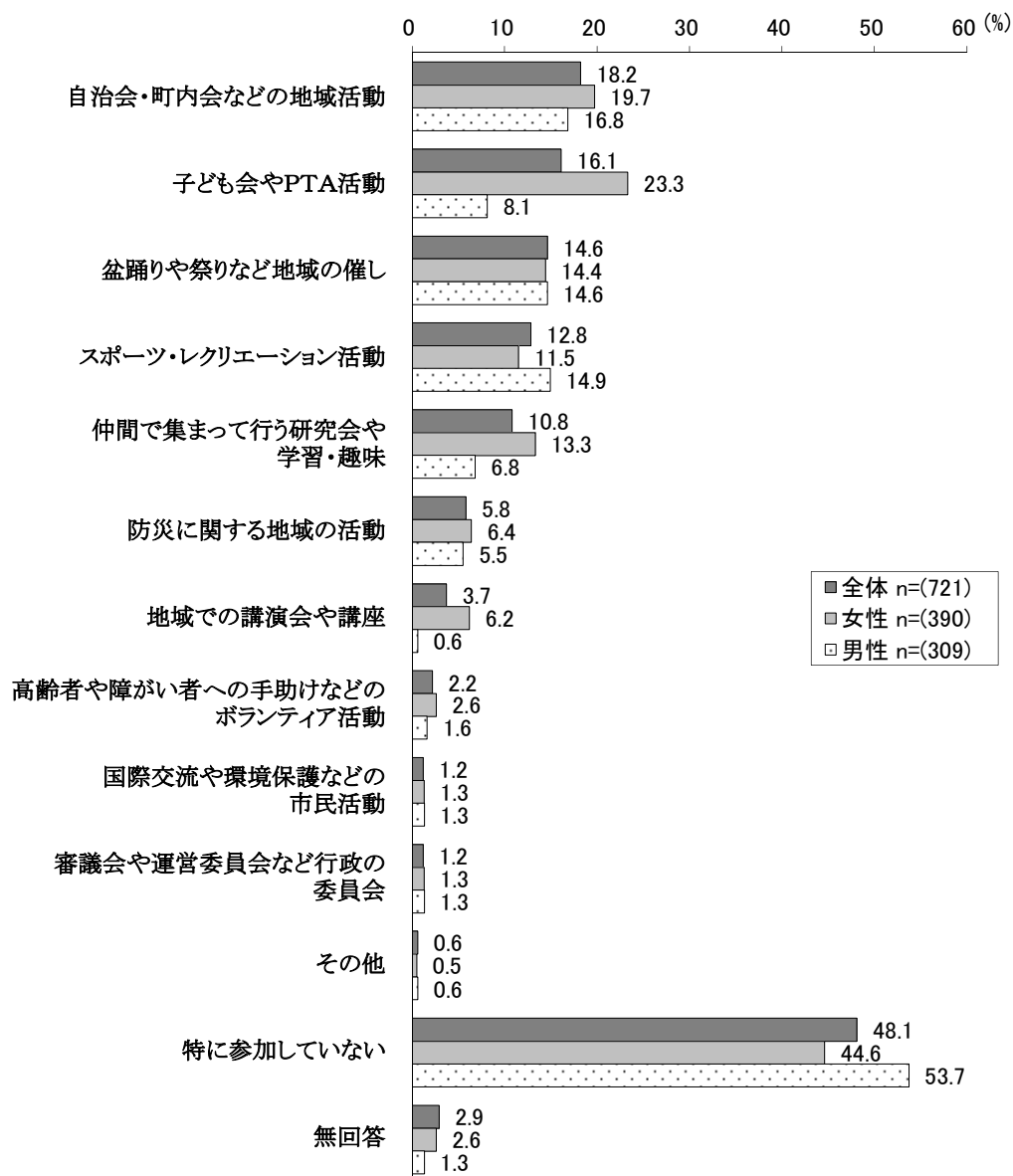
【年代別】

性・年代別でみると、「あいさつや立ち話をする程度の人がいる」は年齢が上がるほど高く、女性60歳以上で7割近く、男性60歳以上で7割半ばと高くなっている。一方、「ほとんど付き合いはない」は年齢が下がるほど高く、女性20歳代で5割半ば、男性20歳代で6割半ばと高くなっている。



(2) 地域活動の参加状況

問12 あなたは次にあげるような活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

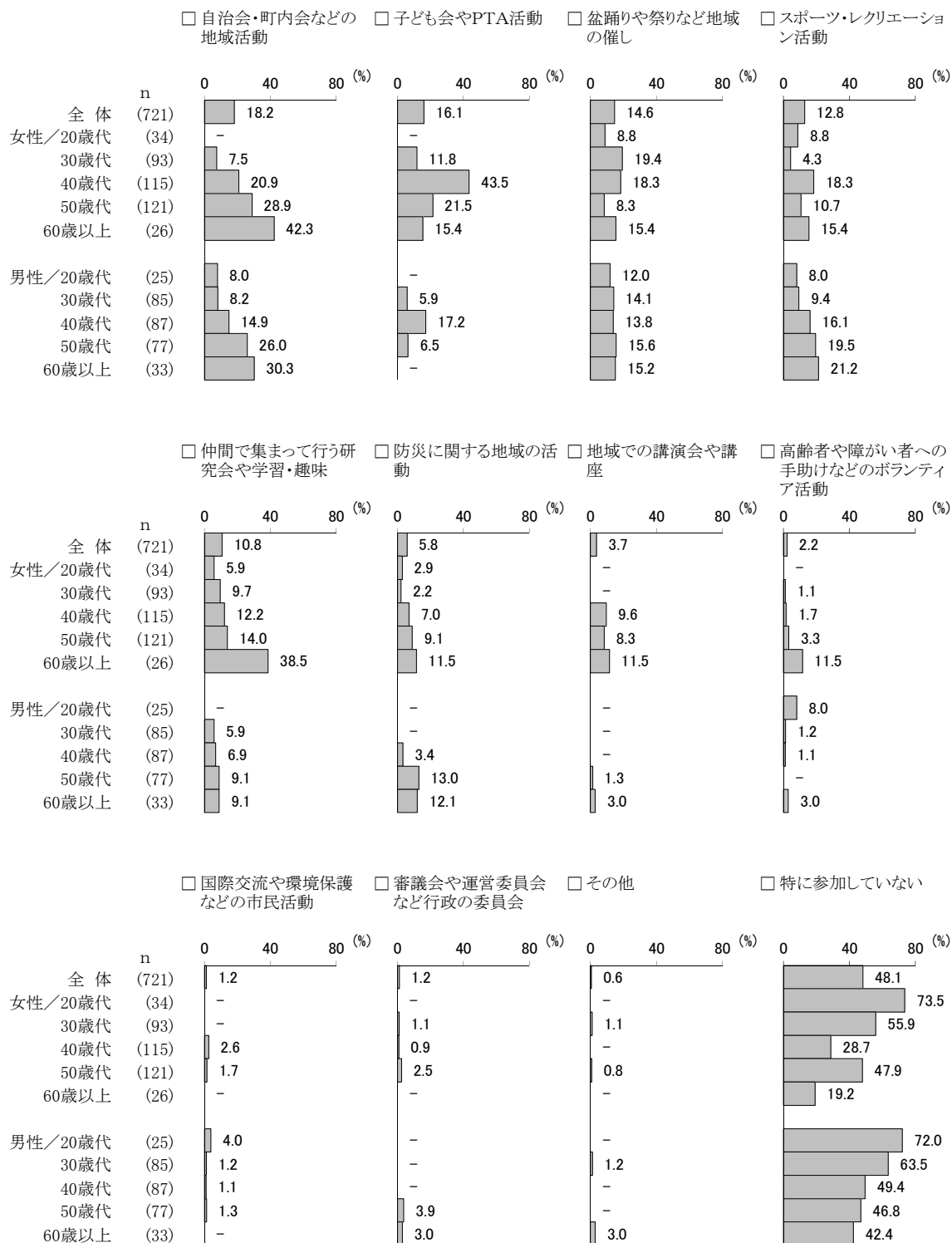


地域活動への参加状況は、「特に参加していない」が最も高くなっているが、参加している活動のなかでは、「自治会・町内会などの地域活動」が18.2%で最も高く、次いで「子ども会やPTA活動」が16.1%、「盆踊りや祭りなど地域の催し」が14.6%となっている。女性では「子ども会やPTA活動」が23.3%で男性（8.1%）よりも15ポイント、「仲間が集まって行う研究会や学習・趣味」が13.3%で男性（6.8%）よりも7ポイント高くなっている。一方、男性では「スポーツ・レクリエーション活動」が14.9%で女性（11.5%）よりも3ポイント高くなっている。また、「特に参加していない」は男性が53.7%で女性（44.6%）よりも9ポイント高くなっている。

第4章 調査結果の詳細

【年代別】

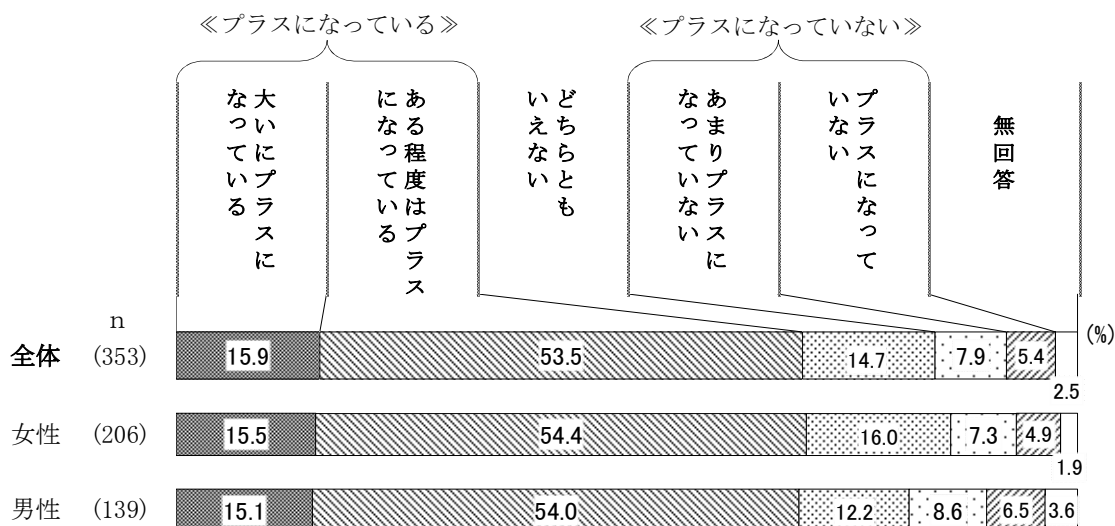
性・年代別でみると、「自治会・町内会などの地域活動」で女性60歳以上で4割を超え、男性60歳以上で3割と高くなっている。「子ども会やPTA活動」は女性40歳代で4割半ば、「仲間で集まって行う研究会や学習・趣味」は女性60歳以上で4割近くと高くなっている。「特に参加していない」は男女とも20歳代で7割以上と高くなっている。



(3) 地域活動への参加効果

【問12 で「1」から「11」と回答した方】

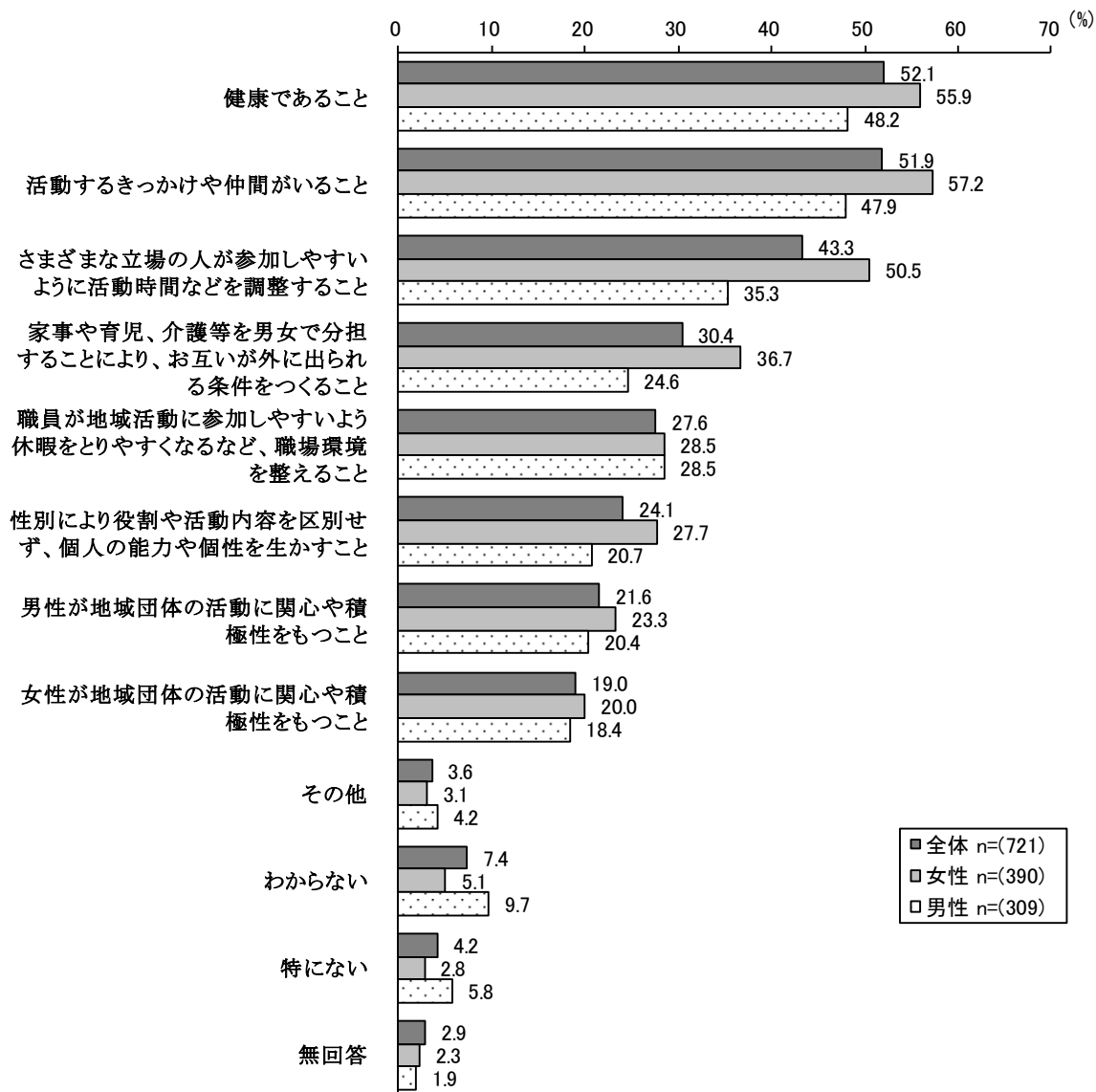
問12-1 地域活動への参加は、あなたの仕事にとってプラスになっていると思いますか。
(○は1つ)



地域活動への参加効果は、《プラスになっている》が69.4%、《プラスになっていない》が13.3%となっている。性別で大きな差異はみられないが、《プラスになっていない》で男性が15.1%で女性(12.2%)よりも3ポイント高くなっている。

(4) 地域活動への参加に必要なこと

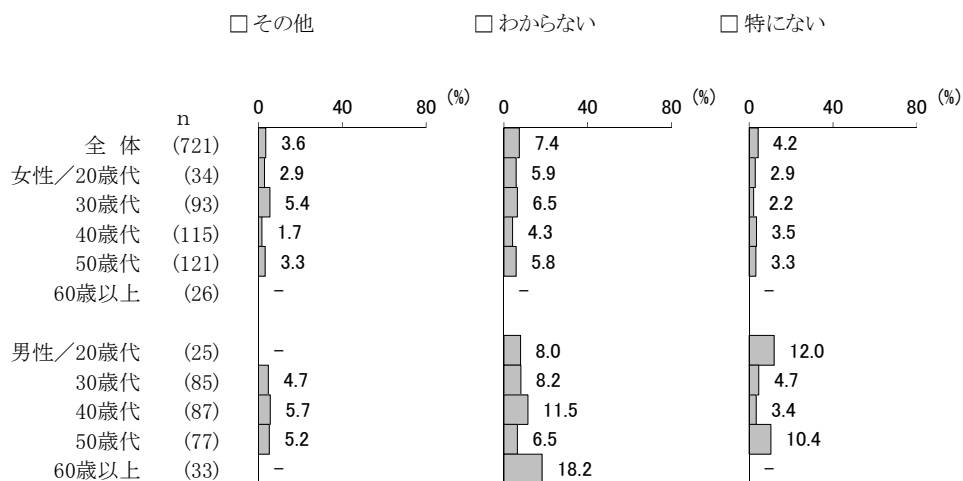
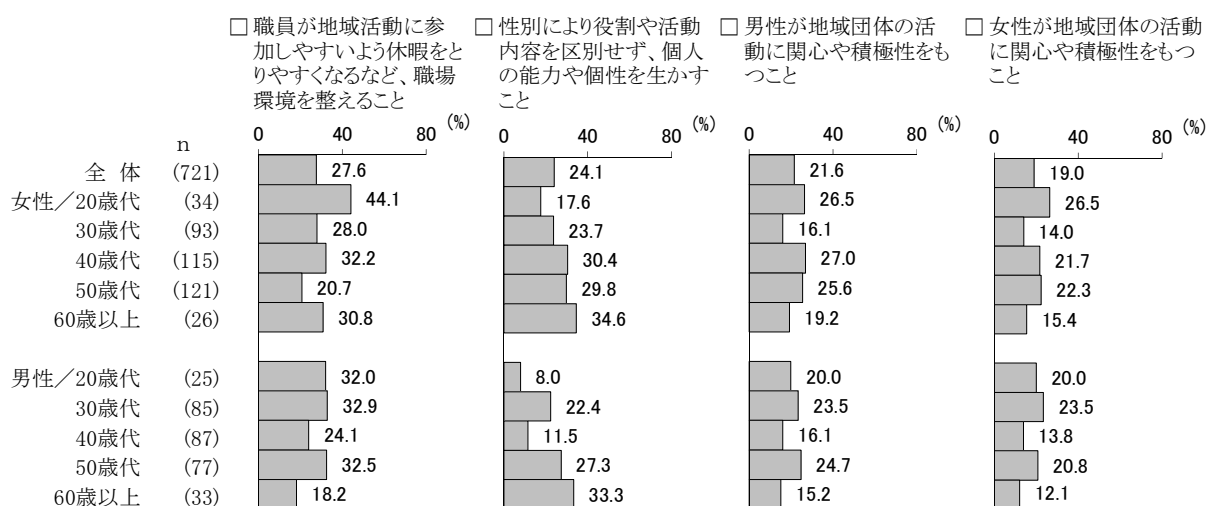
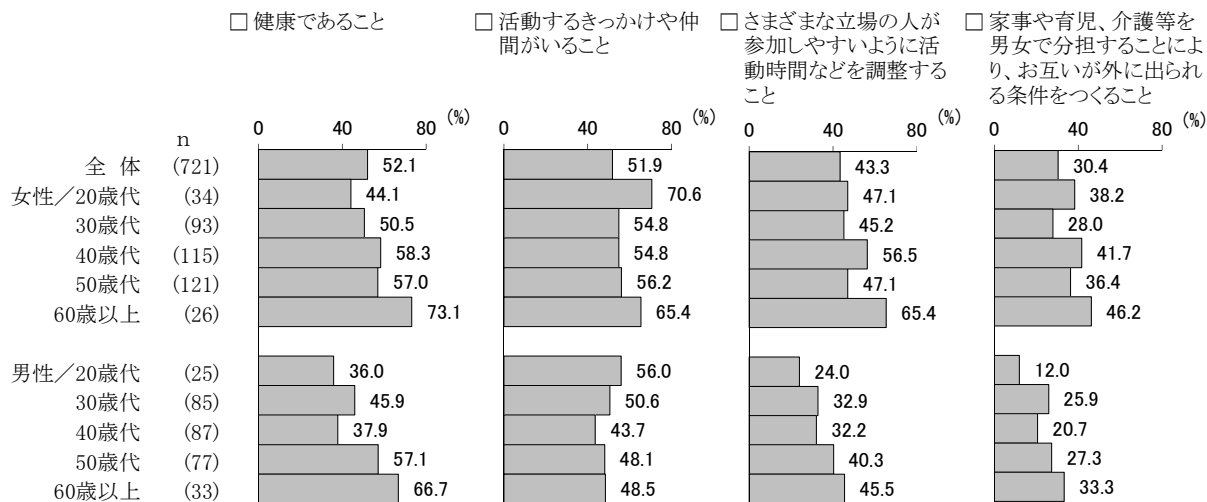
問13 一般的に、男女がともに地域活動に参加するためにどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



地域活動への参加に必要なことは、「健康であること」が52.1%で最も高く、次いで「活動するきっかけや仲間がいること」が51.9%、「さまざまな立場の人が参加しやすいように活動時間などを調整すること」が43.3%となっている。女性では「さまざまな立場の人が参加しやすいように活動時間などを調整すること」が50.5%で男性（35.3%）よりも15ポイント、「家事や育児、介護等を男女で分担することにより、お互いが外に出られる条件をつくること」が36.7%で男性（24.6%）よりも12ポイント高くなっている。

【年代別】

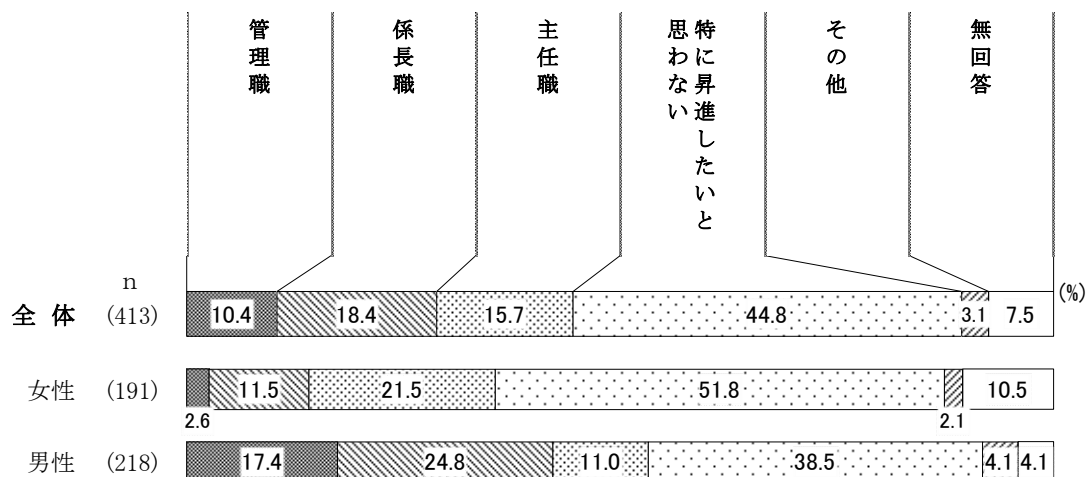
性・年代別でみると、「健康であること」は女性60歳以上で7割半ば、男性60歳以上で7割近くと高くなっている。「活動するきっかけや仲間がいること」は女性20歳代で7割を超え、女性60歳以上で6割半ばと高くなっている。「さまざまな立場の人が参加しやすいように活動時間などを調整すること」も女性60歳以上で6割半ばと高くなっている。



4. 仕事や職場に関することについて

(1) 希望する役職

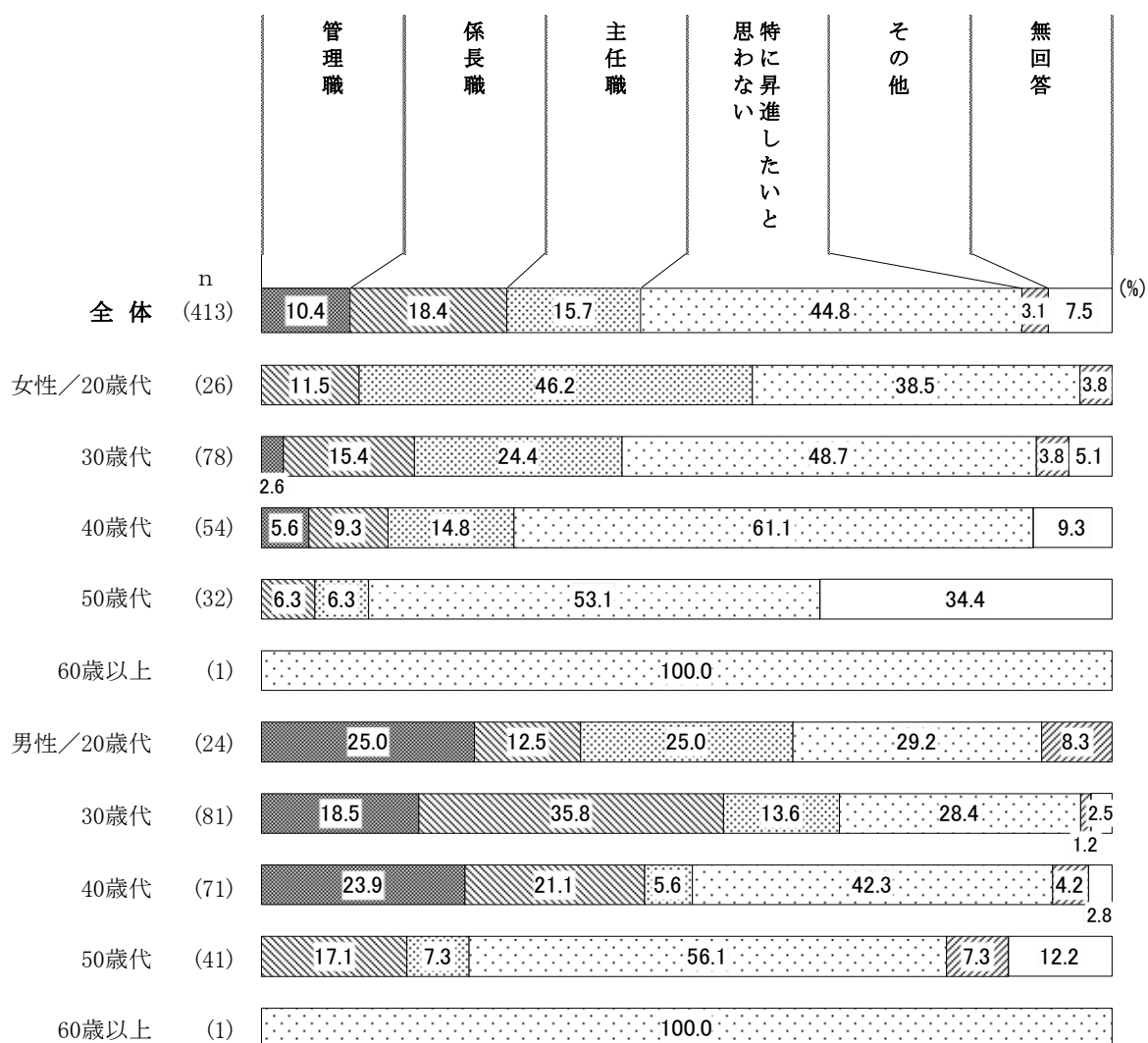
問14は、係長職以下の方（再任用職員・非常勤嘱託職員の方を除く）におうかがいします。
 問14 あなたは、将来どのような役職にまでつきたいと思いますか。（○は1つ）



希望する役職は、「特に昇進したと思わない」が44.8%で最も高く、次いで「係長職」が18.4%、「主任職」が15.7%となっている。「特に昇進したと思わない」は女性が51.8%で男性（38.5%）よりも13ポイント高く、「主任職」も女性が21.5%で男性（11.0%）よりも11ポイント高くなっている。一方、「管理職」は男性が17.4%で女性（2.6%）よりも15ポイント高く、「係長職」も男性が24.8%で女性（11.5%）よりも13ポイント高くなっている。

【年代別】

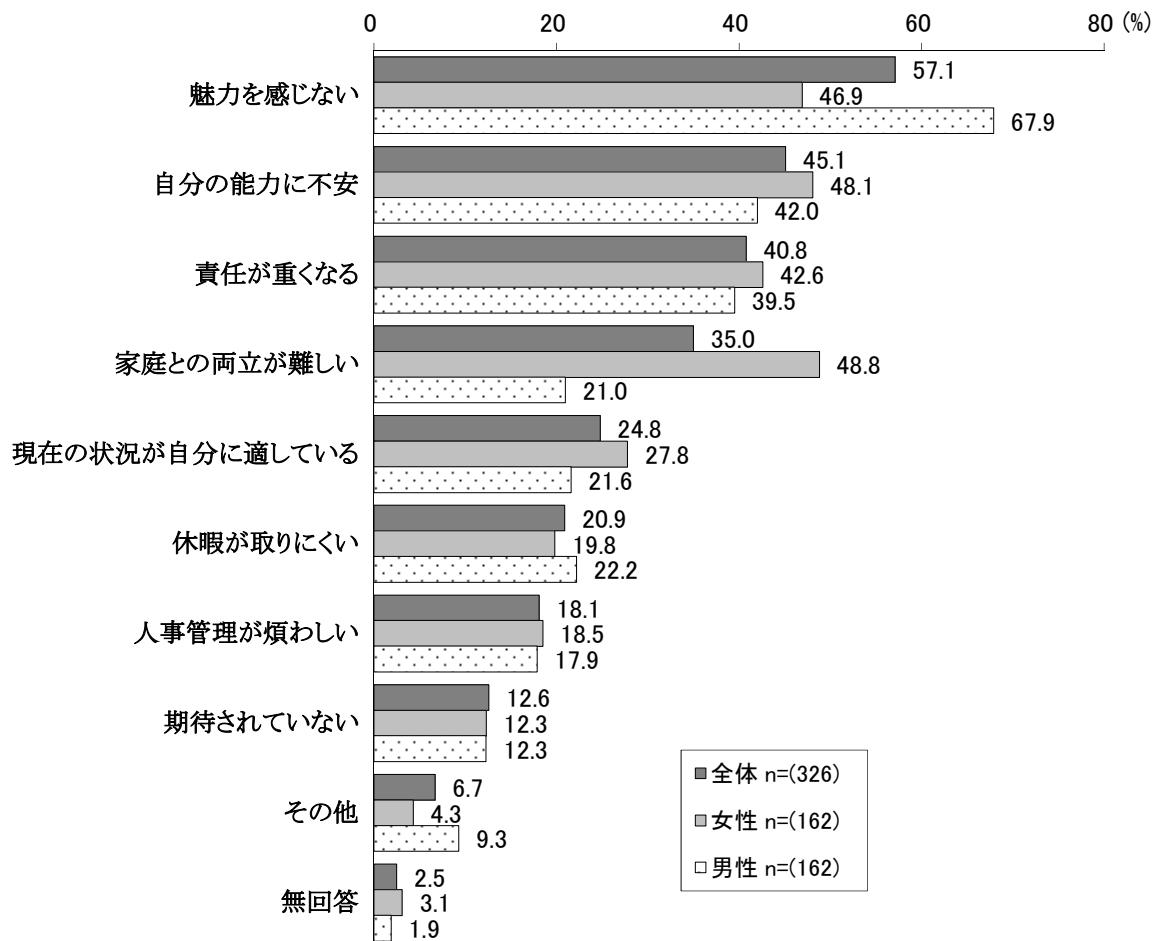
性・年代別でみると、「特に昇進したいと思わない」は女性40歳代で6割を超え、男女50歳代で5割半ばと高くなっている。「管理職」はほかの年代と比較して男性40歳代以下で高くなっている。



(2) 上級職を望まない理由

【問14で「2 係長職」、「3 主任職」、「4 特に昇進したいと思わない」と回答した方】

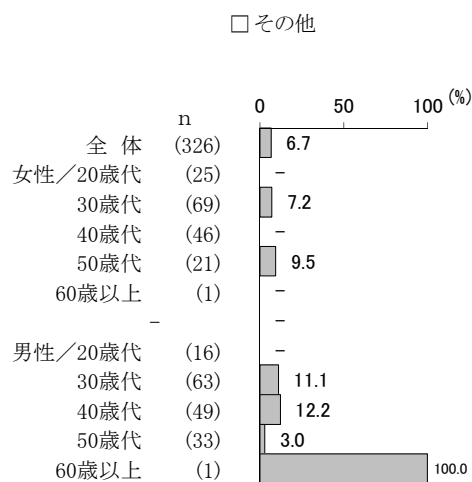
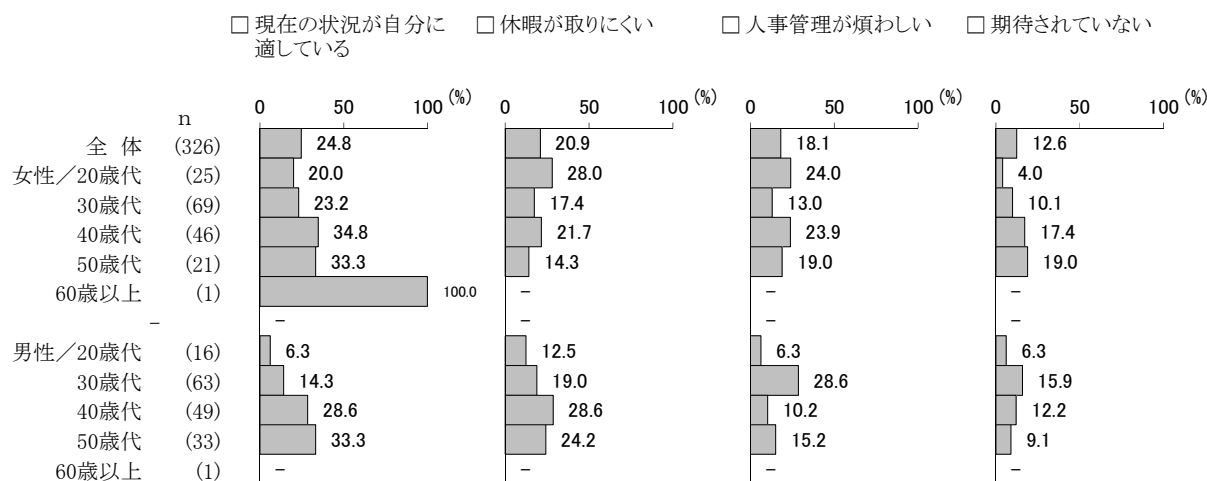
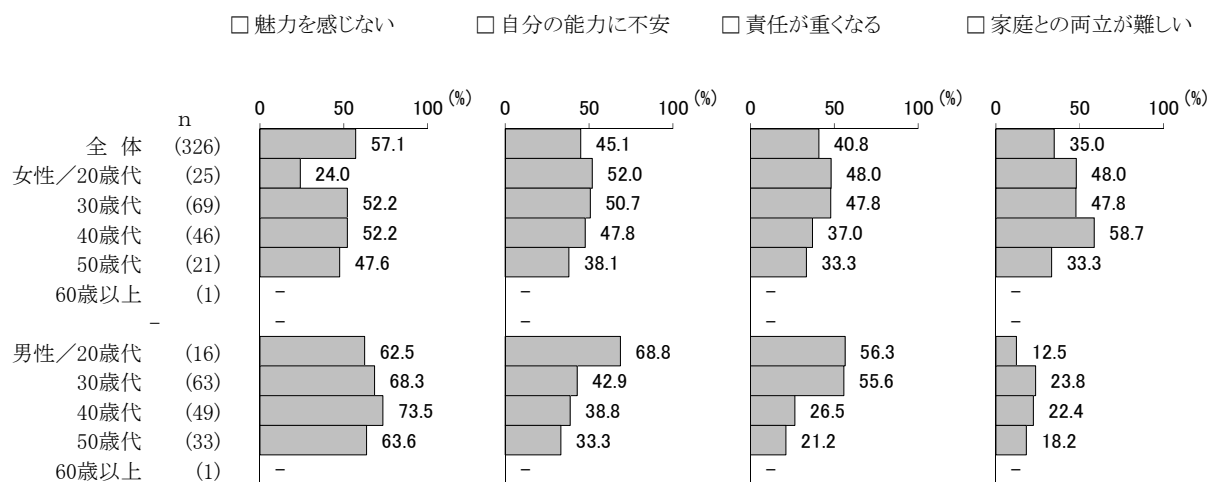
問14-1 管理職の職務を望まない理由はどんなことですか。(あてはまるものすべてに○)



上級職を望まない理由は、「魅力を感じない」が57.1%で最も高く、次いで「自分の能力に不安」が45.1%、「責任が重くなる」が40.8%となっている。女性では「家庭との両立が難しい」が48.8%で男性(21.0%)よりも28ポイント高くなっている。「自分の能力に不安」、「現在の状況が自分に適している」も女性が男性よりも6ポイント高くなっている。一方、「魅力を感じない」は男性が67.9%で女性(46.9%)よりも21ポイント高くなっている。

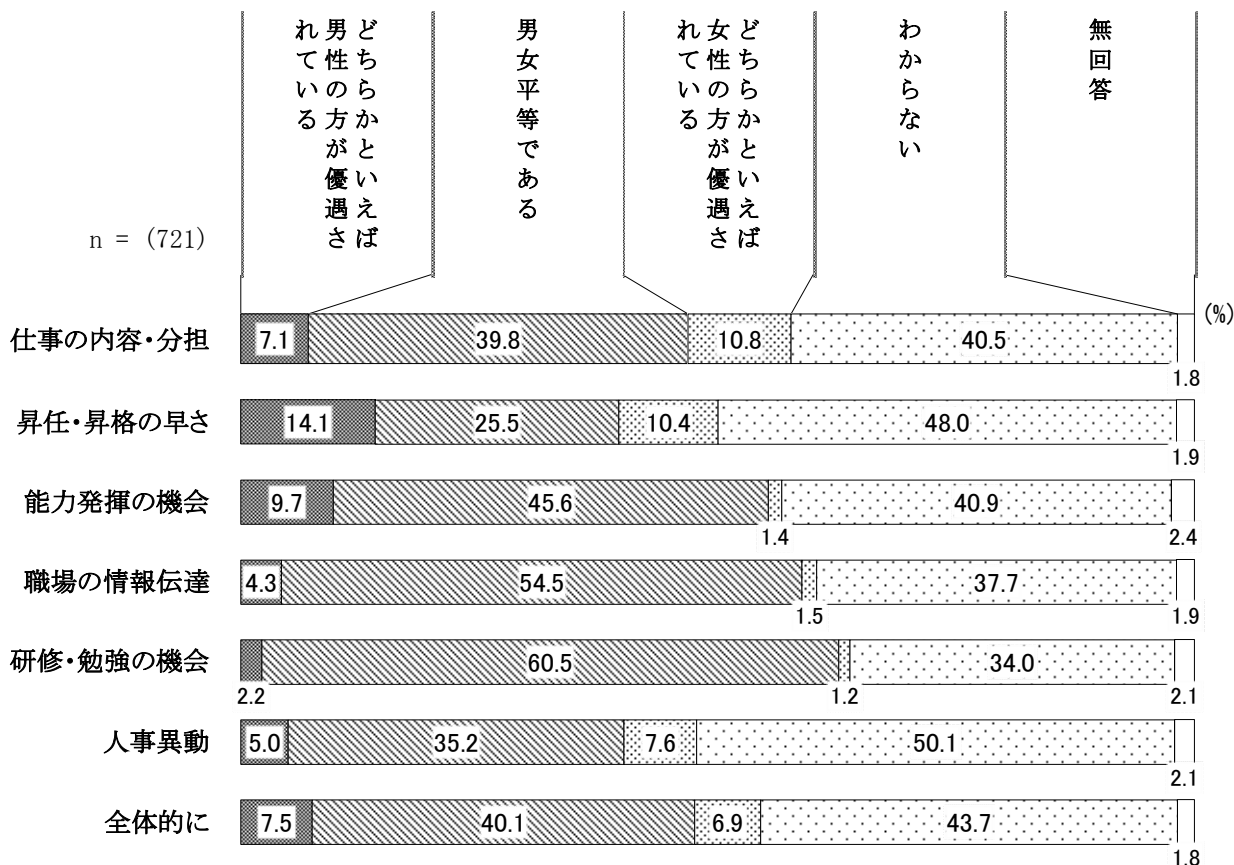
【年代別】

性・年代別でみると、「魅力を感じない」は男性のすべての年代で6割以上と高くなっている。女性も30歳代、40歳代で5割を超えて高くなっている。「家庭との両立が難しい」は女性40歳代で6割近くと高くなっている。



(3) 市の仕事における男女平等観

問15 小金井市においては、現在、制度上の男女差はありませんが、実態はどう思いますか。
(各項目で〇は1つ)

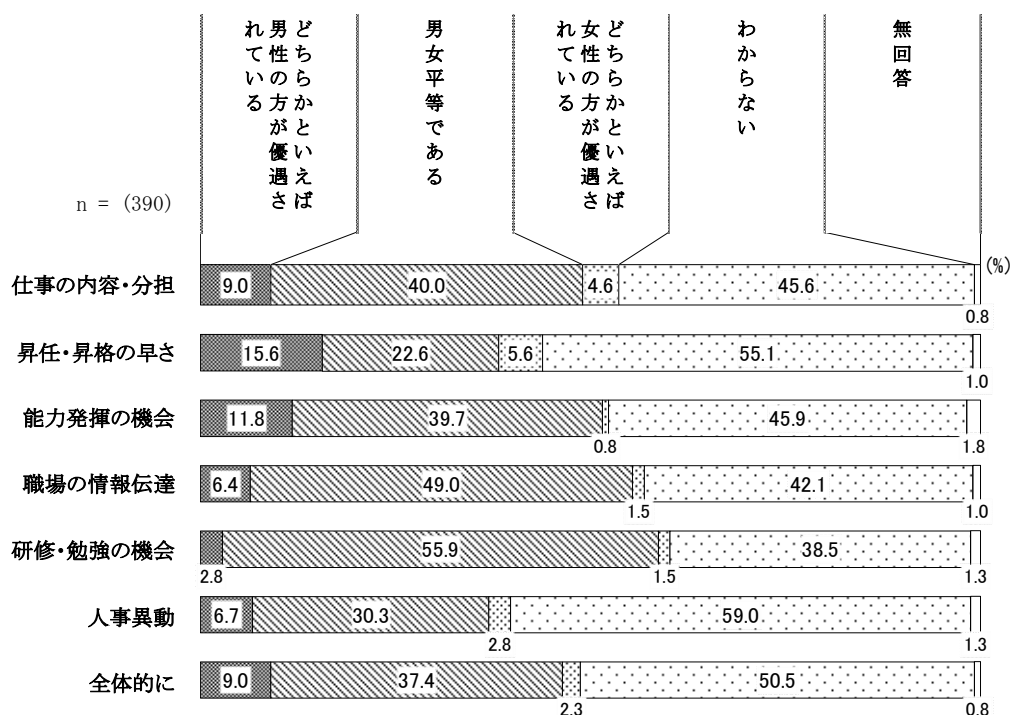


市の仕事における男女平等観は、「男女平等である」は「研修・勉強の機会」が60.5%、「職場の情報伝達」が54.5%で半数を超えて高くなっている。

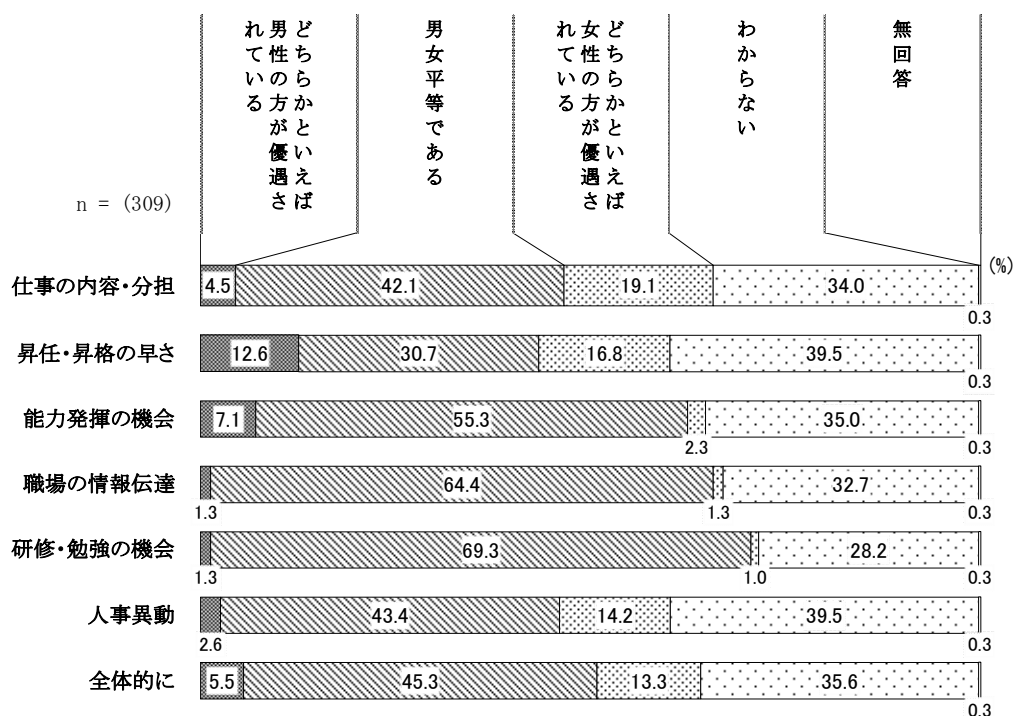
【性別】

性別でみると、女性ではどの項目も「わからない」が高い傾向にあるが、「男女平等である」は“研修・勉強の機会”で5割半ばと高くなっている。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は“昇任・昇格の早さ”で1割半ば、“能力発揮の機会”で1割を超えている。「どちらかといえば女性の方が優遇されている」はどの項目も1割未満となっている。男性では、「男女平等である」は“研修・勉強の機会”で7割近く、“職場の情報伝達”で6割半ばと高くなっている。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は“昇任・昇格の早さ”で1割半ばとなっている。「どちらかといえば女性の方が優遇されている」は“仕事の内容・分担”、“昇任・昇格の早さ”で2割近く、“人事異動”、“全体的に”で1割半ばとなっている。

(女性)

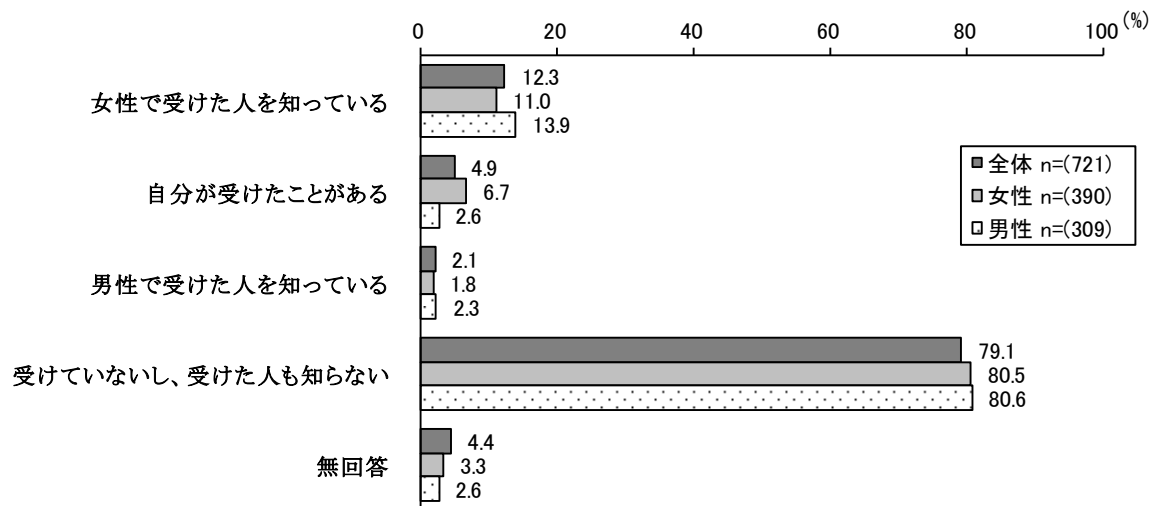


(男性)



(4) セクハラ等の被害経験

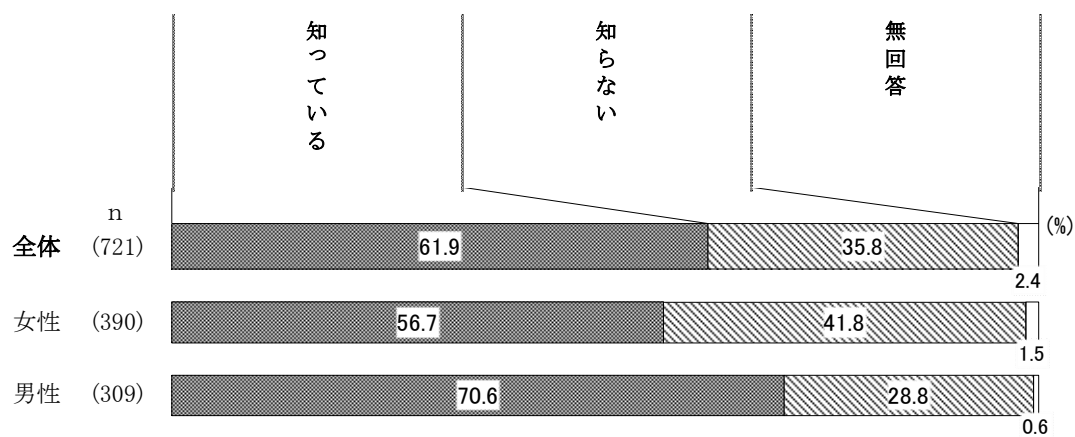
問16 あなたはこの1年間に職場でセクシュアル・ハラスメントやマタニティ・ハラスメント等を受けたことがありますか。または、受けた人を知っていますか。
 (あてはまるものすべてに○)



セクハラ等の被害経験は、「受けていないし、受けた人も知らない」が女性で80.5%、男性で80.6%となっている。「女性で受けた人を知っている」は女性で11.0%、男性で13.9%、「自分が受けたことがある」は女性が6.7%となっている。

(5) 相談窓口の認知度

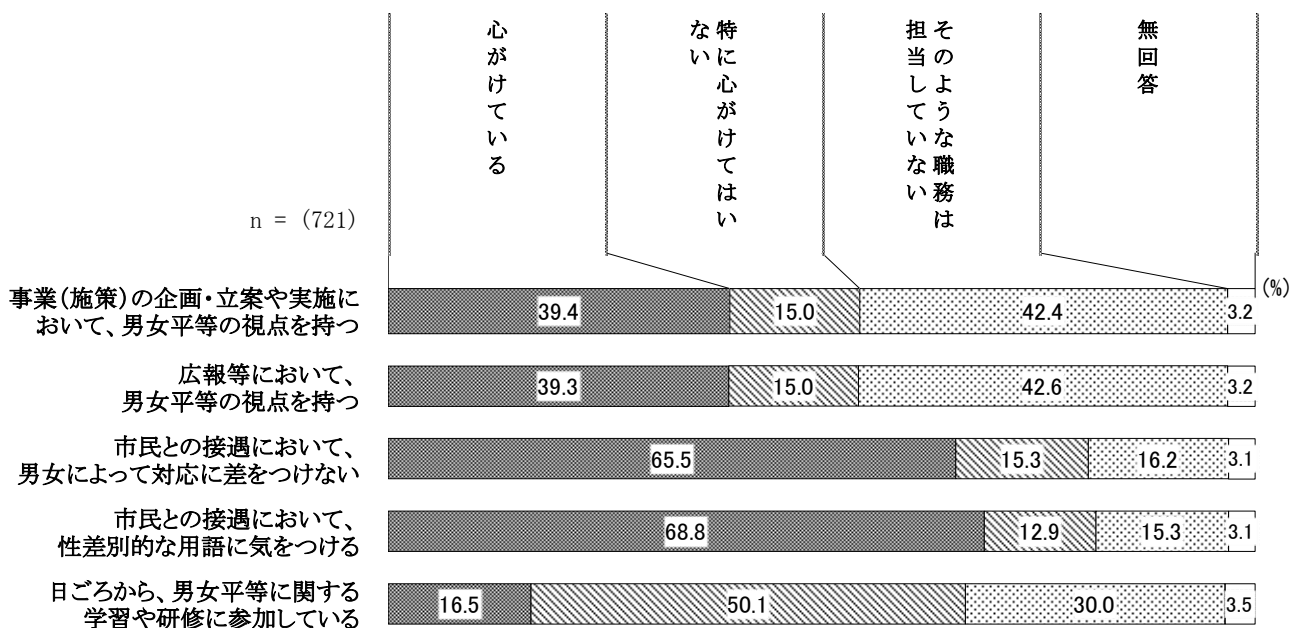
問17 職場内でセクシュアル・ハラスメントやマタニティ・ハラスメント等を受けたときに、相談できる窓口があることを知っていますか。(○は1つ)



セクハラ等の相談窓口の認知度は、「知っている」が61.9%、「知らない」が35.8%となっている。男女とも「知っている」が「知らない」を上回っているが、「知っている」は男性が70.6%で女性(56.7%)よりも14ポイント高くなっている。

(6) 日頃心がけていること

問18 あなたはふだん、次のようなことを心がけていますか。(各項目で○は1つ)

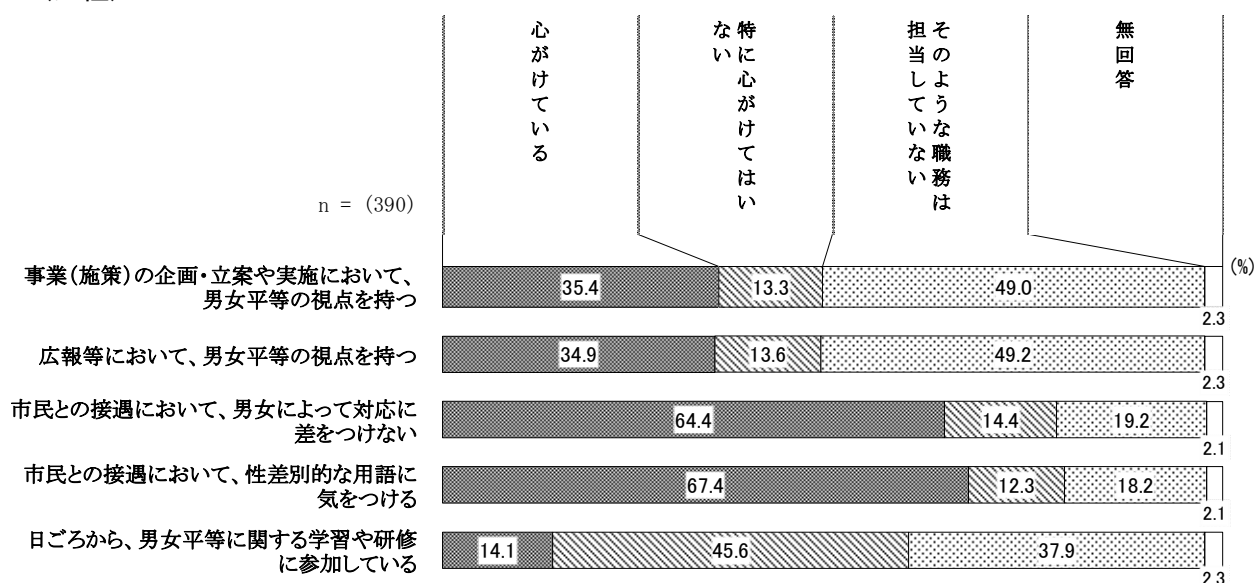


日頃「心がけている」ことは、「市民との接遇において、性差別的な用語に気をつける」(68.8%)、「市民との接遇において、男女によって対応に差をつけない」(65.5%)が6割台となっている。一方、「特に心がけてはいない」は「日ごろから、男女平等に関する学習や研修に参加している」が50.1%となっている。

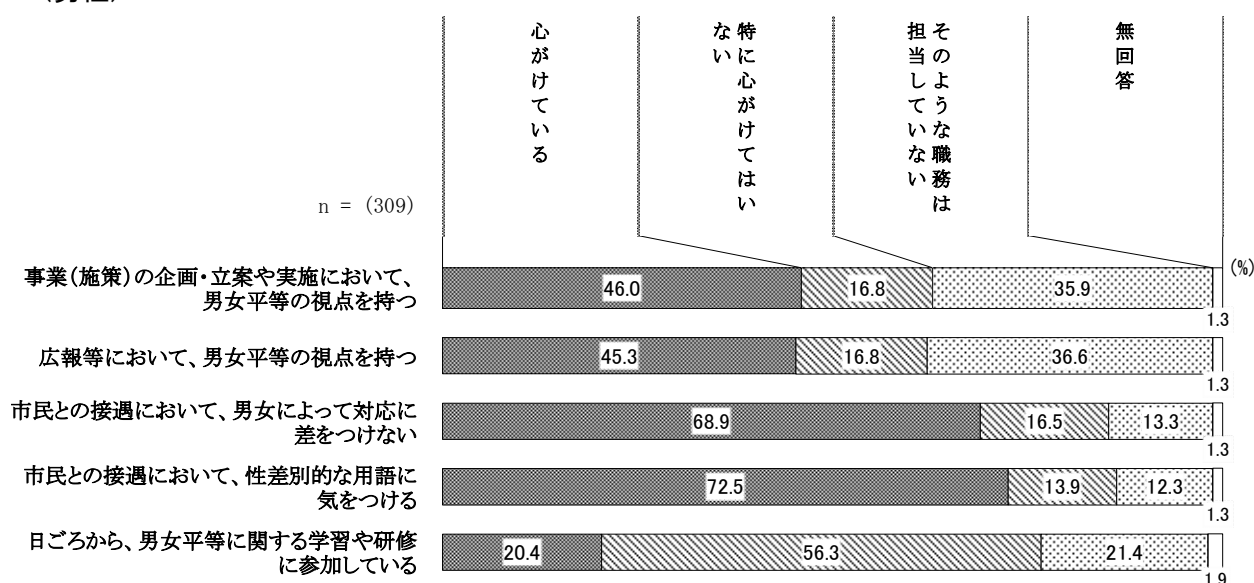
【性別】

性別でみると、女性では、「心がけている」は“市民との接遇において、性差別的な用語に気をつける”で7割近く、“市民との接遇において、男女によって対応に差をつけない”で6割半ばと高くなっている。「特に心がけてはいない」は“日ごろから、男女平等に関する学習や研修に参加している”で4割半ばと高くなっている。男性では、「心がけている」は“市民との接遇において、性差別的な用語に気をつける”で7割半ば、“市民との接遇において、男女によって対応に差をつけない”で7割近くと高くなっている。「特に心がけてはいない」は“日ごろから、男女平等に関する学習や研修に参加している”で5割半ばと高くなっている。

(女性)

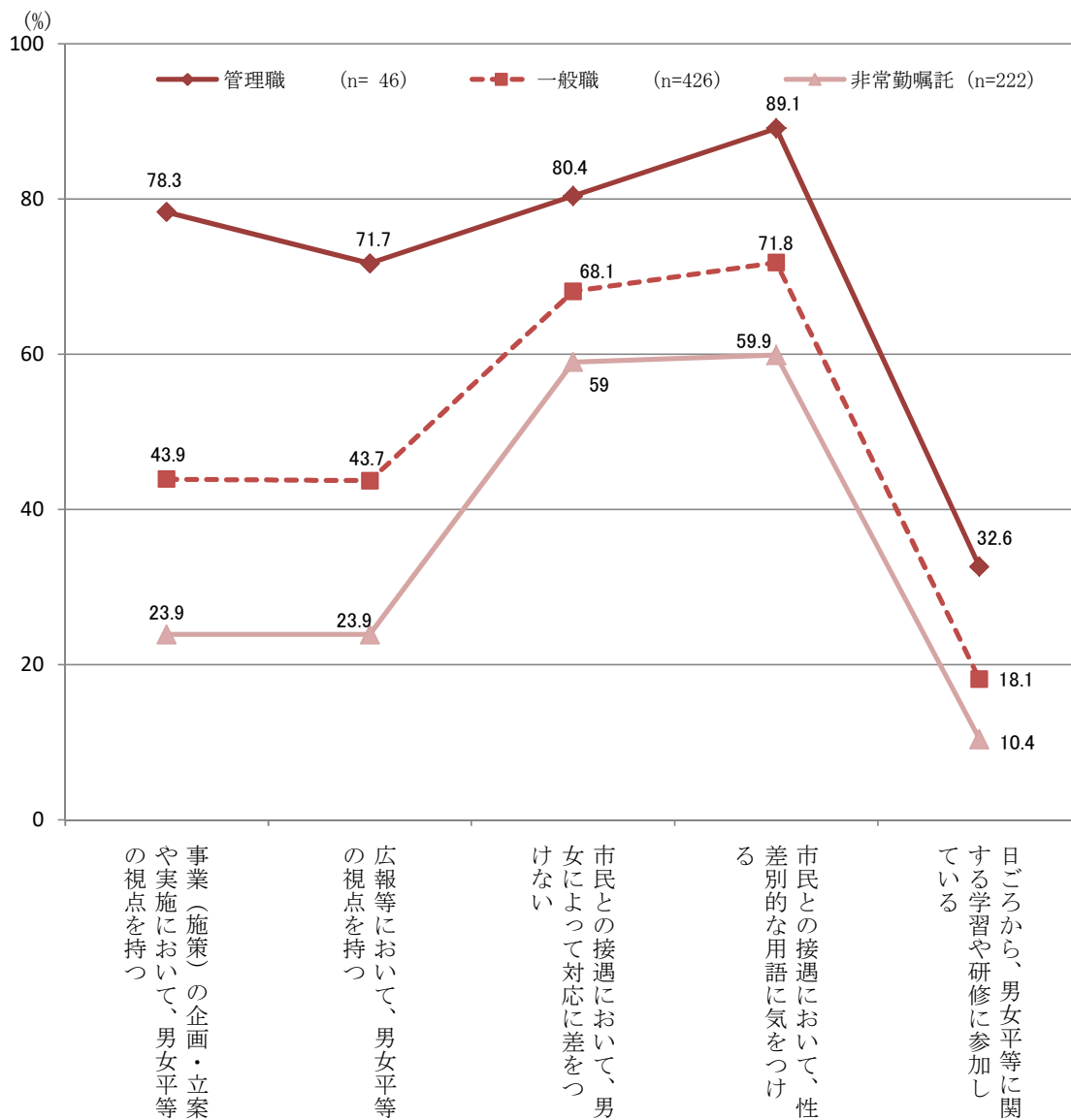


(男性)



【職層別】

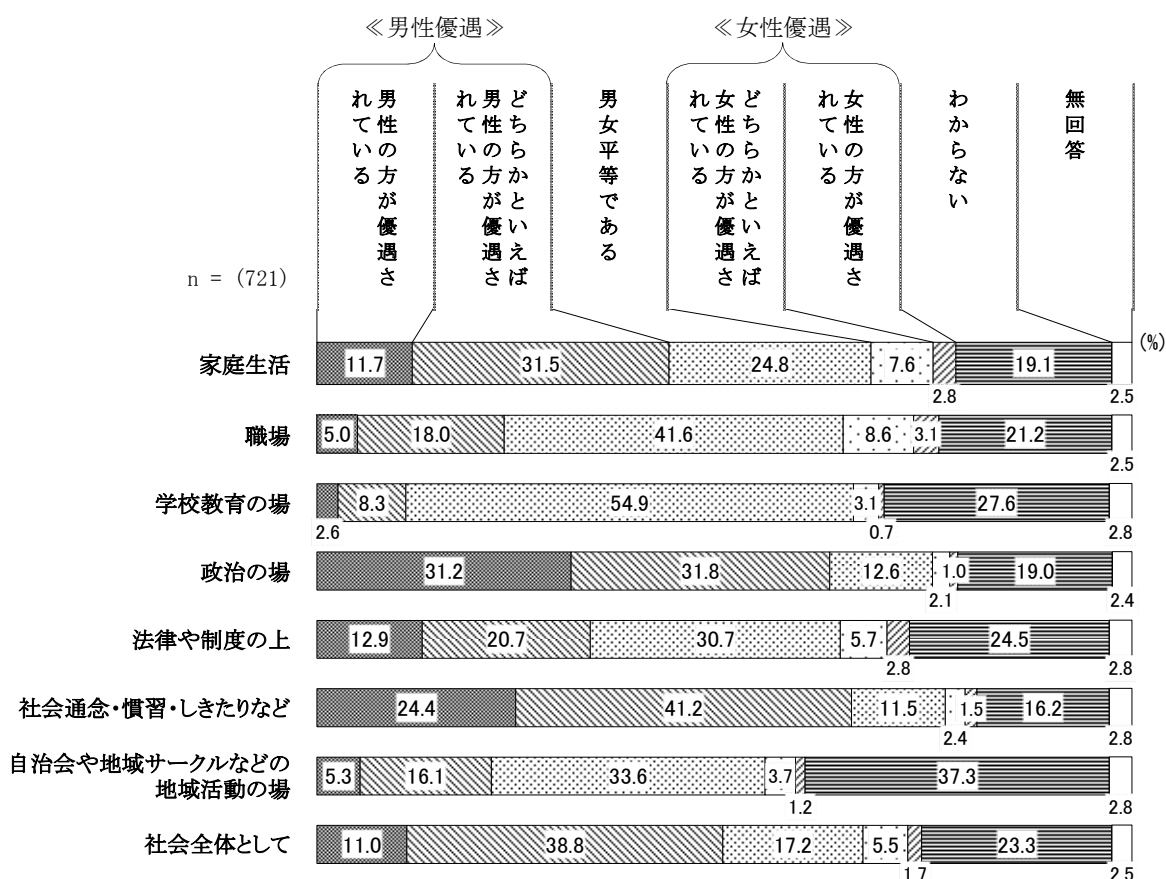
職層別に「心がけていること」をみると、どの項目も管理職が最も高く、次いで一般職、非常勤嘱託となっている。どの職層でも「市民との接遇において、性差別的な用語に気をつける」が最も高く、管理職で9割近く、一般職で7割を超え、非常勤嘱託で6割となっている。一方、「日ごろから、男女平等に関する学習や研修に参加している」はどの職層も最も低くなっている。



5. 男女平等をさらに進めるための方策などについて

(1) 各分野の男女平等観

問19 あなたは、次のような場で男女が平等になっていると思いますか。(各項目で○は1つ)

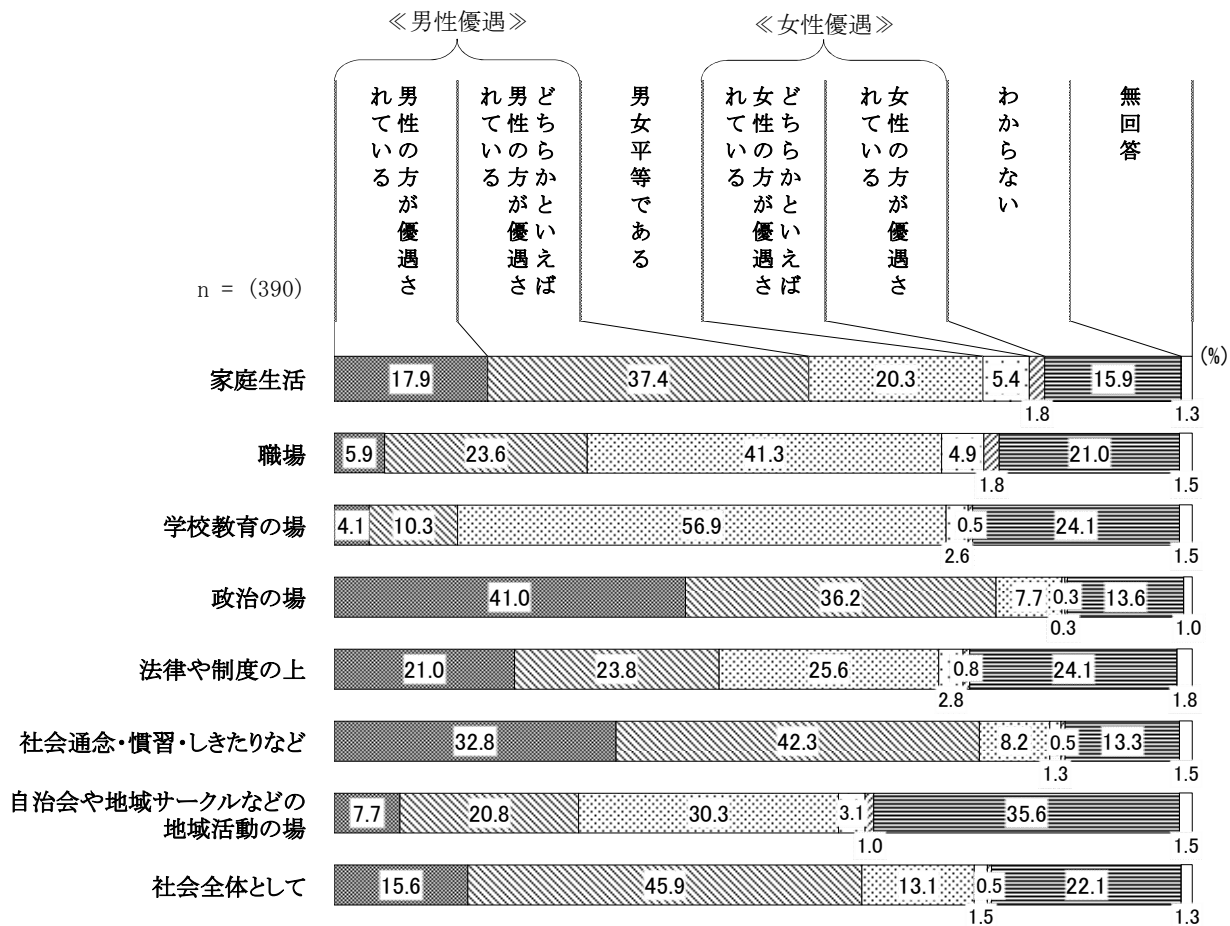


「男性の方が優遇されている」は、「政治の場」が31.2%、「社会通念・慣習・しきたりなど」が24.4%となっている。「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた《男性優遇》では、「社会通念・慣習・しきたりなど」(65.6%)、「政治の場」(63.0%)が6割台、「社会全体として」が49.8%となっている。一方、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」をあわせた《女性優遇》は「職場」(11.7%)、「家庭生活」(10.4%)が1割台となっている。

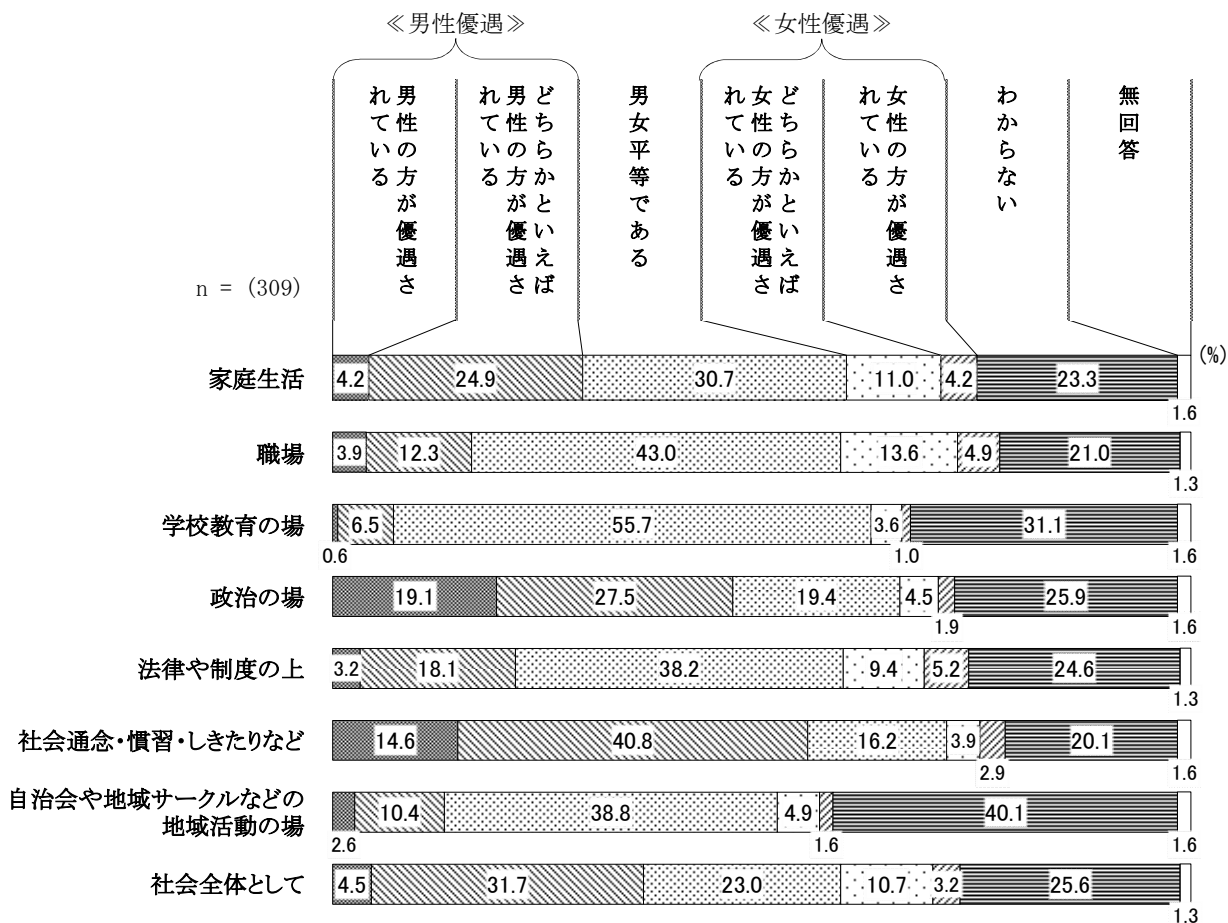
【性別】

性別でみると、女性では、「男女平等である」は“学校教育の場”で6割近くと高くなっている。《男性優遇》は“政治の場”で8割近く、“社会通念・慣習・しきたりなど”で7割半ばと高くなっている。《女性優遇》はどの分野も1割未満となっている。男性では、「男女平等である」は“学校教育の場”で5割半ばと高くなっている。《男性優遇》は“社会通念・慣習・しきたりなど”で5割半ば、“政治の場”で5割近くと高くなっている。《女性優遇》は“職場”で2割近く、“家庭生活”、“法律や制度の上”、“社会全体として”で1割半ばとなっている。

(女性)

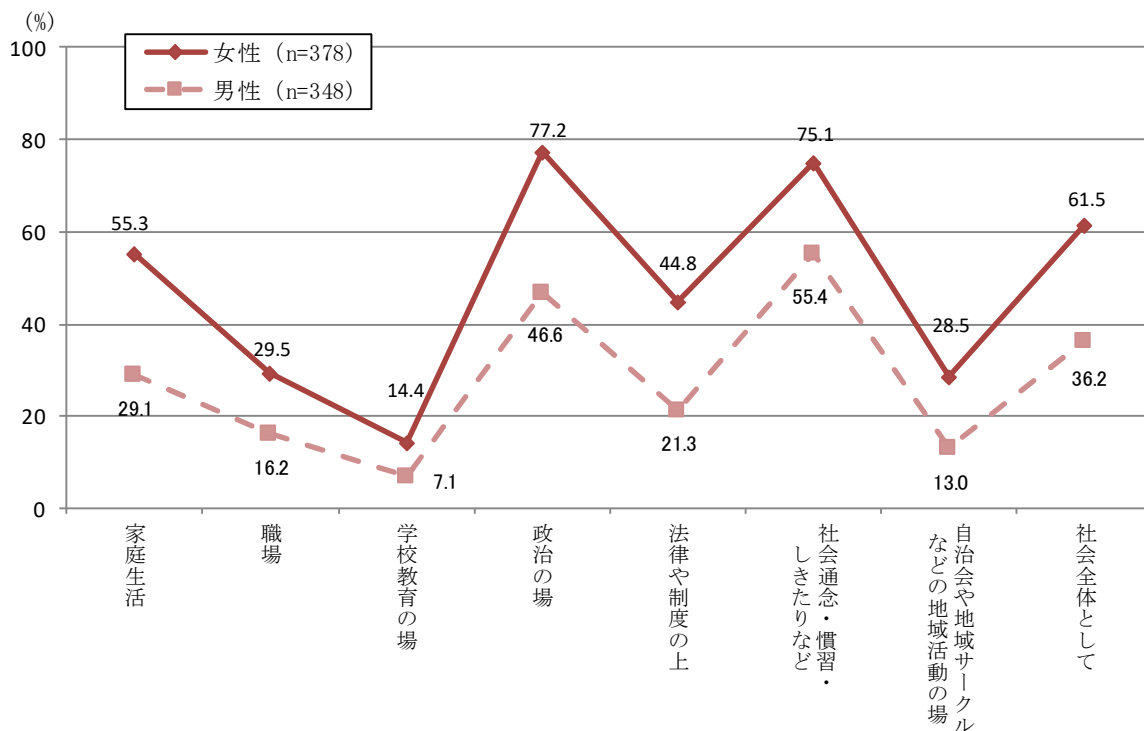


(男性)



【性別《男性優遇》】

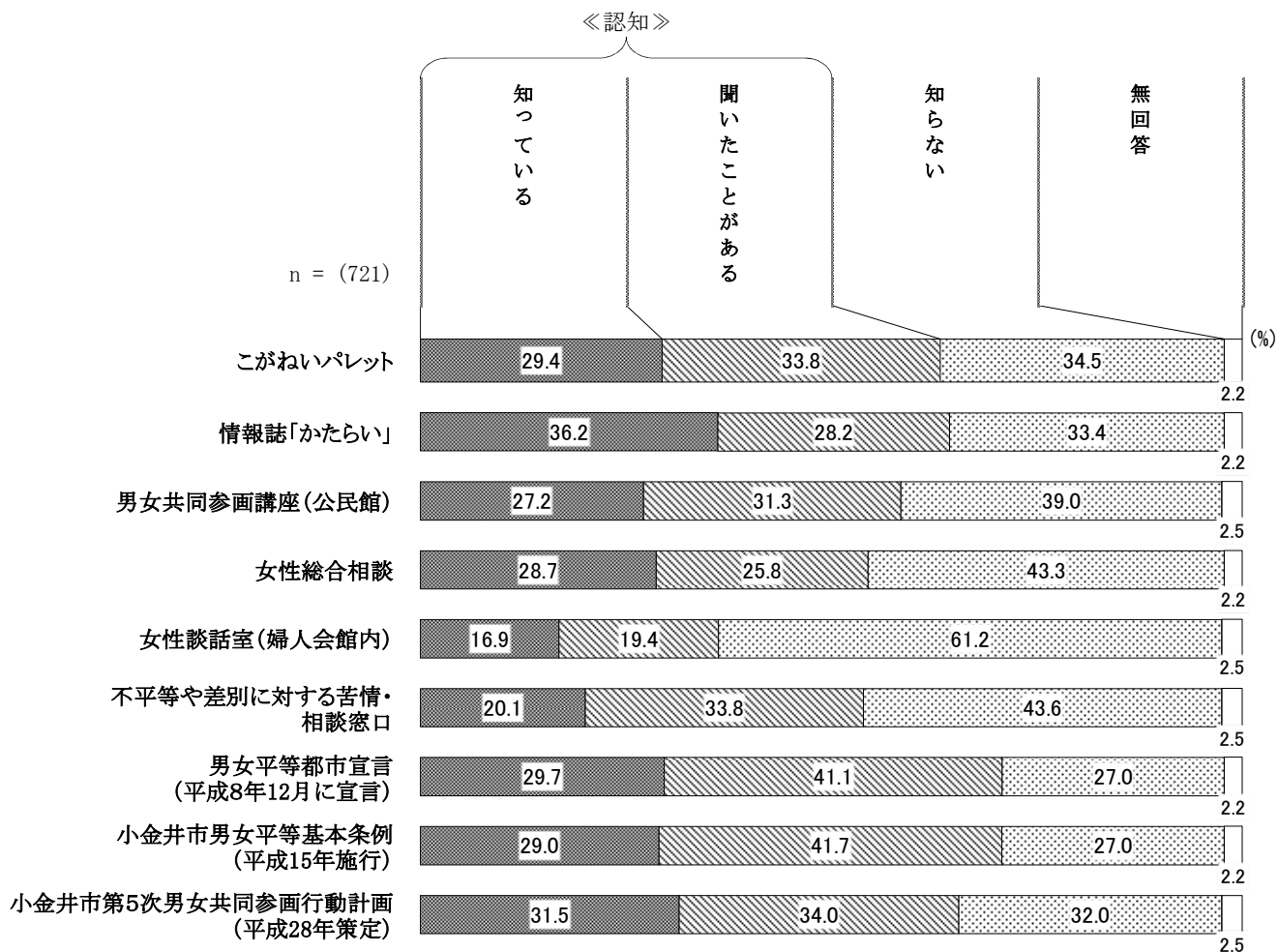
女性では《男性優遇》をみると、“政治の場”が77.2%、“社会通念・慣習・しきたりなど”が75.1%で7割台と高く、“社会全体として”も61.5%で高くなっている。男性で《男性優遇》をみると、“社会通念・慣習・しきたりなど”が55.4%、“政治の場”が46.6%となっている。



(2) 市の施策・取組及び男女共同参画に関することばの認知状況

問20 あなたは、次の「ことがら」や「ことば」を知っていますか。(各項目で○は1つ)

小金井市のこれまでの施策・取組

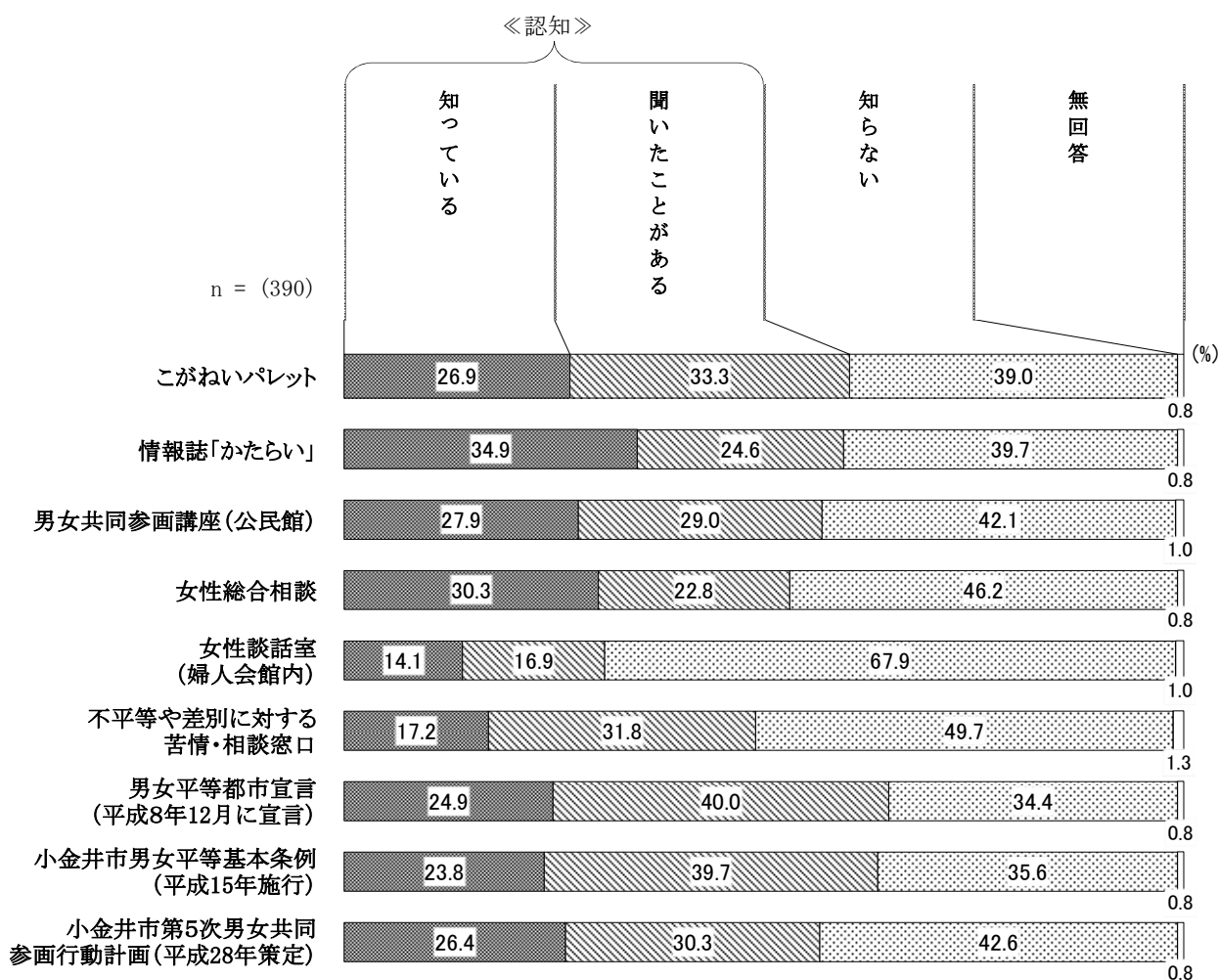


市の施策・取組の認知状況は、「知っている」は“情報紙「かたらい」”(36.2%)、“小金井市第5次男女共同参画行動計画(平成28年策定)”(31.5%)、“男女平等都市宣言(平成8年12月に宣言)”(29.7%)、“こがねいパレット”(29.4%)、“小金井市男女平等基本条例(平成15年施行)”(29.0%)で3割前後となっている。「聞いたことがある」をあわせた《認知》でみると、“男女平等都市宣言(平成8年12月に宣言)”(70.8%)、“小金井市男女平等基本条例(平成15年施行)”(70.7%)が7割台となっている。一方、「知らない」は“女性談話室(婦人会館内)”が61.2%で6割を超えて高くなっている。

【性別】

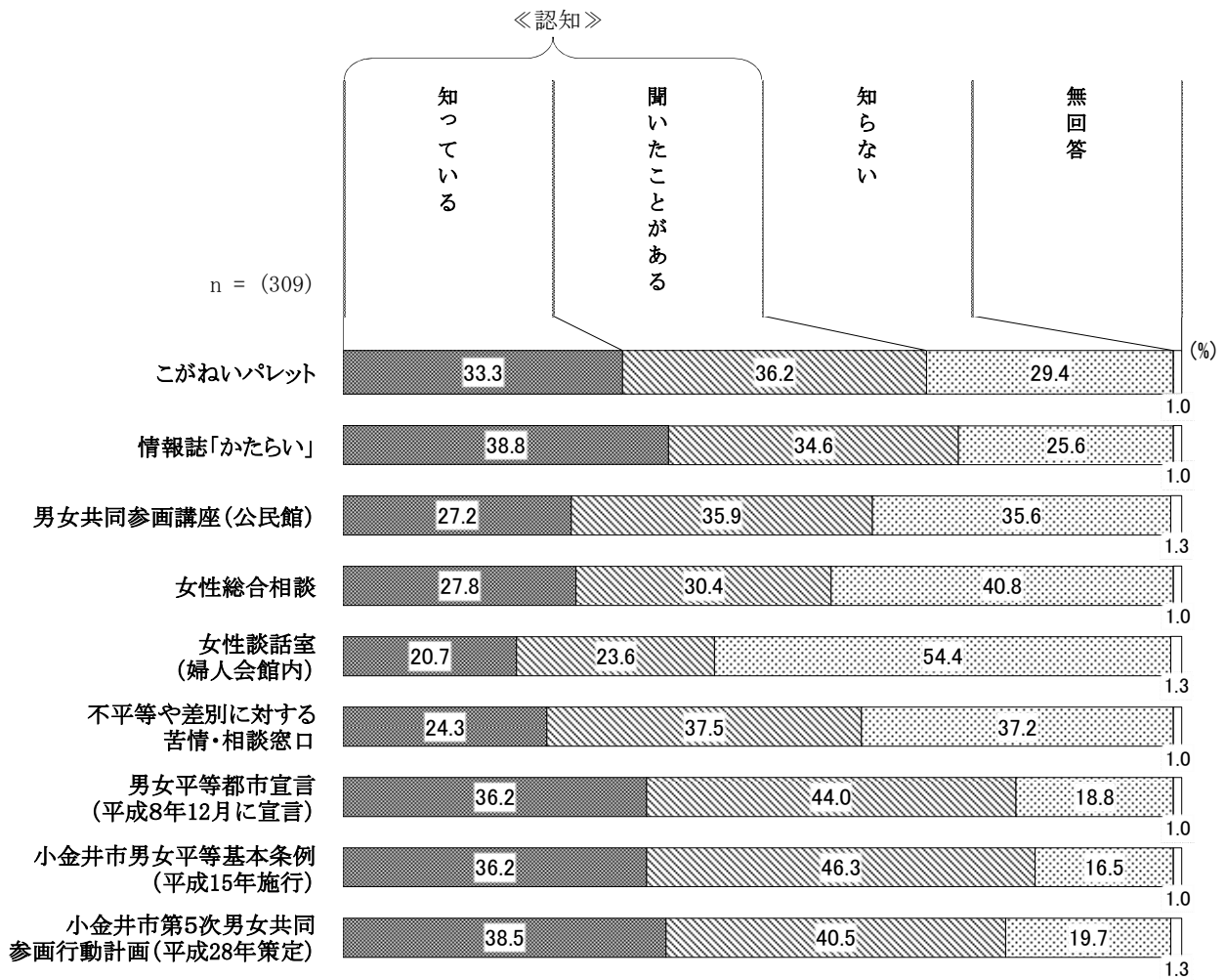
性別でみると、女性で「知っている」は“情報誌「かたらい」”で3割半ば、“女性総合相談”で3割と高くなっている。「聞いたことがある」をあわせた《認知》は“男女平等都市宣言（平成8年12月に宣言）”、“小金井市男女平等基本条例（平成15年施行）”で6割半ば、“こがねいパレット”、“情報誌「かたらい」”で6割と高くなっている。一方、「知らない」は“女性談話室（婦人会館内）”で7割近く、“不平等や差別に対する苦情・相談窓口”で半数と高くなっている。男性で「知っている」は“情報誌「かたらい」”、“小金井市第5次男女共同参画行動計画（平成28年策定）”で4割近くと高くなっている。「聞いたことがある」をあわせた《認知》は“小金井市男女平等基本条例（平成15年施行）”で8割半ば、“男女平等都市宣言（平成8年12月に宣言）”で8割、“小金井市第5次男女共同参画行動計画（平成28年策定）”で8割近くと高くなっている。一方、「知らない」は“女性談話室（婦人会館内）”で5割半ば、“女性総合相談”で4割を超えて高くなっている。

(女性)

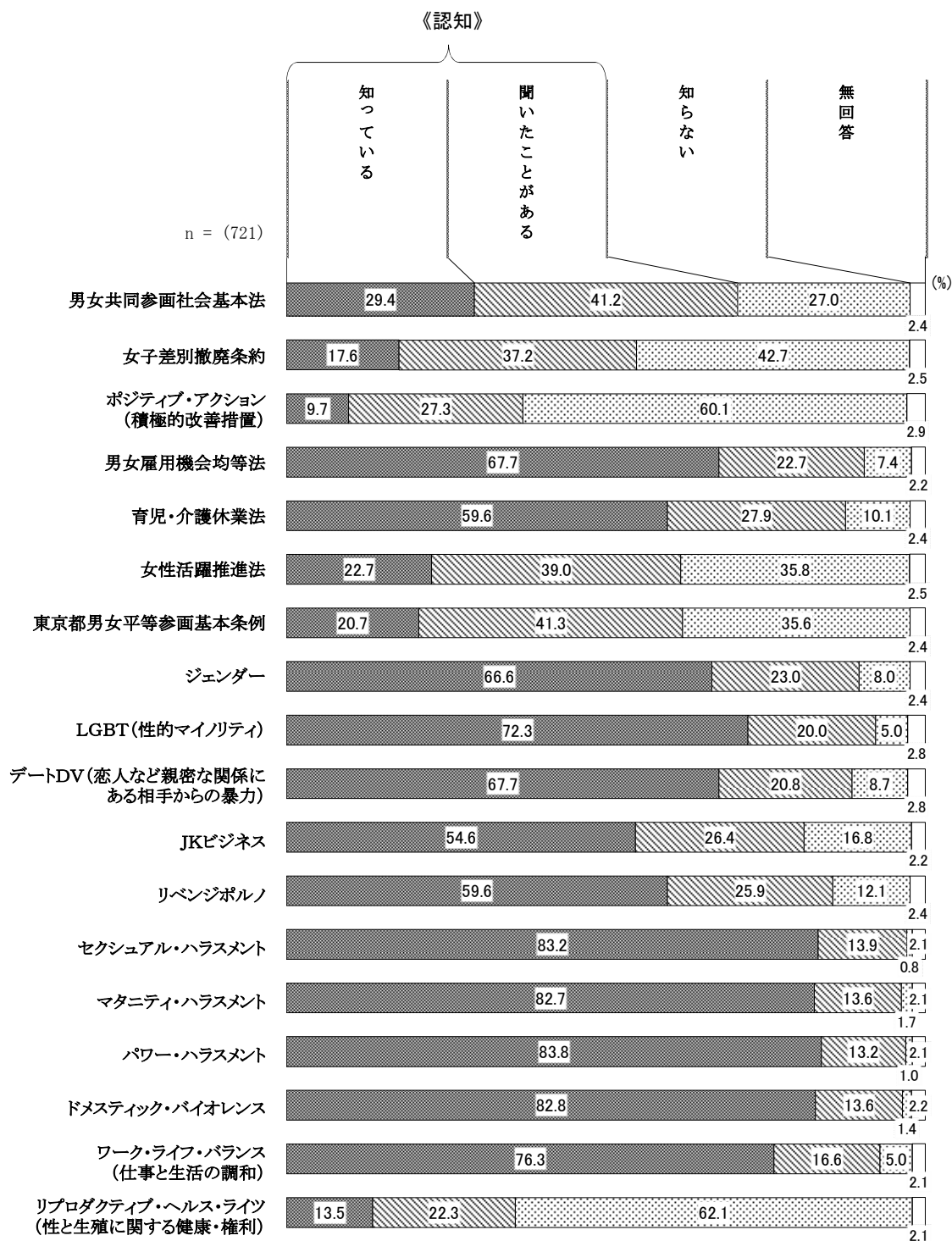


第4章 調査結果の詳細

(男性)



男女共同参画に関わることは

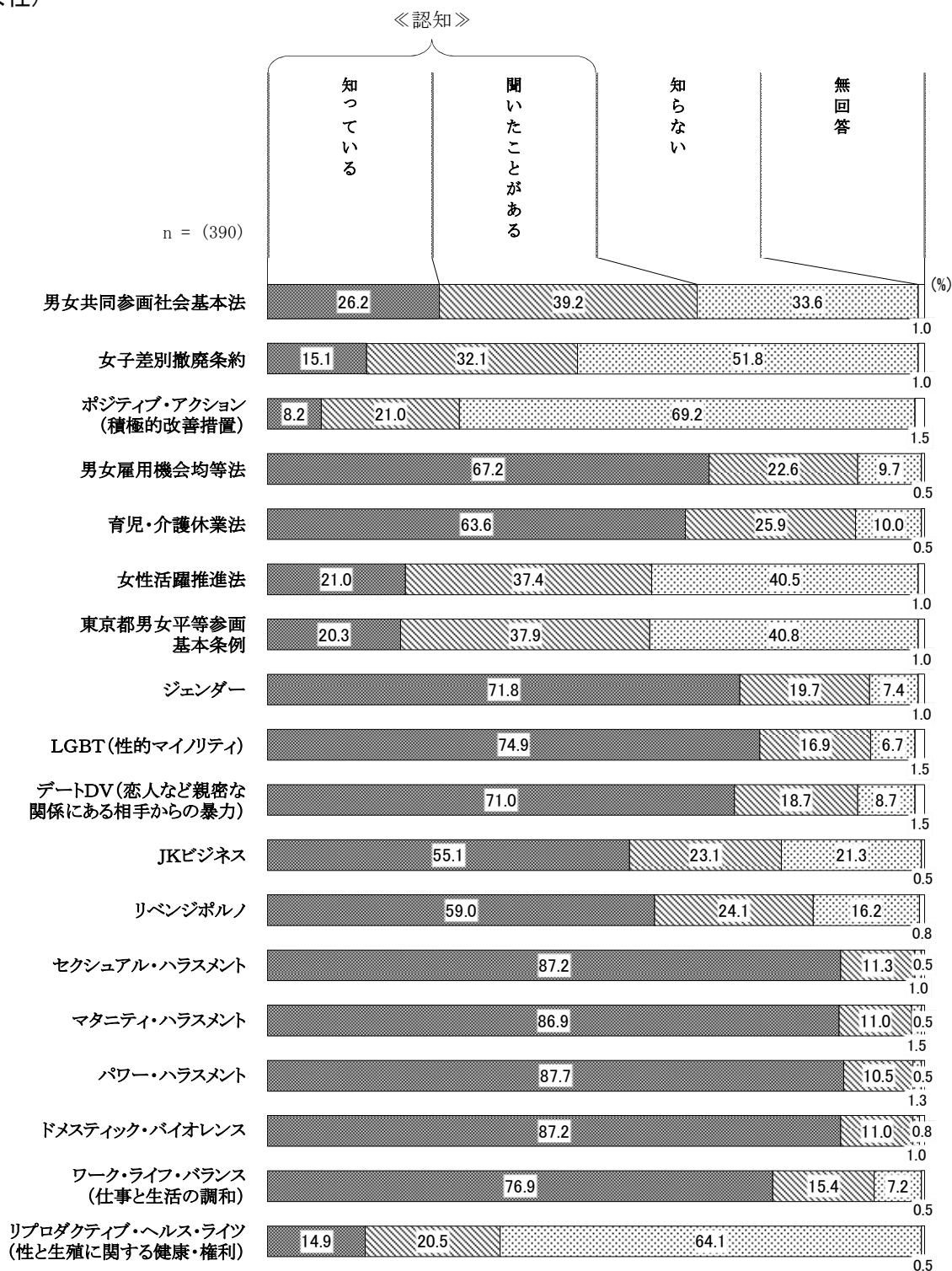


男女共同参画に関わることばで「知っている」は、各種ハラスメントが8割台、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（76.3%）、「LGBT（性的マイノリティ）」（72.3%）が7割台と高くなっている。《認知》でみると、各種ハラスメントに加え、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（92.9%）、「LGBT（性的マイノリティ）」（92.3%）、「男女雇用機会均等法」（90.4%）、「ジェンダー」（89.6%）が9割前後で高くなっている。一方、「知らない」は「リプロダクティブ・ヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康・権利）」（62.1%）、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」（60.1%）が6割台となっている。

【性別】

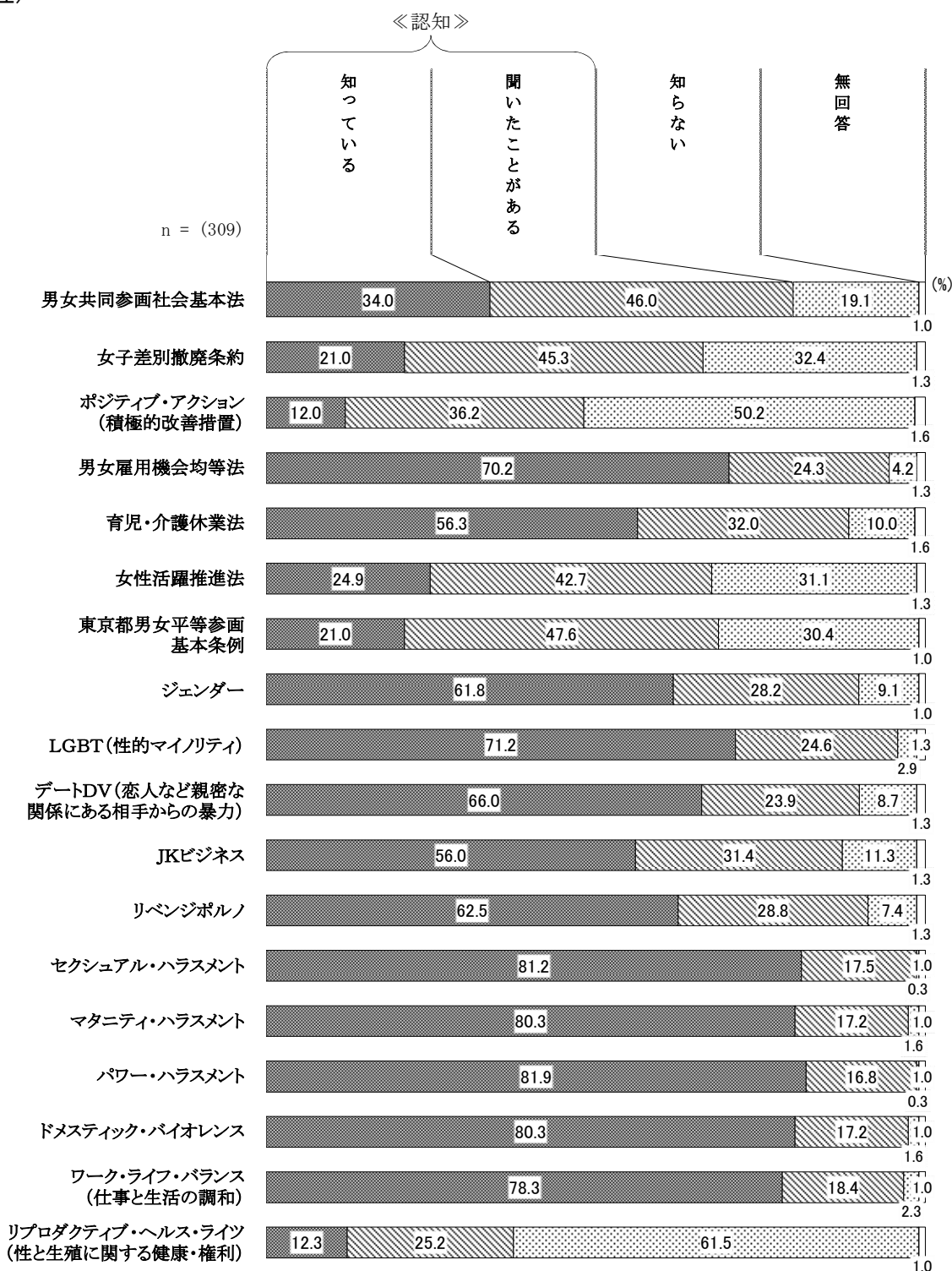
性別でみると、女性で各種ハラスメントは「知っている」が9割近くと高く、「聞いたことがある」をあわせた《認知》では全数近くとなっている。また、《認知》は“男女雇用機会均等法”、“育児・介護休業法”、“ジェンダー”、“LGBT（性的マイノリティ）”、“デートDV（恋人など親密な関係にある相手からの暴力）”、“ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）”が9割以上と高くなっている。一方、「知らない」は“ポジティブ・アクション（積極的改善措置）”で7割近くと高くなっている。

(女性)



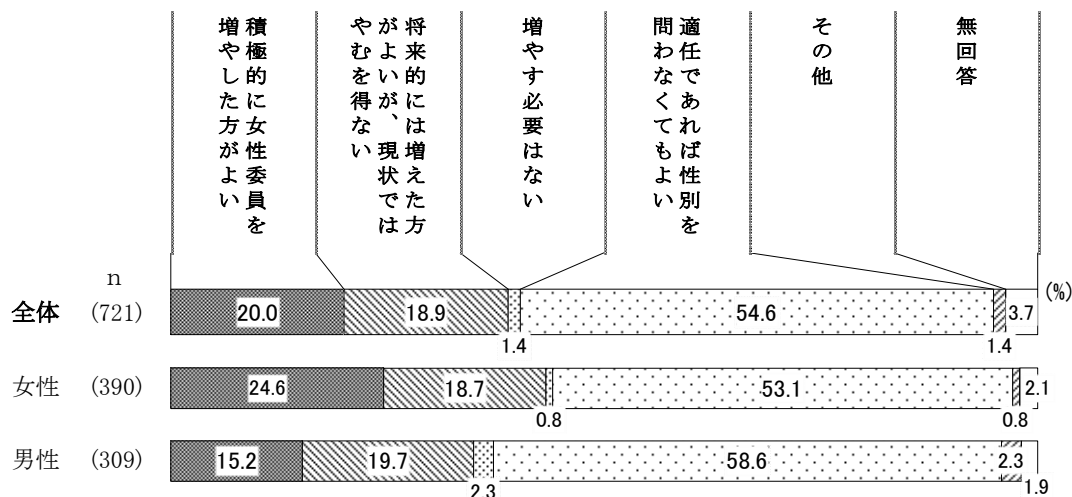
男性で各種ハラスメントは「知っている」が8割台と高く、《認知》では全数近くとなっている。また、《認知》は“男女雇用機会均等法”、“ジェンダー”、“LGBT（性的マイノリティ）”、“デートDV（恋人など親密な関係にある相手からの暴力）”、“リベンジポルノ”、“ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）”が9割以上と高く、“ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）”は全数近くとなっている。一方、「知らない」は“リプロダクティブ・ヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康・権利）”は6割を超え、“ポジティブ・アクション（積極的改善措置）”で半数となっている。

(男性)



(3) 審議会等の女性委員比率について

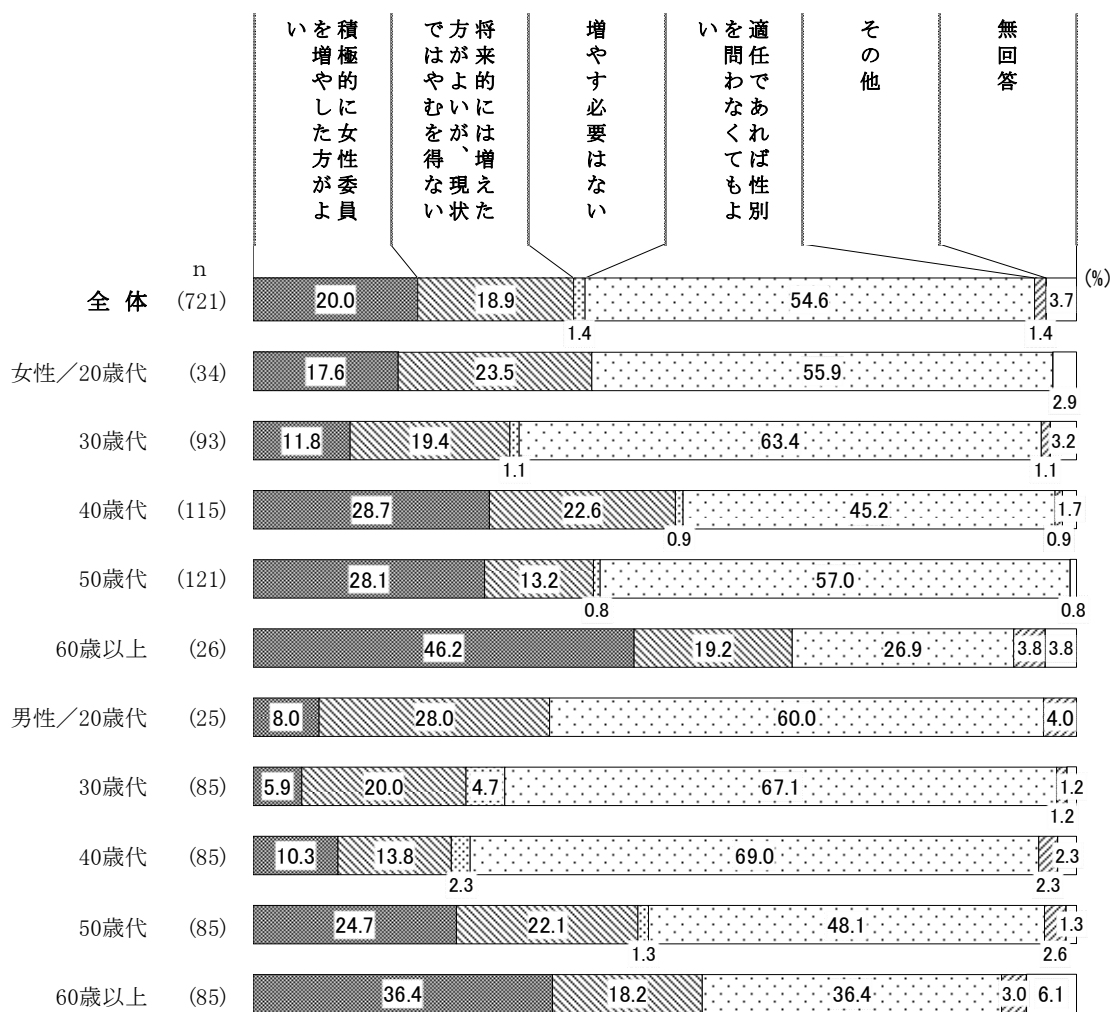
問21 小金井市の設置する審議会や附属機関および行政委員会の委員数全体に占める女性委員の割合は32.3%（平成31年4月現在）です。このことについて、あなたはどのように思いますか。（〇は1つ）



審議会等の女性委員比率については、「適任であれば性別を問わなくてもよい」が54.6%で最も高くなっている。男女とも「適任であれば性別を問わなくてもよい」は高いが、男性が58.6%で女性(53.1%)よりも6ポイント高くなっている。「積極的に女性委員を増やした方がよい」は女性が24.6%で男性(15.2%)よりも9ポイント高くなっている。

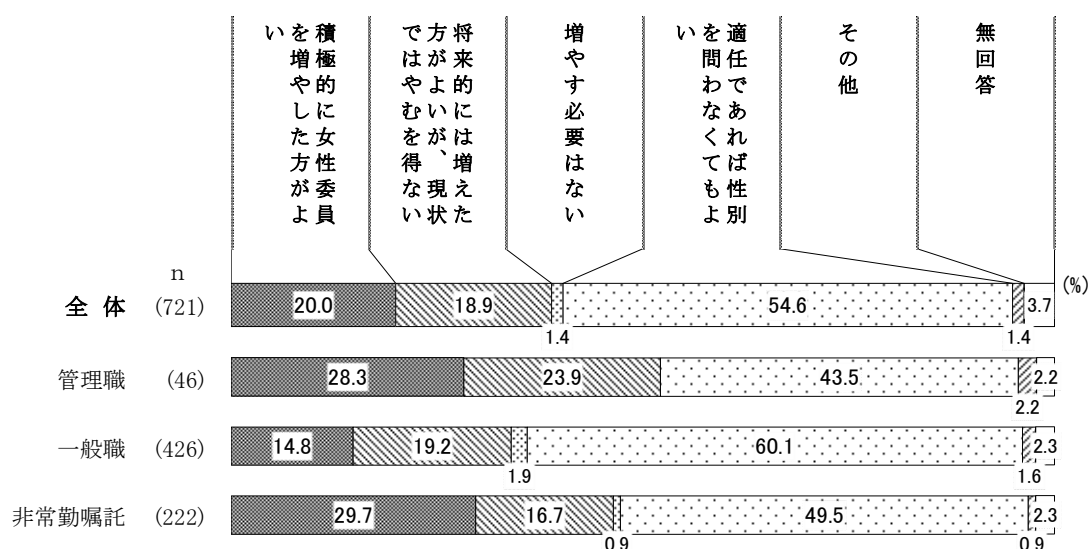
【年代別】

性・年代別でみると、「適任であれば性別を問わなくてもよい」は男性20歳代から30歳代が6割台で高くなっている。「積極的に女性委員を増やした方がよい」は女性60歳以上で4割半ば、男性60歳以上で3割半ばと高くなっている。



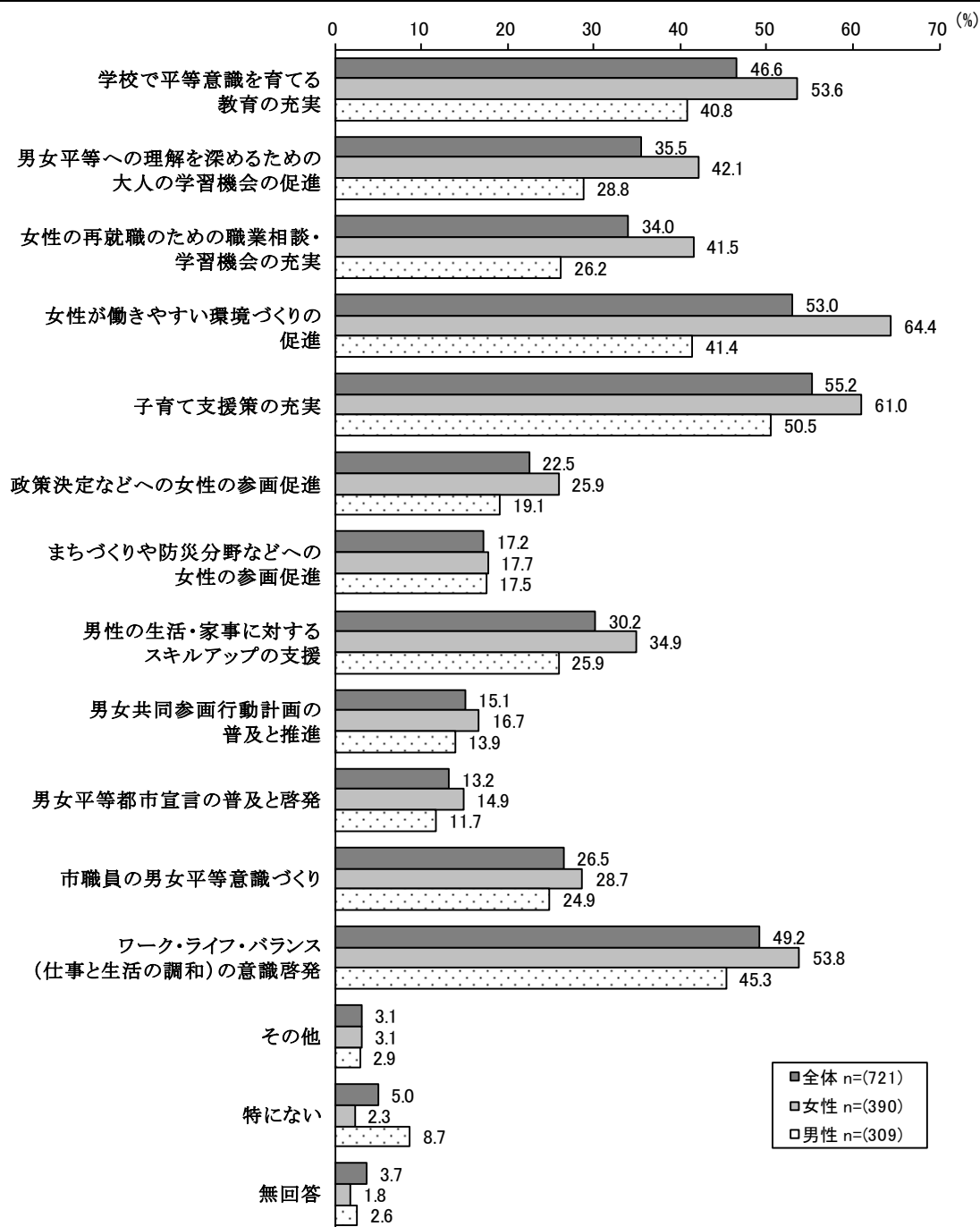
【職層別】

職層別でみると、「適任であれば性別を問わなくてもよい」は一般職で6割、非常勤嘱託で半数、管理職で4割半ばと高くなっている。「積極的に女性委員を増やした方がよい」は非常勤嘱託で3割、管理職で3割近くとなっている。



(4) 必要な施策

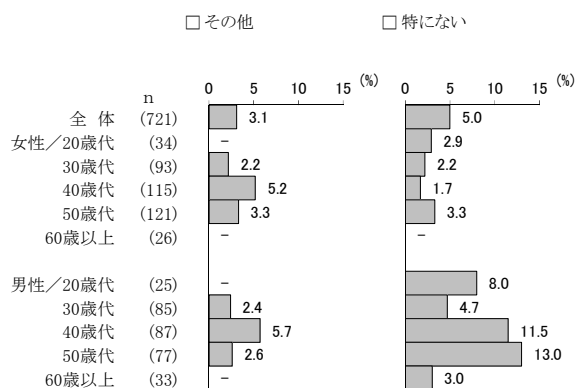
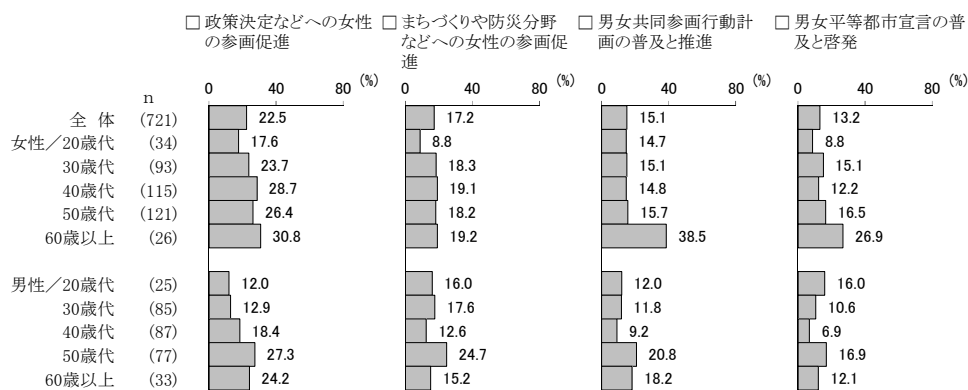
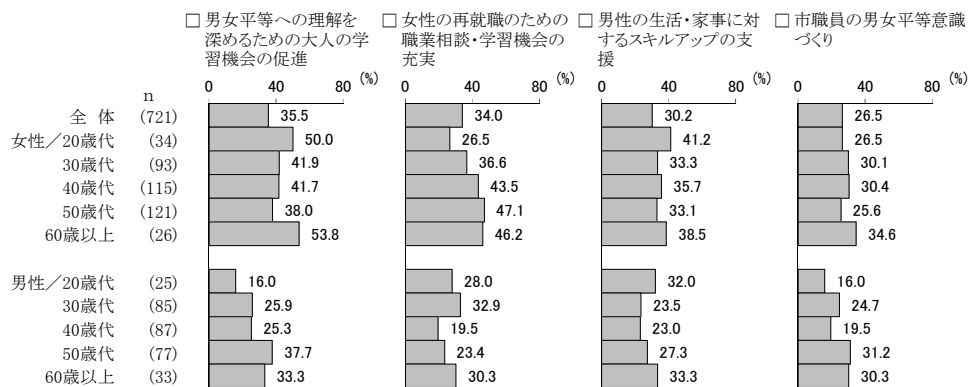
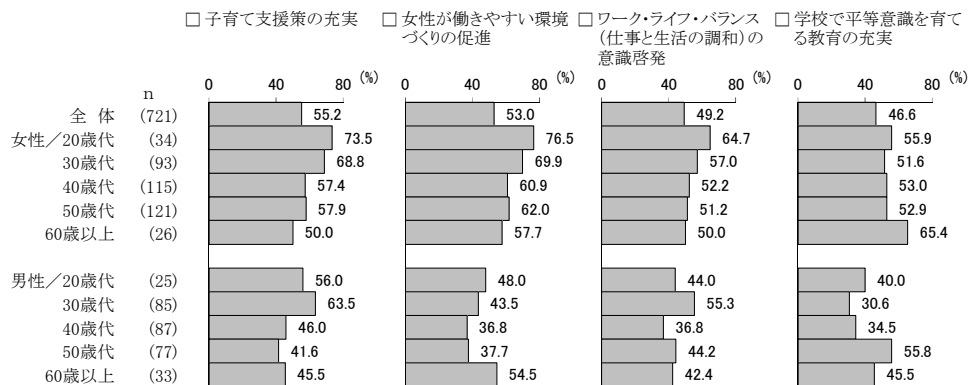
問22 あなたは、男女平等社会を実現するための市の施策として、今後、どのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



必要な施策は、「子育て支援策の充実」が55.2%で最も高く、次いで「女性が働きやすい環境づくりの促進」が53.0%、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の意識啓発」が49.2%、「学校で平等意識を育てる教育の充実」が46.6%となっている。女性では「女性が働きやすい環境づくりの促進」が64.4%で男性（41.4%）よりも23ポイント、「女性の再就職のための職業相談・学習機会の充実」が41.5%で男性（26.2%）よりも15ポイント、「男女平等への理解を深めるための大人の学習機会の促進」が42.1%で男性（28.8%）よりも13ポイント高くなっている。

【年代別】

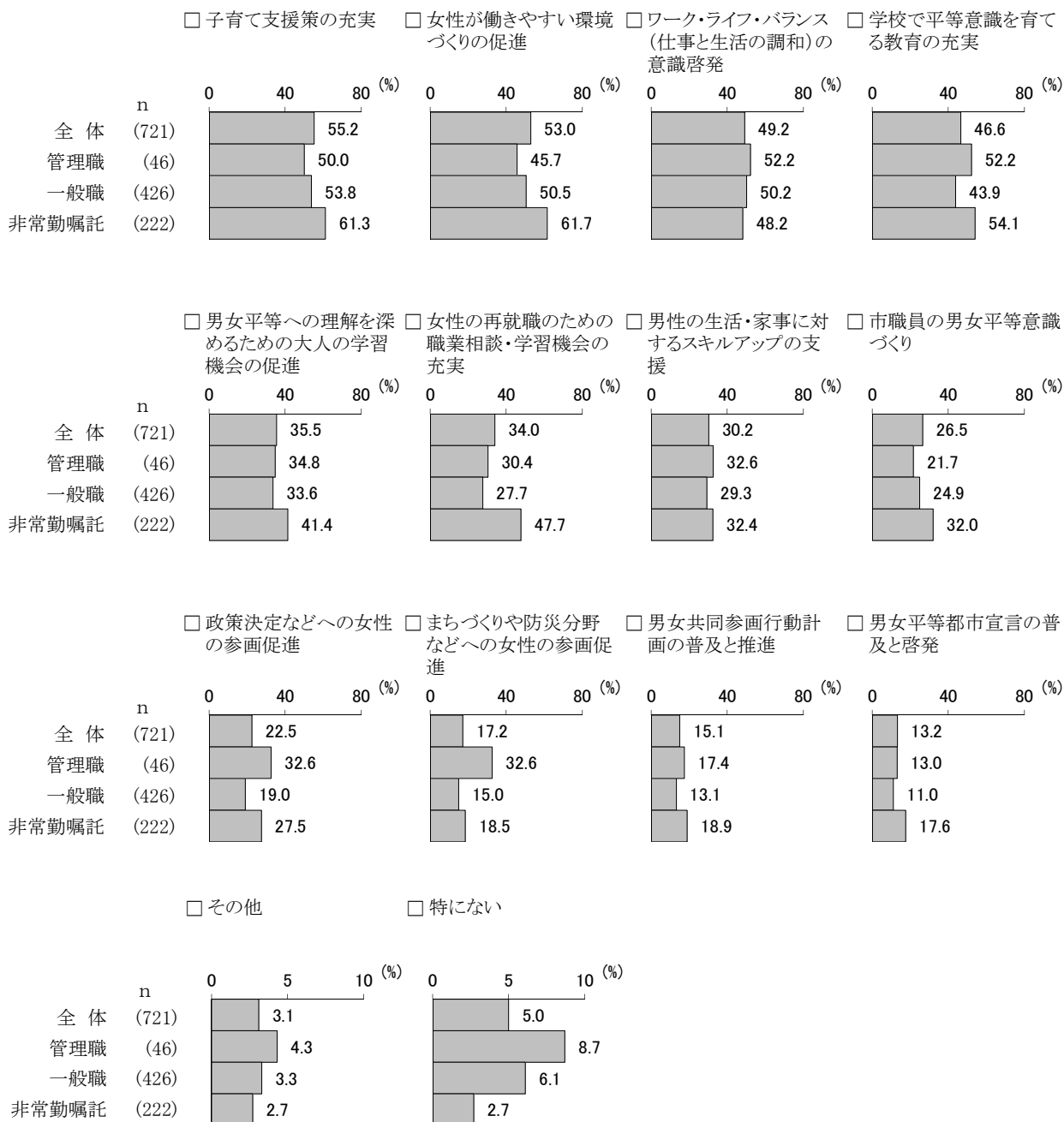
性・年代別でみると、女性では「女性が働きやすい環境づくりの促進」が20歳代で8割近く、30歳代で7割と高く、「子育て支援策の充実」も20歳代で7割半ば、30歳代で7割近くと高くなっている。男性では「子育て支援策の充実」が30歳代で6割半ばと高く、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の意識啓発」も30歳代で5割半ばと高くなっている。



第4章 調査結果の詳細

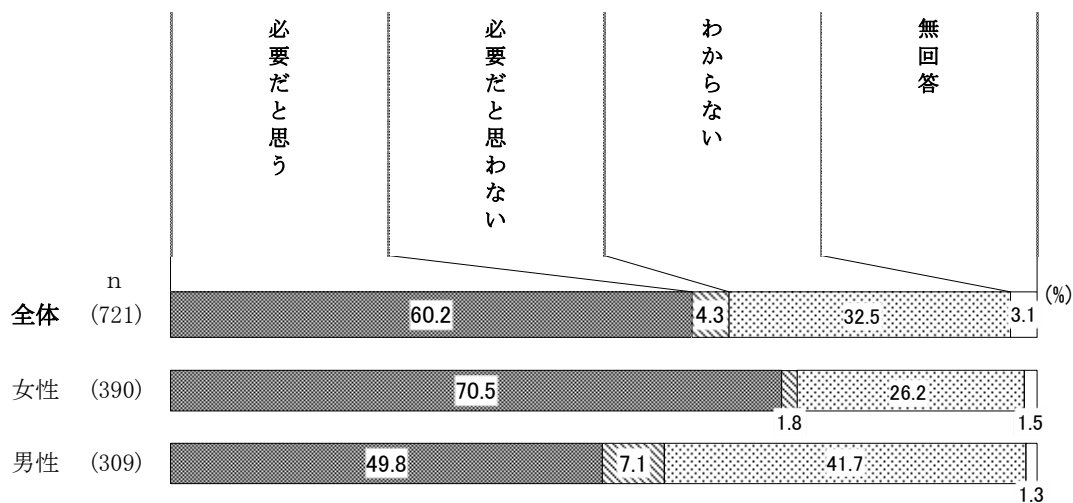
【職層別】

職層別で見ると、「子育て支援策の充実」はすべての職層で半数以上と高く、非常勤嘱託で6割を超えて高くなっている。「女性が働きやすい環境づくりの促進」も非常勤嘱託で6割を超えて高くなっている。



(5) 性的マイノリティの方への対応について

問23 近年、性的マイノリティへの対応が求められており、取組が進められています自治体もみられます。あなたは、このような動きがあることについて、どう思いますか。(〇は1つ)

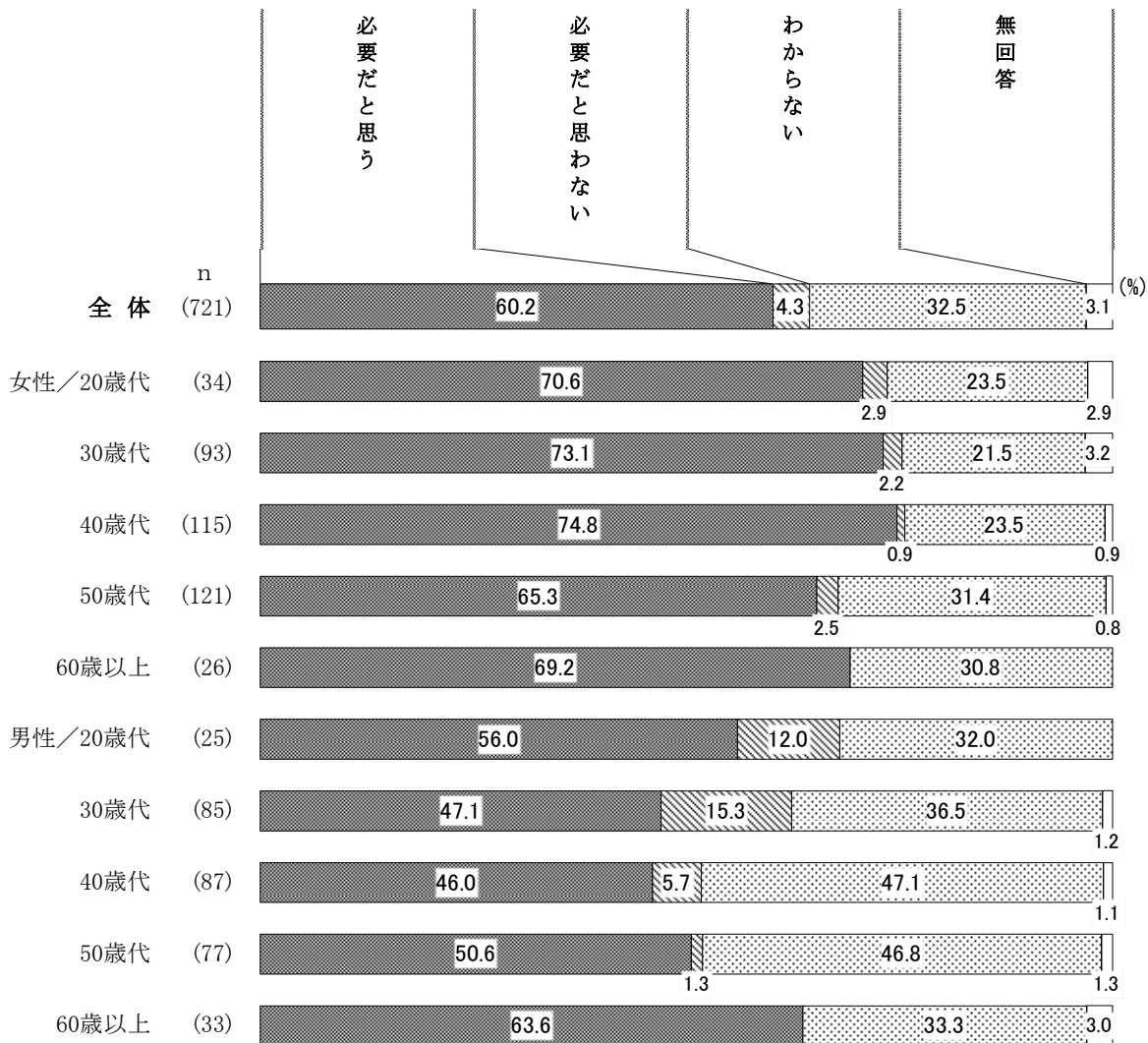


性的マイノリティの方への対応については、「必要だと思う」が60.2%で高くなっており、女性が70.5%で男性(49.8%)よりも高くなっている。男性では「必要だと思わない」が7.1%で女性(1.8%)よりも5ポイント高くなっている。

第4章 調査結果の詳細

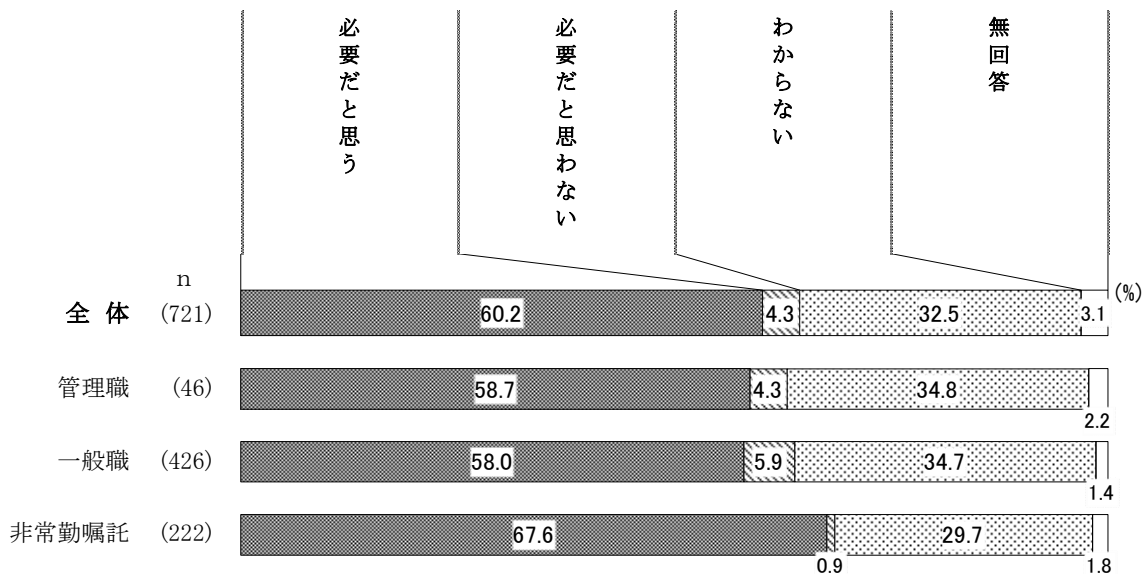
【年代別】

性・年代別で見ると、「必要だと思う」はどの年代も女性が男性よりも高く、女性20歳代から40歳代は7割台と高くなっている。一方、「わからない」は男性40歳代、50歳代で半数近くと高くなっている。



【職層別】

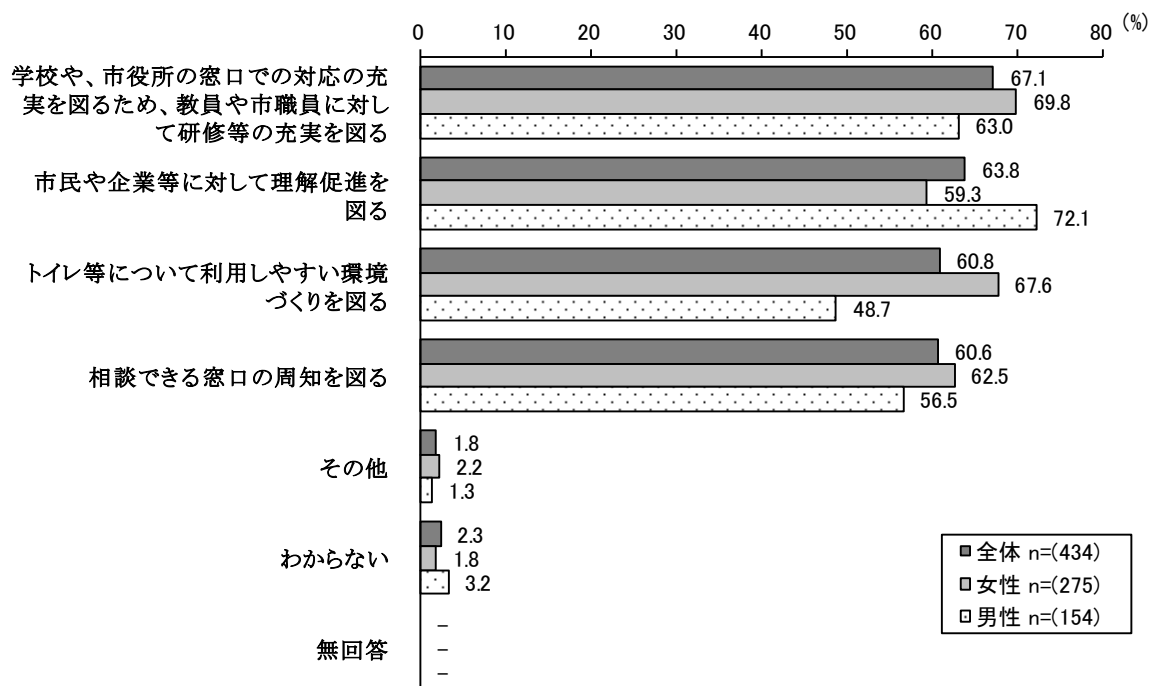
職層別で見ると、「必要だと思う」は非常勤嘱託で7割近く、管理職、一般職で6割近くと高くなっている。



(6) 性的マイノリティの方に対して必要だと思う取組

【問23で「1 必要だと思う」と回答した方】

問23-1 性的マイノリティの方々が生活しやすくするために、あなたは自治体の取組としてどのような対応が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

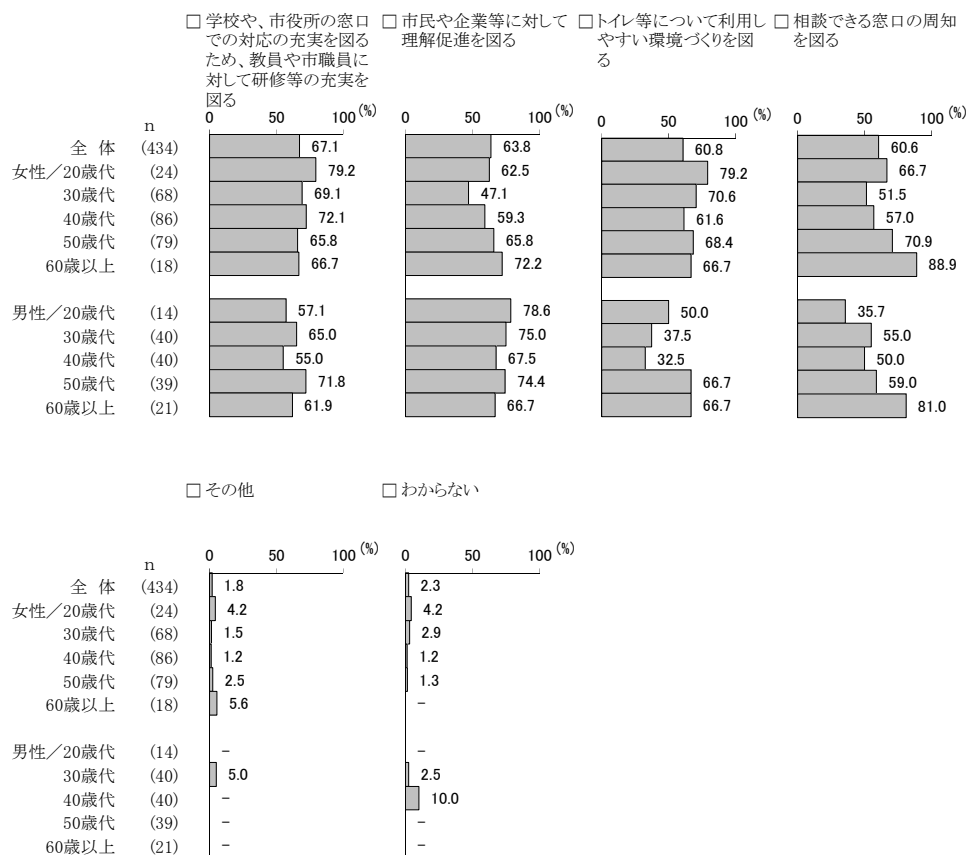


性的マイノリティの方に対して必要だと思う取組は、「学校や、市役所の窓口での対応の充実を図るため、教員や市職員に対して研修等の充実を図る」が67.1%で最も高くなっているが、すべての取組で6割台と高くなっている。女性では「トイレ等について利用しやすい環境づくりを図る」が67.6%で男性（48.7%）よりも19ポイント高く、男性では「市民や企業等に対して理解促進を図る」が72.1%で女性（59.3%）よりも13ポイント高くなっている。

第4章 調査結果の詳細

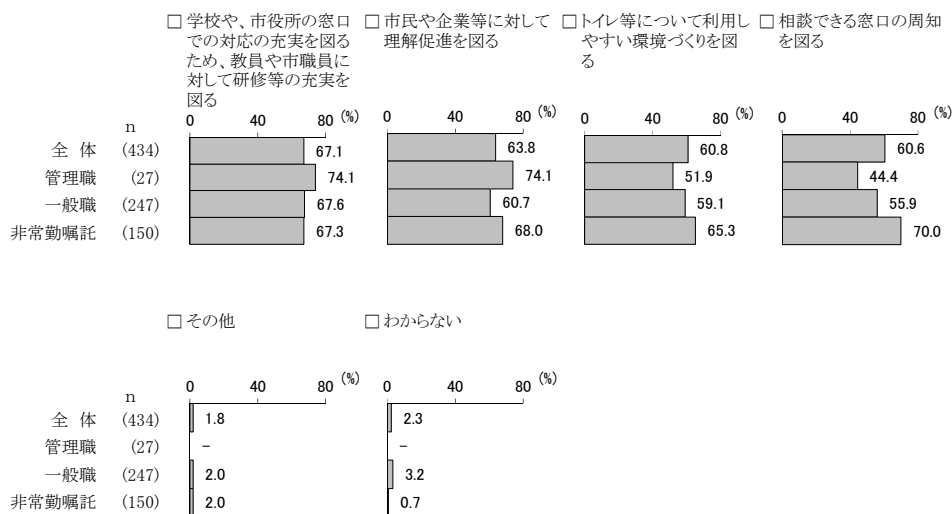
【年代別】

回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。



【職層別】

職層別でみると、「相談できる窓口の周知を図る」は非常勤嘱託で7割、一般職で5割半ばと高くなっている。「学校や、市役所の窓口での対応の充実を図るため、教員や市職員に対して研修等の充実を図る」は一般職、非常勤嘱託で7割近くと高くなっている。



(7) 自由記述

◎男女平等に関することにご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

男女平等に関することについて、自由に記述していただいたところ、63件の貴重な意見があった。1人で2つ以上の内容にわたって記述されているものもあるため、件数は延べ件数となる。以下はその内容を分類し、まとめたものである。

◆意識改革・啓発(9件)

- ・男女平等に関して、制度のみならず社会全体で意識の改善が必要であり、諸外国を参考に日本に適した方法で浸透させる必要がある。(男性/30歳代)
- ・固定観念に捉われず、意識や思想の押し付けをすることなく、適材適所で、個人がそれぞれ自ら活き活きと活動できる場所を見つめることができれば、住み心地のよい社会になると思います。(男性/40歳代)
- ・男女平等に関心を持ち、今後は積極的に(制度についてなど)自ら学んでいければ・・・と思いました。(女性/40歳代)
- ・性別、年齢に関係なく、個人個人が活躍できる社会であるべき。(男性/30歳代)
- ・男女ともに、ワーク・ライフ・バランスを意識し、充実した日々を送れるようになることが望ましいと思います。(男性/30歳代)

◆職場のあり方・意識について(15件)

- ・選択肢が増え、子育て、家庭環境等、その時の状況によって弾力的に仕事が出来れば、男性も女性も暮らしやすくなるかと思います。(女性/30歳代)
- ・ワーク・ライフ・バランスが確保されなければ逆に大変な状況に追い込まれるだけなのでは、と感じることがあります。(女性/30歳代)
- ・単純な時間外勤務の抑制ではなく、本質的な働き方改革に向けて、多様な勤務形態の実現を目指したい。配偶者の扶養等、女性の働き方を抑制する税制なども見直して欲しい。歴史的な背景もあり、現状の社会全体の意識改革には限界があると思う。初期の教育が重要であるため、若い世代への働きかけに力を入れることで、30~50年後には男女平等の実現も期待できるのではないか。(女性/30歳代)
- ・働きやすい職場をつくるのが男女平等につながると思います。(女性/30歳代)
- ・このアンケートが必要無いくらい、男女がお互いに人間として尊重し合える社会になることを望みます。(女性/30歳代)
- ・子育てしにくい職場環境の改善を求める。(女性/30歳代)

◆各種制度等(庁内)の利用について(8件)

- ・制度はあるが、その代替要員の配置等、もっと使いやすくしてほしい。(男性/30歳代)
- ・育児に関しては男女平等の意識も進んでいますが、介護に関してはまだまだ女性の負担が多いです。通院の付き添い等、認知症の対策も不可欠です。介護に関して休業制度の拡大が進んでほしいです。(女性/50歳代)
- ・育児休業をとるにあたり、男性が著しく期間が短いのはどうなのか。(男性/20歳代)
- ・子育て中の女性の短時間労働の制度、体制を整えてほしい。男性の産休をもっと広げていくべき。(女性/30歳代)

◆性差の考慮／相互理解(8件)

- ・すべての人が平等な扱いを受けていると感じられる環境にするための取組について、男性も女性も共に考えていくことが必要ではないか。すべてのことに対して慣習や慣例にとらわれない議論があつてこそそのものと思います。(男性/40歳代)
- ・男女に限らずですが、社会全体で相互支援の仕組みや意識改革が必要だと思います。(男性/20歳代)
- ・お互いの性の特徴の理解が必要。(男性/60歳以上)
- ・男女で向き不向きがある物事はあるが、お互いに分かり合えた上での平等が目に見える形であればいいと思う。世の中での男女差別はなくならないが、それ以上に色々なセクシャル等、比較的オープンにしやすくなってきた。もっと色々なセクシャルの人たちが生きやすい世の中になれば良いと思う。(女性/20歳代)
- ・ワーク・ライフ・バランスを支援する制度や、セクハラ・パワハラ対応への体制等は年々充実していると思うが、これらを運用する側も含め、職員の意識が追いついていないように思う。立場の異なる人の間の相互理解を深めるセミナーや研修等の啓発活動を積極的に行ってほしい。(女性/40歳代)

◆アンケート・その他(23件)

- ・性的マイノリティの質問の直後に自身の性別を書く項目があり違和感を感じた。本当に必要なかと思いました。(女性/30歳代)
- ・何をもちて平等とするかも人それぞれなので一概にはなかなか言えないと思います。(男性/30歳代)
- ・性的マイノリティに配慮する一方で、「女性」委員の割合を見るなど、矛盾があると思う。性差が直接関係ないことについては、そもそも「男」「女」という「分け」をしないべきではないでしょうか。(男性/30歳代)

- ・ “平等” や “バランス” って本当に難しいことだと思います。（男性/30 歳代）
- ・ 性別だけの平等に、そんなに意味はない。個を人の特性、能力、考え等に合った実質的平等の社会の実現が大切だと思います。（男性/40 歳代）
- ・ 男女平等という性的マイノリティを除したような表現を変更できるとよい。（女性/30 歳代）
- ・ 抽象的に考えず、具体的目標を掲げ、一步一步進めていくことが大切だと思います。がんばってください。（男性/60 歳以上）
- ・ この調査の項目とページ数を減らしてほしいです。（不明/不明）

第5章 調査票

小金井市 男女平等推進のための小金井市職員の意識調査 ご協力をお願い

この意識調査は、市職員の男女平等に関する意識や職場における現状を把握するとともに、男女共同参画への意識啓発を図ることを目的に行うものです。

平成8年12月「男女平等都市宣言」及び平成15年7月施行の「男女平等基本条例」に基づく男女平等の市政をさらに進めていくためには、職員一人ひとりが男女平等を推進していく担い手であることを意識し、実践するとともに、男女ともに働きやすい職場にしていく必要があります。

調査は、全職員を対象に実施します。回答は無記名で、結果はすべて統計的に処理をしますので、ご回答いただいた皆様にご迷惑をおかけするようなことはありません。お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、回答設置項目数等の制限により、C-navi によるアンケートでは対応できないため、紙ベースでの提出をお願いするものです。

令和元年10月

<記入にあたってのお願い>

- 職員ご本人がお答えください。
- お答えは、あてはまる回答の番号を「○」で囲んでください。
また、「その他」をお選びになった場合は、その後ろにある（ ）の中に具体的な内容をご記入ください。
- 令和元年10月1日の時点について、お答えください。

【調査についての問合せ先】

企画財政部 企画政策課 男女共同参画室（内線2304）

ご記入いただいた調査票は、課・施設ごとに、
10月15日（火）までに企画政策課 男女共同参画室あて、交換便でお送りくださいますようお願いいたします。

なお、個人情報保護の観点から、各課・各施設において、個人の提出状況の確認をする必要はありませんので、申し添えます。

1 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)についておうかがいします

問1 あなたが「A. 家事」、「B. 育児」、「C. 介護」に携わる時間は、1日あたりどれくらいですか。
(①平日、②休日それぞれ○は1つ)

		まったく関わっていない	30分未満	30分以上～1時間未満	1時間以上～3時間未満	3時間以上～5時間未満	5時間以上	必要とする家族等がない
A. 家事	①平日	1	2	3	4	5	6	
	②休日	1	2	3	4	5	6	
B. 育児	①平日	1	2	3	4	5	6	7
	②休日	1	2	3	4	5	6	7
C. 介護	①平日	1	2	3	4	5	6	7
	②休日	1	2	3	4	5	6	7

問2 現在、あなたがお仕事(通勤に係る時間も含む)に携わる時間は、1日あたりどれくらいですか。(○は1つ)

3時間未満	3時間以上～5時間未満	5時間以上～8時間未満	8時間以上～10時間未満	10時間以上
1	2	3	4	5

問3 あなたご自身の、生活の中での、仕事、家庭生活、地域・個人の生活(地域活動、趣味・学習、つき合い等)の優先度についておうかがいします。(それぞれ○は1つ)

	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない
①現実(現状)	1	2	3	4	5	6	7	8
②理想	1	2	3	4	5	6	7	8

問4 家庭生活について、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という意見についてどう思われますか。(○は1つ)

1 賛成	3 どちらかといえば反対	5 わからない
2 どちらかといえば賛成	4 反対	

問5 女性が仕事をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

- | | | |
|---|-----------------------------------|--|
| 1 | 結婚や出産にかかわらず、継続して仕事をもつほうがよい ※ | |
| 2 | 結婚までは仕事をもつが、結婚後はもたないほうがよい | |
| 3 | 子どもができるまでは仕事をもつが、その後は仕事をもたないほうがよい | |
| 4 | 出産や子育ての時期は仕事を辞め、その後は仕事をもつほうがよい | |
| 5 | 仕事はもたないほうがよい | |
| 6 | その他 () | |
| 7 | わからない | |

※産前産後休暇と育児休業を取る場合を含む

【問5で「1 結婚や出産にかかわらず、継続して仕事をもつほうがよい」と回答した方】

問5-1 その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----|-----------------------|--|
| 1 | 社会とつながりを持つべきだと思うから | |
| 2 | 女性も自立するためには必要だから | |
| 3 | 生活水準を向上させたいから | |
| 4 | 生計をたてるためには必要だから | |
| 5 | 自由につかえるお金がほしいから | |
| 6 | 人間関係を広げたいから | |
| 7 | 結婚してもお互い自立した関係でいたいから | |
| 8 | 家事は夫婦で協力して行うべきだと思うから | |
| 9 | 子育ては夫婦で協力して行うべきだと思うから | |
| 10 | その他 () | |
| 11 | 特にない | |
| 12 | わからない | |

【問5で「2」「3」「4」「5」と回答した方】

問5-2 その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|---|-------------------------|--|
| 1 | 女性が家事・育児を担うべきだと思うから | |
| 2 | 子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから | |
| 3 | 仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから | |
| 4 | 働き続けるのは大変そうだと思うから | |
| 5 | その他 () | |
| 6 | 特にない | |
| 7 | わからない | |

問6 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 保育施設や学童保育所など、子どもを預けられる環境の整備
- 2 介護支援サービスの充実
- 3 家事・育児支援サービスの充実
- 4 男性の家事参加への理解・意識改革
- 5 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革
- 6 働き続けることへの女性自身の意識改革
- 7 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
- 8 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
- 9 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
- 10 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
- 11 その他 ()
- 12 特にない
- 13 わからない

問7 男女ともに働きやすい社会をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 労働時間の短縮やフレックス制(一定の定められた時間帯の中で、始業時刻と就業時刻の決定)など様々な働き方を選ぶことができる
- 2 性別やライフスタイルに関係なく、すべての人が働きやすい職場環境を整備する
- 3 仕事内容における男女差をなくす
- 4 家事・育児・介護を配偶者や家族で協力して分担する
- 5 保育施設や保育サービスの充実
- 6 介護支援サービスの充実
- 7 産前・産後休業、育児休業、介護休業、再雇用制度などの制度の充実
- 8 非正規社員(パートタイム、派遣労働など)の労働条件の充実
- 9 ライフスタイルや働き方に関係なく、社会保障(年金など)や税制を整備する
- 10 その他 ()

2 子育て・介護についておうかがいします

問8 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----|--------------------------------|--|
| 1 | 男性も家事・育児を行うのがあたりまえだと思う | |
| 2 | 家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる | |
| 3 | 男性自身も充実感が得られる | |
| 4 | 子どもにいい影響を与える | |
| 5 | 仕事と両立させることは、現実として難しいのでしかたがない | |
| 6 | 家事・育児は女性の方が向いている | |
| 7 | 妻が家事・育児をしていないと周囲に誤解される | |
| 8 | 周囲から冷たい目で見られる | |
| 9 | 男性は、家事・育児を行わなくてもよい | |
| 10 | その他 () | |
| 11 | 特にない | |
| 12 | わからない | |

問9 育児や家族介護を行うために、法律に基づき男女ともに育児休業や介護休業を取得できる制度がありますが、あなた自身は、「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用することについてどう思いますか。現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。(各項目で○は1つ)

	利用したい	利用したいが 利用できそうに ないと思う	利用したくない	わからない
①育児休業制度	1	2	3	4
②介護休業制度	1	2	3	4

問10 あなたの職場で育児休業や介護休業の制度を利用しようとする人がいたら、あなた自身はどう思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(各項目で○は1つ)

	抵抗はない	どちらとも いえない	抵抗がある
ア) 男性が育児のために休業を取ることにについて	1	2	3
イ) 男性が家族の介護のために休業を取ることにについて	1	2	3
ウ) 女性が育児のために休業を取ることにについて	1	2	3
エ) 女性が家族の介護のために休業を取ることにについて	1	2	3

3 地域活動・社会活動についておうかがいします

問11 地域活動について伺います。あなたは普段、近隣の方との程度おつきあいがありますか。

- 1 とても親しく付き合っており、困ったときの相談など助け合う人がいる
- 2 親しく付き合っており、一緒にお茶を飲んだりする人がいる
- 3 あいさつや立ち話をする程度の人がいる
- 4 ほとんど付き合いはない

問12 あなたは次にあげるような活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 自治会・町内会などの地域活動
- 2 子ども会やPTA活動
- 3 スポーツ・レクリエーション活動
- 4 高齢者や障がい者への手助けなどのボランティア活動
- 5 国際交流や環境保護などの市民活動
- 6 盆踊りや祭りなど地域の催し
- 7 地域での講演会や講座
- 8 仲間が集まって行う研究会や学習・趣味
- 9 審議会や運営委員会など行政の委員会
- 10 防災に関する地域の活動
- 11 その他 ()
- 12 特に参加していない

→【問12 で「1」から「11」と回答した方】

問12-1 地域活動への参加は、あなたの仕事にとってプラスになっていると思いますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 大いにプラスになっている | 4 あまりプラスになっていない |
| 2 ある程度はプラスになっている | 5 プラスになっていない |
| 3 どちらともいえない | |

問13 一般的に、男女がともに地域活動に参加するためにどのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 さまざまな立場の人が参加しやすいように活動時間などを調整すること
- 2 性別により役割や活動内容を区別せず、個人の能力や個性を生かすこと
- 3 家事や育児、介護等を男女で分担することにより、お互いが外に出られる条件をつくること
- 4 職員が地域活動に参加しやすいよう休暇をとりやすくなるなど、職場環境を整えること
- 5 活動するきっかけや仲間がいること
- 6 健康であること
- 7 男性が地域団体の活動に関心や積極性をもつこと
- 8 女性が地域団体の活動に関心や積極性をもつこと
- 9 その他 ()
- 10 わからない
- 11 特にない

4 仕事や職場に関することについておうかがいします

問14は、係長職以下の方(再任用職員・非常勤嘱託職員の方を除く)におうかがいします。

問14 あなたは、将来どのような役職にまでつきたいと思いますか。(〇は1つ)

1 管理職	4 特に昇進したいと思わない
2 係長職	5 その他 ()
3 主任職	



【問14で「2 係長職」、「3 主任職」、「4 特に昇進したいと思わない」と回答した方】

問14-1 管理職の職務を望まない理由はどんなことですか。(あてはまるものすべてに〇)

1 責任が重くなる	6 魅力を感じない
2 人事管理が煩わしい	7 期待されていない
3 家庭との両立が難しい	8 休暇が取りにくい
4 自分の能力に不安	9 その他 ()
5 現在の状況が自分に適している	

再び、全員の方におうかがいします。

問15 小金井市においては、現在、制度上の男女差はありませんが、実態はどう思いますか。

(各項目で〇は1つ)

	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	わからない
ア)仕事の内容・分担	1	2	3	4
イ)昇任・昇格の早さ	1	2	3	4
ウ)能力発揮の機会	1	2	3	4
エ)職場の情報伝達	1	2	3	4
オ)研修・勉強の機会	1	2	3	4
カ)人事異動	1	2	3	4
キ)全体的に	1	2	3	4

問16 あなたはこの1年間に職場でセクシュアル・ハラスメントやマタニティ・ハラスメント等を受けたことがありますか。または、受けた人を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

1 自分が受けたことがある	3 男性で受けた人を知っている
2 女性で受けた人を知っている	4 受けていないし、受けた人も知らない

問17 職場内でセクシュアル・ハラスメントやマタニティ・ハラスメント等を受けたときに、相談できる窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問18 あなたはふだん、次のようなことを心がけていますか。(各項目で○は1つ)

	心がけている	特にかがけてはいない	そのような職務は担当していない
ア) 事業(施策)の企画・立案や実施において、男女平等の視点を持つ	1	2	3
イ) 広報等において、男女平等の視点を持つ	1	2	3
ウ) 市民との接遇において、男女によって対応に差をつけない	1	2	3
エ) 市民との接遇において、性差別的な用語に気をつける	1	2	3
オ) 日ごろから、男女平等に関する学習や研修に参加している	1	2	3

5 男女平等をさらに進めるための方策などについておうかがいします

問19 あなたは、次のような場で男女が平等になっていると思いますか。(各項目で○は1つ)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
ア) 家庭生活	1	2	3	4	5	6
イ) 職場	1	2	3	4	5	6
ウ) 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
エ) 政治の場	1	2	3	4	5	6
オ) 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
カ) 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
キ) 自治会や地域サークルなどの地域活動の場	1	2	3	4	5	6
ク) 社会全体として	1	2	3	4	5	6

問20 あなたは、次の「ことがら」や「ことば」を知っていますか。(各項目で○は1つ)

		知っている	聞いたことがある	知らない
小金井市のこれまでの施策・取り組み	ア)こがねいパレット	1	2	3
	イ)情報誌「かたらい」	1	2	3
	ウ)男女共同参画講座(公民館)	1	2	3
	エ)女性総合相談	1	2	3
	オ)女性談話室(婦人会館内)	1	2	3
	カ)不平等や差別に対する苦情・相談窓口	1	2	3
	キ)男女平等都市宣言(平成8年12月に宣言)	1	2	3
	ク)小金井市男女平等基本条例(平成15年施行)	1	2	3
	ケ)小金井市第5次男女共同参画行動計画(平成28年策定)	1	2	3
男女共同参画に関わることは	コ)男女共同参画社会基本法	1	2	3
	サ)女子差別撤廃条約	1	2	3
	シ)ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3
	ス)男女雇用機会均等法	1	2	3
	セ)育児・介護休業法	1	2	3
	ソ)女性活躍推進法	1	2	3
	タ)東京都男女平等参画基本条例	1	2	3
	チ)ジェンダー	1	2	3
	ツ)LGBT(性的マイノリティ※1)	1	2	3
	テ)デートDV(恋人など親密な関係にある相手からの暴力)	1	2	3
	ト)JKビジネス(※2)	1	2	3
	ナ)リベンジポルノ(※3)	1	2	3
	ニ)セクシュアル・ハラスメント	1	2	3
	ヌ)マタニティ・ハラスメント	1	2	3
	ネ)パワー・ハラスメント	1	2	3
	ノ)ドメスティック・バイオレンス	1	2	3
	ハ)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
ヒ)リプロダクティブ・ヘルス・ライツ(性と生殖に関する健康・権利)	1	2	3	

※1:「体の性」と「こころの性」が一致しない状態の方や恋愛感情などの性的な意識が同性や両性に向かう方(同性愛、両性愛)、身体的には性別の区別がつかない方など

※2:大都市の繁華街を中心に女子高校生(JK)等によるマッサージ、会話やゲームを楽しませるなどの接客サービスを売り物とする営業が見られ、「JKビジネス」と呼ばれている

※3:交際中に撮影した元交際相手の性的画像等を撮影対象者の同意なくインターネット等を通じて公表する行為

問21 小金井市の設置する審議会や附属機関および行政委員会の委員数全体に占める女性委員の割合は32.3%(平成31年4月現在)です。このことについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

- 1 積極的に女性委員を増やした方がよい
- 2 将来的には増えた方がよいが、現状ではやむを得ない
- 3 増やす必要はない
- 4 適任であれば性別を問わなくてもよい
- 5 その他 ()

問22 あなたは、男女平等社会を実現するための市の施策として、今後、どのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 学校で平等意識を育てる教育の充実
- 2 男女平等への理解を深めるための大人の学習機会の促進
- 3 女性の再就職のための職業相談・学習機会の充実
- 4 女性が働きやすい環境づくりの促進
- 5 子育て支援策の充実
- 6 政策決定などへの女性の参画促進
- 7 まちづくりや防災分野などへの女性の参画促進
- 8 男性の生活・家事に対するスキルアップの支援
- 9 男女共同参画行動計画の普及と推進
- 10 男女平等都市宣言の普及と啓発
- 11 市職員の男女平等意識づくり
- 12 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の意識啓発
- 13 その他 ()
- 14 特になし

問23 近年、性的マイノリティ(9ページ参照)への対応が求められており、取組が進められている自治体もみられます。あなたは、このような動きがあることについて、どう思いますか。(○は1つ)

- 1 必要だと思う
- 2 必要だと思わない
- 3 わからない

【問23で「1 必要だと思う」と回答した方】

問23-1 性的マイノリティの方々が生活しやすくするために、あなたは自治体の取組としてどのような対応が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 市民や企業等に対して理解促進を図る
- 2 学校や、市役所の窓口での対応の充実を図るため、教員や市職員に対して研修等の充実を図る
- 3 相談できる窓口の周知を図る
- 4 トイレ等について利用しやすい環境づくりを図る
- 5 その他 ()
- 6 わからない

6 あなた自身のことについておうかがいします

F1 あなたの性別は。(○は1つ)

- | | | |
|------|------|--------|
| 1 女性 | 2 男性 | 3 そのほか |
|------|------|--------|

F2 あなたの年齢は。(○は1つ)

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|---------|
| 1 20歳代 | 2 30歳代 | 3 40歳代 | 4 50歳代 | 5 60歳以上 |
|--------|--------|--------|--------|---------|

F3 あなたは結婚していますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------------|---------------|-----------|
| 1 結婚している(事実婚を含む) | 2 死別または離別している | 3 結婚していない |
|------------------|---------------|-----------|

→【F3で「1 結婚している(事実婚を含む)」と回答した方】

F3-1 あなたのご家庭の現在の勤労形態はどれですか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|---|
| 1 共働き | |
| 2 本人のみ働いている | |
| 3 その他 (|) |

F4 あなたは、次の方と同居していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 就学前の子ども | 4 介護を必要とする方 |
| 2 小学生の子ども | 5 介護を必要としない65歳以上の方 |
| 3 中学生・高校生の子ども | 6 あてはまるものはいない |

F5 あなたの職層は。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|-----------|
| 1 管理職 | 3 主任職 | 5 再任用職員 |
| 2 係長職 | 4 主事職 | 6 非常勤嘱託職員 |

男女平等推進のための小金井市職員の意識調査 報告書

令和2年3月発行

発行：小金井市 企画財政部 企画政策課 男女共同参画室
〒184-8504 東京都小金井市本町6丁目6番3号
☎ 042 (383) 1111(代表)
<http://www.city.koganei.lg.jp/>
